



地域インターンシップ '22



本事業は、駿河台大学同窓会より、在学生のキャリア育成支援及び大学に対する援助を目的とすご寄附をいただき、全学部共通の授業科目『同窓会寄附講座「地域インターンシップ」』として実施運営しております。

地域インターンシップ' 22

【 目 次 】

ご挨拶	1
学 長 大森 一宏	
1. 地域インターンシップの意義	2
地域連携センター長 副学長 城井 光広	
2. 地域インターンシップの概要	3
3. 地域インターンシップ受け入れ	5
4. 2022年度受け入れ受諾先一覧	6
5. 諸手続き	7
6. 送付書類様式	7
7. インターンシップ実習をふりかえって	15
8. 地域インターンシップ報告会	103
9. 企業・団体が求める人物像（社会人インタビューの実践）	105
10. 駿大社会人基礎力による効果測定	109
インターンシップ実習風景	巻末

ご挨拶

駿河台大学学長
大森 一宏

現在世界は、ロシアによるウクライナ侵攻と戦争の長期化、国際的な物価上昇、気候変動などによる災害の多発などにより揺れ動いています。また、新型コロナウイルスの蔓延も長期化しており、なかなか収束の見通しがつかない状況が続いています。私たちを取り巻く社会は目まぐるしく変動しており、例えば人工知能（AI）などの技術革新により、今行われている多くの職業における仕事の内容や質などは、近い将来、少なからぬ変化を余儀なくされるものと思われまます。

こうした社会状況の中で大学に求められているのは、いつの時代にも陳腐化しない普遍的な能力を身に付けた人材の育成です。本学では、考える力、行動に移す力、協働する力などから成るそうした能力を「駿大社会人基礎力」と称して、教育活動全体を通じて育成することにしてはいますが、とりわけ地域を教室に、地域の方を教師にして、地域から学ぶ実践的な教育によって、この「基礎力」を涵養することに力を注いでまいりました。その背景には、埼玉県西部の地域社会に根ざした大学として、地域の中核的人材を育成することが本学のミッションであるとする考え方があります。本学のインターンシップが、「地域インターンシップ」と呼ばれ、大学の近隣の地域を中心とした企業・団体と大学が協力して、教育の一環として実施しているのも、そうした考え方に基づくものです。

また、このインターンシップは、本学の同窓会の寄附講座であるとともに、事前研修、実習、事後研修などの場において、本学卒業生から多大なご協力を仰いでいることにも特徴があります。開学 35 年を経て、地域で活躍する同窓生たちの層が厚くなり、この「地域インターンシップ」をはじめとする本学の教育の発展を支える上で、同窓会・同窓生の皆様が大きな柱となっていることは、教育に携わる者の一人として、心からうれしく、感謝しているところです。

今年度におきましても、インターンシップ実習生を受け入れていただいた地域の企業・自治体等の皆様には、学生の個性に即した丁寧なご指導により、その成長を支援していただきました。この報告書を手にとられる皆様におかれましては、地域と大学が一体となって行う本学のユニークなインターンシップを通じて、学生たちが成長し、一段と逞しくなった姿を感じ取っていただければと存じます。

最後になりましたが、あらためまして、コロナ禍のたいへんな中で、本学学生をこころよく受け入れていただきました企業・自治体・団体の皆様に心よりお礼を申し上げますとともに、今後とも本学の地域インターンシップの取組に変わらぬご高配を賜りますようお願い申し上げます。

1. 地域インターンシップの意義

地域連携センター長
副学長 城井 光広

無人レジに代表されるように多くの業界で機械による省力化が目立ったように思われます。この数年人手不足が進んでおります。今は、有人には劣るものですが、ビッグデータ・人工知能等の活用と合わせ、早晚には、多くの仕事が機械による自動化に置き換えられ、現在ある職種の淘汰や新しい職種の出現が訪れることでしょう。新型コロナウイルスに対応するニューノーマルな時代への対応も進んでいます。社会の大きな変革期のまただ中で、中・長期的なキャリアパス形成が難しくなっています。また、人手不足は、早期人材確保に拍車をかけ、就職活動の動きは年々早まる一方です。その結果、準備不十分なまま就職し、入社後のミスマッチによる早期退職が危惧されます。

インターンシップは、これに参加することで、就職活動前に実際の職場で働き、現場を知ることができ、社会人として働くために必要な能力が身についているか、志望する業界の働き方や必要な専門知識を知ることができます。その点で、キャリア形成に於いては意義ある取り組みであり、多くの大学生が参加すべきです。ただし、最近では、採用活動の第一歩として1・2日の短期インターンシップを使う企業が増え、インターンシップ本来の目的を十分に達成できるか疑問なものも見かけるようになりました。本学が2004年から取り組んできた「地域インターンシップ」は、現代社会が強く要請する課題解決に向けた能力育成のためのキャリア教育プログラムの中核をなすもので、特色の一つは、本学の学生の学びと成長の機会の提供という主旨をご理解いただいた埼玉県西部地域の企業・団体のご支援・ご協力を基盤としていることです。もう一つの特徴は、大学におけるキャリア教育の一環として事前および事後の指導をしっかりと行い、実習を単なる職場体験で終わらせず、社会が何を求めているのかを学生が肌で感じ、その後の成長につなげているところです。このように、地域を主体的な学びの場としていることから名称に「地域」を加えている次第です。

この取り組みは今年で19年目を迎え、学生の育成にご理解・ご協力いただける多くの企業・団体のおかげで、今年度も全学で80名を超える学生が参加することができました。企業による短期インターンシップが増える中で、地域の皆様からの協力のもとでじっくりと学生の成長を促す地域インターンシップは、大学が正課教育として取り組むインターンシップのモデルになるものと考えております。この記録集をご覧くださいと、参加した学生らが、悩みながらも自ら見いだした課題に取り組みながら成長していく姿を読み取っていただけるものと思います。

このように本学独自のインターンシップ・プログラムが充実した内容へと発展できましたのは、プログラムに賛同いただける企業をご紹介いただいた飯能信用金庫、本学学生をこころよく受け入れていただきました企業・団体、資金面で援助くださる駿河台大学同窓会など多くの皆様のお力添えがあつてのことです。改めて厚く御礼を述べさせていただきますとともに、今後とも本学の地域インターンシップの取り組みに変わらぬご高配を賜りますようお願いする次第です。

2. 地域インターンシップの概要

(1) 目的

- ① 高い職業意識の育成—就業体験を積むことにより学生が自己の職業適性や将来設計を考える機会を得、主体的な職業選択や高い職業意識の育成を図る。
- ② 自立心・責任感のある人材の育成—就業体験を積み、自分を現実の社会との関係の中に位置づけ、専門分野における高度な知識・技術にふれながら実務能力を高めることは自立的に考え行動できる人材の育成につながる。
- ③ 専門能力・技能に対する学習意欲の向上を図る。
- ④ 大学における教育内容・方法の改善・充実—実社会・産業界が求める人材像を大学側に伝えることにより産学が連携して人材を育成することが可能となる。

(2) プロセス

① 学生の参加申込（4月）

地域インターンシップは、「地域インターンシップ/インターンシップⅠ」という授業として実施されるため、他の授業同様、履修登録をしなければなりません。これが、参加の申込みとなります。

② 事前研修・事後研修（4月～10月）**2022年度実績**

	月 日	テーマ	講師
第1回	4月16日	授業内容ガイダンス さわやかなあいさつ	新井 克明同窓会長 担当者全員
第2回	4月23日	働くことの意味	(株)クリエイトワン 佐藤 大一郎
第3回	5月7日	公務員の仕事	飯能市役所
第4回	5月14日	「正しい姿勢・笑顔」講習+α	(株)ラック 橋本 明日香
第5回	5月21日	採用の立場から	昭和工業 (株) 高倉 元明
第6回	5月28日	相談会（インターンシップ実習先・就職・その他）	担当者全員 (株)クリエイトワン 佐藤 大一郎
第7回	6月4日	実習先オリエンテーション	担当者全員
第8回	6月11日	面接への対応	担当者全員 (株)クリエイトワン 佐藤 大一郎
第9回	6月18日	「地域インターンシップ」を履修した先輩（4年次生）の体験談	橋本 裕輝、前澤 明日香
第10回	6月25日	マナー講座（名刺の渡し方・電話のかけ方など）	キャリアセンター 石橋 英理講師
第11回	7月2日	マッチング	参加企業・団体 担当者全員
第12回	7月16日	事前注意「注意事項」・「報告書の書式」	担当者全員
8月7日～9月15日まで		インターンシップ実習	
第13回	9月17日	プレゼンテーションの心構え	担当者全員
第14回	9月24日	リハーサル	担当者全員
第15回	10月6日	報告会	担当者全員

- ③ **事前研修**（4月～7月）：企業・団体で活躍されている方々を特別講師に迎え、実体験に基づいた講義を行っていただくことを通じて、「働くことの意味」、「働く上での心構え」などを考える機会を提供する。
- ④ **インターンシップ実習**（8月～9月）：各企業・団体で約2週間の就業実習を行う。実習期間中は、**実習日誌**をつけることで、日々の実習内容を自己確認する。この実習日誌は、実習終了後に提出させる。
- ⑤ **事後研修**（9月～10月）：就業体験についてレポートを提出させる（9月末）。また、発表についての指導、リハーサルを行った上で、公開の**報告会**（10月）において、

自らの就業体験についての報告発表を行う。これにより、実習での学びをより確かなものとするとともに、プレゼンテーション能力の伸長を図る。

(3) 概 要 (2022年度実績)

- ① 科 目 名：地域インターンシップ/インターンシップ I
- ② 実習学生：法学部・経済経営学部・メディア情報学部・スポーツ科学部・心理学部の2～3年次生
- ③ 実習人数：84名
- ④ 実習期間：約1～2週間
- ⑤ 報 酬 等：無給、交通費・昼食代は学生自弁

(4) 保険の加入

- ① 本学学生は全員が公益財団法人日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」「学研災付帯賠償責任保険」に加入しているので、正課であるインターンシップの授業中及び実習中の災害については同保険約款の範囲内で保険金が支払われる。
- ② 賠償責任保険の内容は下記のとおりです。

保 障 内 容	賠償責任：対人賠償と対物賠償合わせて1事故につき1億円限度 災害傷害：死亡保険金2,000万円限度 後遺傷害保険金120万円～3,000万円限度
保 険 期 間	加入（入学時）から大学卒業予定年次まで

3. 地域インターンシップ受け入れ

(1) 受け入れのメリット

受け入れをお引き受けいただきますと、いろいろご負担をおかけすることになるかと思えます。しかし、日本の未来は、若者の手に委ねられております。これから輝かしい経済社会をつくりあげていく若者を社会全体で育てていくという趣旨をご理解いただき、ご協力いただければ幸いです。

また、インターンシップを受け入れていただいた企業・自治体からは、次のようなメリットがあったと報告を受けております。

- ① 「学生の指導に当たる社員・職員が、仕事を系統だてて教えることを通して、自分たちの普段の仕事をチェックすることに繋がる。仕事を振り返る、より深く理解するきっかけとなる。」インターンシップでの指導が業務改善、業務革新の端緒を開くことも稀ではありません。「教えること」は「学ぶこと」に繋がります。
- ② 学生の目で感じた意見を聞くことによって、職員・社員の意識改革に繋がる。また、本学の学生総数は約4千名であり、若者市場として、また若者対象製品の市場調査の対象として、格好の素材を提供しています。「消費者ニーズを探る課題」を企業が学生に提供し、その調査課題を学生がこなす形での、インターンシップも可能です。

(2) 受け入れの際のお願い

インターンシップを受け入れていただく際に、次の点にご配慮いただければ幸甚です。インターンシップ参加学生に与える課業(仕事)は、以下の点を考慮していただき、受け入れ側の実情に応じてお決めいただいて結構です。

- ① 期間が短期であること
- ② 学生は現金報酬を目的としないこと
- ③ 学生が将来、職業選択する際に有用な職業観、仕事意識を涵養できること

基本的には、補助的、アシスタント的な仕事を中心になるかと思えます。例えば、学生は、ワープロ、表計算の基礎を修得していますので、当該能力を活用した集計作業等は容易にできると思えます。

その際、作業それ自体の指示に加え、当該作業が企業、官庁等の組織全体の仕事の中で占める役割を事前、事後にご教示いただければ幸いです。全体の仕事の流れのなかで、学生が担う仕事の位置をお教えいただくこととなります。さらには、そのような仕事を覚えた後に課される仕事の種類、内容そしてそのような仕事をこなすのに必要とされる技能とその修得方法についてもお教えいただきたくお願いいたします。そうすれば、学生は一つの仕事から組織全体を見通すことができ、たとえ単純作業ではあってもモチベーションは上がるかと思えます。

あるいは、消費者、利用者の一員として若い世代の学生のセンス、感覚を問うような仕事を課することもできます。消費者ニーズの調査、企画立案等の課題を学生に与え、回答を求めることが、その一例です。課題の内容如何では、教員からアドバイスを行い、回答の質を高めることもできます。

4. 2022年度受け入れ受諾先一覧（○は2022年度実習実施先）

（自治体関係） ※選考あり

団体名		実習	人数
入間市 関連団 体	入間市商工会	○	1
	入間市役所	○	1
狭山市役所		※	0
所沢市役所		○	3
飯能市役所		○	9
日高市役所		○	1
計			15

（企業等）（五十音順）

地区名	企業名	実習	人数
上尾市	(株)ニチネン		0
入間郡	JGMおごせゴルフクラブ	○	1
	三光産業(株)		0
入間市	(株)いわさき	○	2
	(福)永仁会		0
	ケミテックテクニカル(株)		0
	(福)茶の花福祉会	○	1
	ツインスターテクノロジー(株)	○	3
	司産業(株)		0
	(福)羽博会	○	2
	(株)間野製作所		0
	(株)武蔵臨床検査所	○	2
	吉岡製油(有)		0
	川越市	岩堀建設工業(株)	
小林税理士事務所		○	1
税理士法人サム・ライズ		○	2
三光建設(株)		○	1
昭和工業(株)			0
(株)長谷川製作所		○	1
(株)ホンダプロモーション		○	2
(株)ヤオコー		○	2
さいたま市	(有)クレイズ		0
坂戸市	啓装工業(株)		0
狭山市	(株)小見山商事		0
	(株)スズキトラスト	○	1
	(福)靖和会特別養護老人ホームつつじの園		0
	(株)フィールドプロテクト		0
	(株)ホンダカーズ埼玉西	○	2
秩父郡	(株)ENgaWA	○	3
所沢市	ウチノ看板(株)	○	1
	(株)エステート白馬	○	2
	(有)カイゴ		0
	(福)桑の実会	○	1
	燦クリーン(株)		0

地区名	企業名	実習	人数
所沢市	(株)大黒屋		0
	(株)ピーオーエス	○	2
	本橋環境計画(株)		0
	(福)陽明福祉会陽明保育園	○	1
飯能市	赤門塾(株)	○	2
	雨間造園土木(株)		0
	(株)ヴェルペンファルマ	○	2
	(一社)奥むさし飯能観光協会	○	2
	(株)加藤建設工業		0
	(株)金子組		0
	Fun Space(株)さわらびの湯	○	1
	新電元メカトロニクス(株) /武蔵工業(株)	○	2
	西武ガス(株)	○	1
	鳥居観光(株)	○	1
	(特非)名栗カヌー工房	○	2
	埼玉県立名栗げんきプラザ	○	1
	(特非)ぬくもり福祉会たんぼぼ	○	1
	飯能ケーブルテレビ(株)	○	1
	飯能資材(株)		0
	(特非)飯能市スポーツ協会	○	1
	飯能信用金庫	○	2
	飯能精密工業(株)	○	1
	細田建設(株)		0
	(有)間柴メディカルサー ビス		0
	(株)松下製作所	○	2
	(株)ムーミン物語	○	2
	東松山市	(株)ダスキんくりはら	○
比企郡	(株)温泉道場	○	2
	(株)ワイエム紙販		0
日高市	(株)アイムホーム		0
	(株)旭フーズ		0
	(株)酒商増田屋 白井運送(株)	○	2
富士見市	(株)松本商会	○	1
青梅市	(福)青芳会		0
立川市	(株)ミート・コンパニオン	○	1
東大和市	(株)タカキ		0
東京23区	(株)共立メンテナンス	○	1
	(株)サンエー印刷	○	2
	東明興業(株)		0
	幼児活動研究会(株)	○	2
計			69

5. 諸手続き

(1) 受け入れ依頼【3～4月】

依頼文書「インターンシップ実習生の受け入れについて（ご依頼）」を受け入れ先代表者宛にお送りいたします。「受入承諾書」（様式1）を同封いたしておりますので、記入の上ご返送願います。

(2) 実習生の確定【7月上旬】

受け入れ受諾先からご返送いただいた「受入承諾書」の内容を事前研修の中で学生に周知し、マッチングを経て派遣学生を決定します。

なお、派遣学生は、公益財団法人日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」「賠償責任保険」に加入しております。

(3) 誓約書の送付と協定書（覚書）の締結【7月中旬】

受け入れ先に対し、学生が提出した「実習生身上書」（様式3）、「誓約書」（様式4）をお送りいたします。

さらに、本学学長名で作成した「インターンシップに関する覚書（協定書）」（様式2）を2通お送りいたしますので、捺印の上1通を本学にご返送願います。

(4) 実習先訪問【8月～9月中旬】*

実習前又は実習期間中に各学部インターンシップ担当教員がご挨拶に伺います。なお、実習期間中には学生にインターンシップ実習日誌（様式5）（冊子になっています）を毎日提出させますのでご確認・ご指導いただければ幸いです。

(5) 連絡先

駿河台大学 地域連携課

〒357 - 8555 埼玉県飯能市阿須 698

Tel. 042-972-1181 Fax. 042-972-7767 E-mail: tiiki@surugadai.ac.jp

*2022年度は新型コロナウイルスの影響下、中止といたしました。

6. 送付書類様式

(様式1) 「受入承諾書」

(様式2) 「インターンシップに関する覚書（協定書）」「覚書別紙」

(様式3) 「実習生身上書」

(様式4) 「誓約書」

(様式5) 「インターンシップ実習日誌（抜粋）」

インターンシップに関する覚書

《企業・団体名》(以下「甲」という。)と駿河台大学(以下「乙」という。)は、駿河台大学インターンシップの実施に関し、下記のとおり覚書を締結する。

記

1 インターンシップ実習生の受け入れ

甲は乙のインターンシップ実施要領及び依頼に基づき、乙の学生をインターンシップ実習生(以下「実習生」という。)として受け入れる。

2 実習条件等

(1) 実習内容 インターンシップの趣旨を踏まえ、甲により決定する。

(2) 賃 金 無給とする。

(3) 交通費等 乙又は実習生の負担とする。

(4) 服務規律 原則として甲の服務関係規定に従うこととする。

3 実習生の災害等

実習中又は通勤途上の災害については、乙又は実習生において処理することとし、甲は一切の責任を負わない。

4 守秘義務

実習生は実習中に知り得た秘密や個人情報を一切他人に漏洩してはならない。

5 実習の中止

甲は、甲又は実習生の事情により実習の継続が困難と判断する場合は、乙と協議のうえ実習を中止することができる。

6 協議

この覚書に定めのない事項及びこの覚書に関して生じた疑義については、その都度甲、乙協議して定めるものとする。

上記を証するため、本書2通を作成し甲、乙それぞれ1通を所持することとする。

年 月 日

所在地
甲 受入先
代表者名

印

所在地 埼玉県飯能市大字阿須字一の木698番地
乙 大学名 駿河台大学
代表者名 学長 大森 一 宏

(様式2)

覚書別紙 (大学へ提出)

実 習 生 氏 名	《学籍番号》 《学生氏名》 (《フリガナ》)		
実 習 期 間 及 び 休 日		休日 :	
実 習 時 間			
実 習 場 所			
実 習 内 容			
備 考			
加 入 保 険	災 害 傷 害	保 険 加 入 団 体	公益財団法人 日本国際教育支援協会
		保 険 期 間	加入 (入学時) から大学卒業予定年次まで
		補 償 金 額	死亡保険金 : 2,000万円限度 後遺傷害保険金: 120万円*~3,000万円限度 *入学年度により金額が異なる
	賠 償 責 任	保 険 加 入 団 体	公益財団法人 日本国際教育支援協会
		保 険 期 間	加入 (入学時) から大学卒業予定年次まで
		補 償 金 額	対人賠償・対物賠償 : 合わせて1事故につき1億円限度
そ の 他			

《企業・団体名》(No.)

駿河台大学実習生身上書

年 月 日 現在

フリガナ		性別	男・女	写真貼付欄 (縦4cm×横3cm) ※スーツ姿かつ黒髪で撮影した写真を貼付ける
氏名				
生年月日	年 月 日 (満 才)			
所属	学部	学科	年	学籍番号
出身校	都・道 立 高等学校			年卒業
	府・県			年合格
現住所	〒			
	TEL① (携帯) () TEL② (自宅) () メールアドレス:			
帰省地	〒			
インターンシップ実習を希望する理由	TEL ()			

通勤手段 (経路)・ 所要時間	約 時間 分			

誓 約 書

年 月 日

私は、駿河台大学が開講するインターンシップ科目の履修に伴う《企業・団体名》が実施する実習への参加に当たり、下記の事項を厳守することを誓います。

記

- 1 実習期間中は、駿河台大学の指導要領及び指導を遵守し、《企業・団体名》の指示に従う。
- 2 実習に際しては、次の事項を遵守する。
 - (1) 《企業・団体名》の名誉を毀損するような言動は行わない。
 - (2) 《企業・団体名》の営む事業を阻害するような言動は行わない。
 - (3) 実習上知り得た《企業・団体名》の機密に属するものは、一切漏洩しない。
- 3 故意または過失により、《企業・団体名》に損害を与えた場合は、直ちに弁償する。
- 4 実習中の《企業・団体名》の責に帰さない事故、災害については、《企業・団体名》に迷惑をかけることなく自己の責任において処理する。

以上、誓約します。

大学名	駿河台大学
学部名	《学部学科》
学籍番号	《学籍番号》
学生氏名	《学生氏名》 ㊞

《実習先》No.《企業 No》

7. インターンシップ実習をふりかえって

入間郡

JGM おごせゴルフクラブ …………… 19
滝川 叶太

入間市

入間市商工会…………… 20
駒場 英樹
入間市役所…………… 21
角島 悠太
(株)いわさき…………… 22
庄司 みゆ、葛野 桃英
(福)茶の花福祉会…………… 24
石川 若菜
ツインスターテクノロジー(株)…………… 25
網 匠未、原口 和久、板倉 百花
(福)羽搏会…………… 28
鶴田 涼也、若月 優奈
(株)武蔵臨床検査所…………… 30
富岡 勇眞、樋口 雄大

川越市

小林税理士事務所…………… 32
小田桐 萌香
税理士法人サム・ライズ…………… 33
野口 楓恋、原田 紗希
三光建設(株)…………… 35
塚田 誠来
(株)長谷川製作所…………… 36
細野 珠瑠
(株)ホンダプロモーション…………… 37
高橋 柊人、鈴木 寛人
(株)ヤオコー…………… 39
松村 理久、安並 正晴

狭山市

(株)スズキトラスト…………… 41
小川 亜希斗
(株)ホンダカーズ埼玉西…………… 42
柴田 翔太朗、宮永 侑奈

秩父郡

(株)ENgaWA…………… 44
高坂 陽輝、栗原 朝陽、岩田 颯希

所沢市

ウチノ看板(株)…………… 47
川崎 晃弥
(株)エステート白馬…………… 48
江田 桜輔、井上 実波
(福)桑の実…………… 50
田中 綾斗
所沢市役所…………… 51
三浦 大祐、山口 舞子、田中 杏
(株)ピーオーエス…………… 54
芝田 結衣、原口 真利亜
(福)陽明福祉会陽明保育園…………… 56
若田部 佳紀

飯能市

赤門塾(株)…………… 57
TRAN MAI TRUC QUYNH、BUI THI NGOC CHAM
(株)ヴェルペンファルマ…………… 59
高瀬 渚、宿澤 明日香
(一社)奥むさし飯能観光協会…………… 61
堀田 珠妃、大石 和宏
Fun Space(株) さわらびの湯…………… 63
NGUYEN TUAN ANH
新電元メカトロニクス(株)・武蔵工業(株) …… 64
近藤 雄太、舞木 司
西武ガス(株)…………… 66
本橋 優希
鳥居観光(株)…………… 67
小林 俊介
NPO 法人名栗カヌー工房…………… 68
吉永 華穂、権藤 千美
埼玉県立名栗げんきプラザ…………… 70
齊藤 江紀
NPO 法人ぬくもり福祉会たんぼぼ…………… 71
小田川 茜
飯能ケーブルテレビ(株)…………… 72
大石 雄生
NPO 法人飯能市スポーツ協会…………… 73
石川 汰暉
飯能市役所…………… 74
小嶋 揺楽、齋藤 大夢、田村 優稀
松本 諒平、齋藤 壮志、鴨下 遼太、
山崎 遼太、吉田 早希、高橋 啓尊
飯能信用金庫…………… 83
市川 雄大、小谷野 妃菜
飯能精密工業(株)…………… 85
久保田 彩花
(株)松下製作所…………… 86
高橋 駿希、又吉 妃和
(株)ムーミン物語…………… 88
相子 夏輝、白田 あかり

東松山市	
(株)ダスキンくりはら	90
小堀 隆仁	
比企郡	
(株)温泉道場	91
大森 公聖、藤森 悠衣	
日高市	
(株)酒商増田屋	93
横山 絢人、伊藤 彩花	
日高市役所	95
小谷野 匠実	
富士見市	
(株)松本商会	96
内山 諒	
立川市	
(株)ミート・コンパニオン	97
堀越 美羽	
東京都 23 区	
(株)共立メンテナンス	98
神頭 元気	
(株)サンエー印刷	99
岡庭 レイ、永岡 葵	
幼児活動研究会(株)	101
中山 怜斗、山関 貴大	

※地域は、受入企業・団体の代表住所で分類
(実習地と異なる場合もある。)

※地域、地域内の企業・団体は五十音順

※学生名は学部・学年の五十音順

出身学校 ※学生氏名は掲載頁順

学生氏名	出身学校名	頁
滝川 叶太	長野県上田東高等学校	19
駒場 英樹	八戸聖ウルスラ学院高等学校	20
角島 悠太	武蔵越生高等学校	21
庄司 みゆ	新発田中央高等学校	22
葛野 桃英	立川女子高等学校	23
石川 若菜	聖望学園高等学校	24
網 匠未	栃木県立黒磯高等学校	25
原口 和久	埼玉県立羽生第一高等学校	26
板倉 百花	東京都立武蔵丘高等学校	27
鶴田 涼也	埼玉県立川越総合高等学校	28
若月 優奈	新潟県立柏崎高等学校	29
富岡 勇真	埼玉県立狭山工業高等学校	30
樋口 雄大	新潟県立新津高等学校	31
小田桐 萌香	東京都立板橋有徳高等学校	32
野口 楓恋	埼玉県立宮代高等学校	33
原田 紗希	埼玉県立和光国際高等学校	34
塚田 誠来	埼玉県立坂戸西高等学校	35
細野 珠瑠	埼玉県立鶴ヶ島清風高等学校	36
高橋 柊人	茨城キリスト教学園高等学校	37
鈴木 寛人	東京都立東村山高等学校	38
松村 理久	明和県央高等学校	39
安並 正晴	東日本国際大学附属昌平高等学校	40
小川 亜希斗	埼玉県立越谷西高等学校	41
柴田 翔太郎	埼玉県立坂戸西高等学校	42
宮永 侑奈	長野県大町岳陽高等学校	43
高坂 陽輝	東京都立保谷高等学校	44
栗原 朝陽	矢板中央高等学校	45
岩田 颯希	栃木県立宇都宮清陵高等学校	46
川崎 晃弥	埼玉県立進修館高等学校	47
江田 桜輔	樹徳高等学校	48
井上 実波	埼玉県立浦和商业高等学校	49
田中 綾斗	埼玉県立豊岡高等学校	50
三浦 大祐	青森県立木造高等学校	51
山口 舞子	埼玉県立所沢西高等学校	52
田中 杏	新潟市立万代高等学校	53
芝田 結衣	銚子市立銚子高等学校	54
原口 真利亜	埼玉県立秩父農工科学高等学校	55
若田部 佳紀	わせがく高等学校	56
TRAN MAI TRUC QUYNH	NGUYEN TRAI 高等学校	57

学生氏名	出身学校名	頁
BUI THI NGOC CHAM	外国の学校等	58
高瀬 渚	栃木県立宇都宮清陵高等学校	59
宿澤 明日香	東京都立五日市高等学校	60
堀田 珠妃	東京都立板橋有徳高等学校	61
大石 和宏	東京都立小平西高等学校	62
NGUYEN TUAN ANH	外国の学校等	63
近藤 雄太	埼玉県立狭山工業高等学校	64
舞木 司	宇都宮短期大学附属高等学校	65
本橋 優希	東京都立片倉高等学校	66
小林 俊介	正則高等学校	67
吉永 華穂	埼玉平成高等学校	68
権藤 千美	福岡第一高等学校	69
齊藤 江紀	新潟県立佐渡高等学校	70
小田川 茜	日々輝学園高等学校	71
大石 雄生	東京都立東大和高等学校	72
石川 汰暉	東京都立第四商業高等学校	73
小嶋 揺菜	埼玉県立狭山経済高等学校	74
齋藤 大夢	群馬県立前橋南高等学校	75
田村 優稀	埼玉県立坂戸西高等学校	76
松本 諒平	埼玉県立川口東高等学校	77
齋藤 壮志	中央国際高等学校	78
鴨下 遼太	埼玉県立飯能高等学校	79
山崎 遼太	埼玉県立坂戸西高等学校	80
吉田 早希	常磐高等学校	81
高橋 啓尊	文星芸術大学附属高等学校	82
市川 雄大	埼玉県立狭山経済高等学校	83
小谷野 妃菜	山村国際高等学校	84
久保田 彩花	松商学園高等学校	85
高橋 駿希	栃木県立黒磯高等学校	86
又吉 妃和	沖縄県立読谷高等学校	87
相子 夏輝	埼玉県立飯能高等学校	88
白田 あかり	札幌新陽高等学校	89
小堀 隆仁	埼玉県立上尾橘高等学校	90
大森 公聖	埼玉県立狭山緑陽高等学校	91
藤森 悠衣	埼玉県立坂戸高等学校	92
横山 絢人	東京学館新潟高等学校	93
伊藤 彩花	自由の森学園高等学校	94
小谷野 匠実	埼玉県立入間向陽高等学校	95
内山 諒	新潟産業大学附属高等学校	96
堀越 美羽	群馬県立沼田女子高等学校	97

学生氏名	出身学校名	頁
神頭 元気	山村学園高等学校	98
岡庭 レイ	東京都立芦花高等学校	99
永岡 葵	白梅学園高等学校	100
中山 怜斗	本庄第一高等学校	101
山関 貴大	大東文化大学第一高等学校	102

滝川 叶太

(法学部 長野県上田東高等学校)

【株式会社おごせロイヤル】

JGM おごせゴルフクラブは、コースのレイアウトが自然環境と見事に溶け合った伝統的なスコットランド風の作りになっており、プレーヤーのチャレンジ精神を引き立てるようになっていきます。初心者から上級者まで幅広く楽しめるほか、都心からも近く、平日・休日どちらも楽しめるゴルフ場です。

【実習期間：8月22日～24日】

JGM おごせゴルフクラブインターンシップ

私は、今回のインターンシップ実習で、三部署を三日間に分けて回りました。初日はプレーのイン・アウトスタートの管理やゴルフクラブをお客様に返却するという仕事、二日目はゴルフ場にあるレストランで食器を片付けたり、お客様におしぼりをもっていったりする仕事を行いました。最終日は、フロントでお客様の精算や景品を作成する仕事を行いました。

この実習中、私は、きれいに整備され、快適にゴルフをプレーできる環境がどのように整えられているのか、表と裏からしっかり学ぶことができました。特に、裏でゴルフ場を支えるためにどんな苦労がなされているのかは、はじめはわかりませんでした。しかし、実習を通じて、プレーをするお客様に対して多くのゴルフ場スタッフが様々に連携し、それぞれの仕事をこなすことで、一つの大きなゴルフ場が運営されていることがわかりました。たとえば、初日に実習をした部署（マスター室業務）では、パソコンにおいてお客様の前半・後半のプレーのスタート時間や昼食時間が分単位できっちりと決められていて、すべてのお客様が同じ料金で平等にプレーを楽しめるように工夫がされていました。このような工夫の一つ一つが、大きな施設を円滑に回す要因なのだなと感じました。

私がこの実習で得た最も大きな事は、お客様一人一人に笑顔で帰ってもらうためには個の力ではなく個がまとまった大きな力が必要なのだということです。個の力というのは会社や組織で働く社員ひとりひとりのことで、大きな力というのは様々な業務についている社員すべての力ということです。例えば、ゴルフを楽しむためには、キャディーさんやフロントのスタッフなど、表に出て仕事をする人達も大切ですが、コースの芝の手入れや草刈りをおこなってコースをきれいに保つ仕事をする人達など、決して表に出て直接お客様と接することはなくとも、裏で地道に働いている人たちも、お客様を笑顔にするためには必要であると学びました。将来私がどこに就職したとしても、会社や社会は私一人の力でどうにかなるものではなく、様々な職場の人達が一つになった大きな力によって動いていくのだなと感じました。

最後になりましたが、実習中至らないとこだらけの私の指導をしてくださったおごせロイヤルのスタッフの皆さんに心より感謝したいと思います。ありがとうございました。

駒場 英樹

(心理学部 私立八戸聖ウルスラ学院高等学校)

【入間市商工会】

入間市商工会は、「商工会法」に基づき、県知事の許可を得て設立されている特別認可法人です。商工業者の経営や金融などの相談に応じ、支援するだけでなく、商工業の振興や地域の活性化のために、講習会や、商工祭等を開催しています。

【実習期間：8月22日～26日】

小さな仕事にも意味がある

私は、入間市商工会にて、五日間のインターンシップ実習を行わせていただきました。私は、将来、人を助け、支えるような仕事に就きたいと考えており、地域や商工業者の方のために働く商工会ならば、その働き方のアイデアを学べると思ったからです。

初日には、まず、事務局長から商工会についての説明をしていただきました。その後、会員である商工業者の皆さまへ書類を送る準備として、封筒へのラベル貼り、書類の封入作業を行わせていただいた他、会員名簿を確認し、労働保険の委託日をエクセルの表に入力する作業などを行わせていただきました。

これらの実習を行っている中で、重要だと感じたことが二つあります。

一つ目は、どんな仕事にも意味があるということです。封筒にラベルを貼り、書類を封入する作業では、200枚以上ある封筒と書類を自分一人で処理しなければなりません。そのため、最初は、どれだけ早く終わらせられるかという点だけを重視していました。しかし、指導担当者の職員の方から、この作業は、単純で地味な作業ではあるが、商工会の業務の中ではかなり重要な仕事であると教えていただいたことで、ただ早くこなすことだけしか考えていなかったことを反省しました。ラベルが綺麗に貼られていなかったり、書類の封入ミスがあったりするだけでも、そのひとつひとつが商工会と会員の商工業者の方々との信頼関係に関わるのだということを理解しました。そして、同時に、そんな重要な仕事を任されているということの責任も感じました。それからは、効率だけでなく、丁寧さも意識して業務に励むことができました。

二つ目は、見直しの大切さです。エクセルの表に日付を入力する作業では、入力漏れがあったために、完成に時間がかかってしまいました。そのために、次の作業に取り掛かるのが遅れてしまいました。このことから、見直しをすることは、ミスを減らすだけでなく、時間を有効に活用するためにも重要なことだと学びました。

この五日間の実習を通して、どんなに小さく地味な仕事でも必ず価値があること、そして、会社はそういった仕事で築き上げられた信頼関係の上で成り立っているということを理解できました。事務局での作業だけでなく、市のケーブルテレビ局や社会福祉協議会でお話を聞くことができたのも、商工会が様々な商工業の方々と信頼関係を築いてきたからだと思いました。

お忙しい中、貴重な時間を割いてご指導して下さった入間市商工会の皆様、本当にありがとうございました。

角島 悠太

(法学部 私立武蔵越生高等学校)

【入間市役所 総務部 市民税課】

入間市役所総務部市民税課は、主に税金に関する事務を行う部署で、個人市民税を扱う市民税担当とその他の税金を扱う諸税課とに分かれます。そのうち、諸税課は、原付の登録や軽自動車税の徴収、課税証明書の発行、税の作文の募集なども行っており、諸税課の業務は多岐に渡ります。【実習期間：8月22日～26日】

市民の為に働く事の大切さ

私は、入間市に10年以上暮らしており、その入間市に貢献できる仕事として、入間市役所の職員を志望しています。今回のインターンシップ実習は、その入間市役所での実習であり、入間市役所がどのような業務を行っているのか、実際の仕事を体験する中で学ぶことができる貴重なチャンスだと考え、そのチャンスを活かすためにも、実習に全力をもって臨もうと思いました。

入間市役所では、5日間実習を行いました。その内、1日目の午後から3日目までが、配属された市民税課での実習となりました。実習の1日目は、まず、市民税課の業務内容、そして税に関する説明を受け、市民税課での仕事の基礎知識を学びました。2日目の午前中は、市役所の地下にある書庫において、様々な書類の整理、特に、保存期間を過ぎた書類の処理や書類の並び換えの仕事をしました。大量の書類を前にして感じたことは、市役所の職員は表からは見えないところでたいへんな努力を積み重ねているということです。2日目の午後と3日目は、諸税課で軽自動車の廃車車両をパソコン上で確認させて頂く仕事を担当しました。この仕事も実に細かい仕事でかなりの注意が必要なのですが、周りを見ると、驚いたことに、市民税課の皆さんは、自分のパソコン上で仕事をやりながら、窓口対応をされ、電話にも出ていらっしゃる様子でした。ただひとつの仕事をするだけではなく、同時にさまざまな業務を適切にこなす能力が職員に求められていることがわかりました。

また、最も勉強になったことは、むずかしくわかりにくい税のことについて、それを市民の方に納得していただけるような説明をうまくできるようにならなければならないことです。自分が分っているだけでは駄目で、いかにわかりやすく適切に説明できるかが問題になります。これから私が磨かなければならない能力だと感じました。

他にも、仕事をする上での重要なツールとして、話を聞くときにはメモをとるということの重要性を学びました。責任をもって仕事をこなすには、ひとつひとつの情報を正確に把握することが大切になります。今まで私は特にメモをとるということはやってこなかったのですが、今後は、手帳とペンを持ち、必ずメモをとる習慣をつけて行きたいと思います。

最後になりましたが、市民税課の皆様、コロナ渦の中、また、お忙しい中、インターンシップ実習の機会を設けて頂いたこと、たくさんご指導を頂いたことについて厚く御礼を申し上げます。5日間、ありがとうございました。

庄司 みゆ

(心理学部 私立新発田中央高等学校)

【株式会社いわさき】

株式会社いわさきは、入間市、狭山市、所沢市、藤沢市、飯能市で直営葬儀会館 5 会館を自社運営しています。家族葬、一般葬、火葬式など、多様化した葬祭のスタイルに対応しており、女性職員だけによる葬儀会館の運営も実施しています。また、解約返金 100%の会員システム「い・つ・も」を運営しています。

【実習期間：8月24日～9月6日】

人の心に寄り添うこと

私は、株式会社いわさきで、10日間、インターンシップ実習をさせていただきました。いわさき様を実習先に希望した理由は、他のサービス業は「お客様に喜んでいただくため、大きな声で、元気よく、笑顔で」接客することが普通ですが、葬儀屋さんでの接客方法はそういうわけにはいかないでしょうから、どのようなサービスが行われているのかに関心を持ったからです。

実習では、祭壇飾りとその片付け、葬儀が無い日に落語鑑賞にいらっしゃったお客様へのお茶出し、ご遺族への葬儀インタビュー、位牌点検、商品の包装、念珠作り、チラシのポスティングなど、幅広い業務を体験させていただきました。

実習全体を通して沢山のことを学びましたが、その中でも特に心に残っているのは、シティホール飯能支配人の斎藤慶子様のお言葉です。「普通はお客様から 100万円近くを頂いたら、何かしら形に残るものを提供するけれど、私たち葬儀屋は、100万円近く頂いてお客様に『思い出』を提供する。しかも、大事な人を亡くされている方々が相手なので、絶対に悪い思い出にしてはいけない。」実習中は、ずっとこの言葉を念頭に置いて働くようにしました。

葬儀を終えた時、お客様の記憶に残るのは、私たちスタッフから受けたサービスです。実習が始まった当初は、絶対に失敗が許されないお仕事という緊張から、表情が強張ったまま、「どうすれば失敗しないか」、「相手を怒らせないか」ばかりを考えていました。しかし、斎藤さんの言葉を聞いて、相手を怒らせないように振舞う事より、相手の心に寄り添う事が、葬儀の仕事において何よりも重要なのではないかと気づきました。そこで、その日から、私は、どうすればお客様の心に寄り添うことができるかを考えるようにしました。そして、緊張した表情でいるよりもお客様が安心できるような優しい笑顔を心がけ、「どうすれば失敗しないか」、「相手を怒らせないか」よりも「どうすれば相手に喜んでもらえるか」を考えて動くようにしました。これは、葬祭業、サービス業だけにとどまらず、人との関係を築く上でも大切な考え方であり、この実習での1番の学びだと感じています。

最後になりましたが、このコロナ禍において、そしてお忙しい中、インターンシップ実習を受け入れてくださいました株式会社いわさきの皆様に、心より感謝を申し上げます。この貴重な体験を、今後の成長に活かしていきます。

葛野 桃英

(心理学部 私立立川女子高等学校)

【株式会社いわさき】

株式会社いわさきは、入間市、狭山市、所沢市、飯能市で直営葬儀会館5会館を自社運営しています。長年、培ってきた豊富な経験に新しい感覚を取り入れて葬祭業を営む他、日々変化する社会のニーズに応える会員制度「い・つ・も」も運営するなど、様々な発展をなし続け、愛と祈りの精神を以て日々のサービス・販売活動に力を入れています。

【実習期間：8月24日～9月6日】

究極のサービス業

私は、株式会社いわさき様で、インターンシップ実習を行わせていただきました。インターンシップ実習に行く前に想像していた葬祭業のイメージは、淡々としていて、打ち合わせ、式をして終了というものでした。しかし、想像していたものとは180度異なり、驚きと発見の毎日でした。まず、式を行うための、打ち合わせ、式場準備、思い出のDVD、パネル作り、遺影写真の作成、訃報の作成、骨壺の準備など、やることが沢山あります。他にも、お寺に届け物に行く、市役所に死亡届を提出して、埋火葬許可書を受け取り、場合によっては火葬場に提出したり、FAXを送ったりするなど、もあります。これより、本当に様々な仕事があるということを知りました。

また、式場が、狭山、入間、所沢、藤沢、飯能の埼玉内5カ所にあり、それぞれで式が行われるため、人がめまぐるしく移動しなければなりません。それに加えて、事前相談を受けたり、24時間体制で新規の依頼を受けたりと、非常に忙しくされていました。さらに、友引の日には、落語鑑賞会や笑い文字セミナー、終活相談会など、幅広い活動をされていることも驚きでした。葬儀のことをメインに行う葬祭部に加えて、仏壇の販売をする販売部や、事務作業、営業をするいつも事業部など、様々な部があることで会社が成り立つと学びました。

このインターンシップ実習を通して、コミュニケーション能力と、ポジティブシンキングの大切さを再確認しました。幅広い年齢層のお客様と会話をする中で、コミュニケーション能力は重要になります。そして、特に絶対にミスが許されない葬祭業では、ミスをしてしまった時に、反省することも必要ですが、その失敗を生かして、ポジティブに考え、次で失敗しないようにするための工夫を考えることの方が大切だと思いました。そして、自分に足りないものは、上手、下手などの作法の知識だという課題を見つけることができました。自分の世界を広げたいと思って、希望した葬儀屋さんでのインターンシップ実習でしたが、実際に経験してみて、今まで色々なことを勉強してきたつもりでしたが、まだまだ勉強が足りないと感じました。お葬式は絶対に一人の力では出来ず、様々な人の協力があってこそ成功するものであり、私も時には友達や家族と支え合い、幅広い経験を重ね、成長していきたいです。いわさきの皆さま、お忙しい中ご指導いただき、本当にありがとうございました。

石川 若菜

(メディア情報学部 私立聖望学園高等学校)

【社会福祉法人茶の花福祉会】

社会福祉法人茶の花福祉会は国際障害者年の「完全参加と平等」の理念に基づき、集団生活を通したご利用者の自立を目標に、支援を行う社会福祉法人です。

【実習期間：9月10日～14日】

障害者との関わりで気づいたコミュニケーションの大切さ

私は、社会福祉法人茶の花福祉会の就労継続支援 A 型施設のふじさわ大樹作業所で 5 日間、インターンシップ実習を行わせていただきました。志望した理由としては、家族に障害者がいることもあり具体的な自立支援方法を知りたかったことや、実習での学びを通して障害者の生活に貢献したいと考えていたからです。

ふじさわ大樹作業所では農産物直売所やパン屋、うどん屋、農園など様々な運営をしています。私は、1～2 日目はパン屋で商品の梱包や接客、3～4 日目はうどん屋で接客を、最終日には、農産物直売所のバックヤードで食品の加工作業を経験させていただきました。

実習を通して 2 つ意識の変化がありました。

1 つ目は、障害者の限界を作っているのは私たちではないかということです。「強みを伸ばす」という支援方針の下で、ご利用様はいきいきと仕事に励んでいました。そこで、私自身に障害者の就職は苦手を克服しなければ難しいという先入観があったこと、この先入観が障害者の雇用を悩ませる原因の 1 つであると気づき、障害への固定概念を無くすことが大切であることを学ばせていただきました。

2 つ目は障害者との接し方についてです。実習前は、障害者に対して行動ひとつにしても手伝える必要があると考えていました。しかし、施設長に「全てのことに手を差し伸べていたら自立には繋がらない」と教えていただき、実際にご利用様から質問を受けた際に自ら考えるきっかけを与えているのを目撃し、時には厳しく接する必要もあることを学びました。そして、これらの支援方法はコミュニケーションや日々の観察を通して障害特性やご利用者の長所を知っていなければ、成立しないものであることに気づきました。

以上について、障害者の方の就労支援に携わってより理解を深めることができました。実習を経て、観察やコミュニケーションを通して相手を知ることが仕事に取り組むにあたって大切なことだと実感したと同時に、養うことが出来たのではないかと思います。今後の生活や仕事においても様々な方々に関わる機会があると思うので、コミュニケーションを通して相手を知ることが念頭に置き、互いに長所を伸ばせるような行動ができる社会人を目指していきたいと思えます。

最後になりましたが、社会福祉法人茶の花福祉会の皆様、丁寧なご指導の下で貴重な経験をさせていただけたこと、心より感謝申し上げます。

網 匠未

(経済経営学部 栃木県立黒磯高等学校)

【ツインスターテクノロジー株式会社】

ツインスターテクノロジー株式会社は、自動車部品や加工機械のパッキン、ダストシールなどのゴム形成部品の生産、新素材開発研究を行い、お客様の要望に合わせた素材開発や製造が行えることを大きな強みとしています。

【実習期間：9月6日～9日】

行動力と5Sの重要性を学んだ4日間

私は今回ツインスターテクノロジー株式会社において、埼玉本社事務所で2日間、岩手県三陸工場、岩泉工場で2日間の計4日間の実習を行わせて頂きました。

本社事務所での実習では、親崎保社長による実際に社内の社員研修で使用されている社員心得を使った導入研修、仕入伝票の会計ソフトへの打ち込み作業を行いました。この中で私が学んだことは行動力の大切さです。なぜなら、社会で活躍するために必須であり、私が強化しなければならない一番の能力だと感じたからです。研修では、社会で仕事の出来る人材と評価される人物は、仕事に対して即決断し、即行動に移すことができる人物だということを教えていただきました。私は、これまで少しでも不安要素があると決断できず、行動が遅いと感じていたものの、特に深刻には捉えていませんでした。しかし、今回の研修でこのままでは社会で求められる人材にはなれないと強く実感しました。よって、目の前のことに対してすぐに行動を開始する姿勢をこれから大事にしたいと研修を通じ決意しました。

三陸工場、岩泉工場での実習では、ゴム形成部品の製造を行っている工程の見学、ゴム素材の性質や耐久性を調べる試験を行いました。そこで学んだことが、身の回りの整理が仕事の効率化の基本であり、最重要であるという事です。なぜなら、工場内は整理、整頓、清掃、清潔、しつけの5Sが徹底され、成型する際に製品にならない部分であるバリがととも出る環境にもかかわらず、とても綺麗で整理整頓され、それにより作業がスムーズに行われていることを見て感じたからです。私の普段の生活を振り返ると、このような基本的なことができておらず多くの時間を無駄にしています。これでは、社会人に求められている効率の良い作業は行えません。よって、その後は、実習中の身の回りの整理や情報の整理を行い、すぐに対応できるようにすることを心がけました。それにより行動に余裕ができ周囲を見ることができ、多くの知識を吸収することが出来たと思います。

最後になってしまいましたが、ツインスターテクノロジー株式会社の皆様には、お忙しい中、実習の機会をくださり心から感謝申し上げます。この4日間で体験し学んだことは私にとって一語一句全て貴重な学習となり、行動力を持ち多くの業務をこなせる社会人を目指したいという目標ができました。今後はこの社会人像になれるよう頑張りたいと思います。

原口 和久

(メディア情報学部 埼玉県立羽生第一高等学校)

【ツインスターテクノロジー株式会社】

ツインスターテクノロジー株式会社では、自動車部品のOリングや、携帯型アルコール消毒のパッキン、製品を持ち上げるための吸盤といったものなど様々な製品の一部である、ゴムの部品を生産している会社です。

【実習期間：9月6日～9日】

一つ一つの仕事に責任を持ち、考えて行動すること

私は、ツインスターテクノロジー株式会社という機械に用いられるゴムを製作する会社で、4日間インターンシップ実習をさせていただきました。実習内容は、初日に本社営業部で親崎社長から社員の心得を伺い、仕入伝票の入力を行い、2日目からは岩手県にある三陸工場と岩泉工場にて、ゴムを製造している現場の見学とゴムの耐久試験を行いました。

本社実習では、社会人としての心得を親崎社長からお話を伺いました。私たちは社長から「なぜ君たちは、これから働くのか？」ということに対して、私は生きるために、食べるために働くものだと考えていました。しかし、社長は「食うために働くのではなく、働くために食うのだ」という働くことに対する逆の視点を教えてくださいました。他にも、物事に取り組む際には、実行することが大事で、まずは50%の準備でもいいから取り組むことが大事であることを知りました。100%の準備も大切ですが、まず取り組むということが大切で、工場に見学に行ったときには、すぐにやるといった言葉が掲げられており、行動に移して物事を早い段階からやるということを知りました。私は、やるべきことを後に持っていく癖があるので、社長からの言葉通り、すぐに取り組むという事を将来に向けて取り組んでいきたいと感じました。

三陸工場と岩泉工場では、実際にゴムを製造している現場を見学し、耐久試験をさせていただきました。ゴム製品を作る際には、一から配合や温度といったものを調べ、引張試験や永久歪試験などに取り組みゴムの性質を確かめる現場を見学しました。完成されたゴム製品は画像検査機にかけて、不良品の有無を確かめてから、通ったものを更に人間の目でダブルチェックを行っていました。私たちも、不良品のゴムを見せていただきましたが、目を凝らしてやっと見つけることができる程の小さい欠損で、不良品を探している工場の方の観察眼は一朝一夕で身につくものではないと感じました。

こうして4日間実習を通して、社会で働く上で必要な心構え、不良品を探す時の大変さから、製品一つ一つ責任感を持って作り、確認するという大切さを学びました。実際に働く前にこのような心得を社長に伺うことができ、勉強になりました。ありがとうございました。

最後になりましたが、ツインスターテクノロジー株式会社の皆様、お忙しい中私たち実習生に貴重な時間を割いてご指導頂き、ありがとうございました。

板倉 百花

(心理学部 東京都立武蔵丘高等学校)

【ツインスターテクノロジー株式会社】

ツインスターテクノロジー株式会社は、研究開発型企业でゴム・プラスチックの加工を行っています。主に特殊材料の開発、材料試験や材料テスト、試作から量産まで手掛けています。

【実習期間：9月6日～9日】

5S と正確な仕事の重要性

私は、ツインスターテクノロジー株式会社の本社で 2 日間、岩手県にある三陸工場と岩泉工場で 2 日間の合計 4 日間、インターンシップ実習を行わせて頂きました。私がツインスターテクノロジー株式会社を希望した理由は、私がこれまでに知らなかった製造業という業界に飛び込んでチャレンジしてみようと考えたからです。

1 日目は本社で実習を行いました。午前中は親崎社長から社員心得についてのお話をお聞きしました。午後は仕入れ伝票の入力をパソコンで行いました。仕入伝票の入力作業では製品によって様々なコードに分かれていてそのコードを探し出す作業に時間がかかってしまいましたが、分からないと思ったところは放置せず、積極的に質問することができ、ミスを少なくすることができました。

2 日目は岩手県の三陸工場での実習でした。三陸工場ではゴムの原料、使用している機械、工場で製造している製品について学びました。また他の実習生とそれぞれゴムの原料が異なるものを使用して試験も行いました。社長からは整理の仕方や、整理ができるかどうかによってその人の能力が測られるとお聞きしており、お話の通り工場内は整理整頓が徹底して行われていました。私自身もこの 5S (整理、整頓、清掃、清潔、しつけ) は社会人になるにあたって必要不可欠な知識だと学びました。

3 日目は三陸工場で試験を行った後、岩泉工場で工場見学を行いました。試験では圧縮永久歪試験と引張試験の二通りの試験を行い、ゴムの耐久性を調べました。岩泉工場では、工場見学の際に、商品の目視検査を行っていて、集中力が求められる作業を何時間も行う姿が印象的でした。またこちらから挨拶をすると笑顔で返して下さいました。4 日目は本社で実習の振り返りを行いました。

今回の実習を通して、5S は、製品を製造する際に道具を探す手間を省く等、作業を円滑に行うために重要なこと、製品の正確さは企業同士の信頼性に関わってくる重要な項目で、この正確さがおお客様の期待以上の製品を作り上げるといった会社理念に繋がっていると思いました。今後の就職活動をしていくにあたって自分自身の目標や就きたい業界を整理し、時間を無駄にしないよう取り組んで行きたいと思います。

最後に、ツインスターテクノロジー株式会社の皆様、お忙しい中実習の時間を設けて頂き、またとても貴重な体験をさせて頂き、誠にありがとうございました。

鶴田 涼也

(メディア情報学部 埼玉県立川越総合高等学校)

【社会福祉法人羽博会】

「一人ひとりの心を大切に、誰もが羽ばたける社会を目指して」という理念の下、利用者の尊厳と意志を尊重し、自立した生活を社会で営むことができるように支援することを目的とし活動する就労支援施設です。

【実習期間：8月24日～31日】

「個性」への向き合い方

私は社会福祉法人 羽博会で6日間実習をさせていただきました。

私がこの羽博会を実習先として選んだ理由は、障がい者の意志や自立性を認め、その巣立ちを支えるという理念に共感したことと、障がい者支援の実態とやりがいについて高校時代の特別支援学校への訪問等を通して気になっていたためです。

今回の実習で特に難しいと感じたことは、利用者の方と意思疎通を図ることでした。利用者の方々の多くは自己主張が乏しく、また表現方法が独特なため、此方が言ったことを理解してくれているのかを察し辛い時が何度かありました。そこで、私は、質問形式でこちらの話を理解できているのかを確認し、復唱してもらう等の工夫をしました。利用者の方の中には言葉での表現が難しい方もいたため、そうした方には言葉以外の方法で意思の疎通を図る等、試行錯誤を繰り返して最良の関わり合い方を模索しました。その結果、利用者の方と意思疎通を取ることができ、嬉しく感じました。最初はどのような言葉遣い、身振りであれば意思疎通が上手く行くか分かりませんでしたが、同じ時間を共に過ごし、試行錯誤していく内に、何を伝えたいのかを互いに分かるようになっていきました。

今回、利用者の方や支援員の方との関わりを通して特に学べたことは、障がい者支援の仕事のやりがいと心構えでした。まず、この仕事におけるやりがいは、利用者の方の成長を助け、達成感を分かち合うことです。そして心構えとは、利用者の方を一人の人間として認識し、その自主性を認め、直接的な手助けは行わないというものでした。また、実際に利用者の方と触れあい、支援員の方から支援の方法等を教わったことで、障がい者と健常者の違いは、物事の捉え方や表現の方法の違いによる個性の差異でしかないことにも気づけました。これらは、実際に現場を体験したからこそ学べた、実に貴重な教えであると感じます。

私は今回の実習を通して、物事を正確に伝える力と、相手の主張を理解し物事を円滑に進める力をより高められたと感じています。これらの力は、同じ会社で働くこととなった障がい者の方の特性を把握し、職場内の人間関係を良好に保ち、摩擦を減らすことに役立てられると考えます。

最後になりましたが、羽博会の皆様には、貴重な体験をさせていただいたことを深く感謝しています。去ることを惜しむほど充実した日々でした。本当にありがとうございました。

若月 優奈

(心理学部 新潟県立柏崎高等学校)

【社会福祉法人羽博会】

社会福祉法人羽博会は、グループホームや就労継続支援 B 型事業所、生活介護事業所、相談支援事業所等の福祉サービスを提供し、利用者一人一人が自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援しています。

【実習期間：8月24日～26日、29日～31日】

個人に合ったわかりやすさを追求すること

私は、社会福祉法人羽博会の就労継続支援 B 型事業所おおるりで 3 日間、生活介護事業所フラミンゴで 3 日間の計 6 日間、インターンシップ実習を行わせていただきました。私が社会福祉法人羽博会を実習先に選んだ理由は、福祉に関する仕事に興味があり、様々な福祉サービスを提供していることから、福祉の実態を体験でき、今後の生活で活かせると思ったからです。

おおるりでは、羽博会が運営する各事業所の説明や、私が担当させていただく利用者様の障害特性について聞いた後、実際に利用者様の作業を体験したり、見守りでの支援を行ったりしました。また、一般就労を目指している方の履歴書作成の支援も行いました。フラミンゴでは、朝活や日課と一緒に参加しました。加えて、送迎の見送りや歯ブラシの様子確認などの日常生活の支援もさせていただきました。

私がこの 6 日間の実習で大切だと感じたことは構造化です。構造化とは、説明したことや一日のスケジュールなどを紙に書いて見せたり、作業のやり方を自身が見本となり見せたりすることで、利用者様に対して視覚的に分かりやすい環境を作ることです。目に見える形で分かるようにすることで、より伝わりやすくなることが分かりました。

また、今後に生かしていきたいことは、言葉使いと説明の仕方です。まず、言葉使いについては、障害者の方に対して子ども扱いをしたり、赤ちゃん言葉を使用したりすることは虐待になることを学びました。改めて、一人一人を尊重し、大人として接することが大切だとわかりました。次に説明の仕方についてです。私は日々生活の中で会話をするとき、表現が曖昧なまま物事を説明してしまい、相手の理解力に委ねてしまうことがあります。しかし、これでは障害者の方には伝わりづらいということを知りました。履歴書作成の時には、どのように説明したら利用者様に理解していただけるか自分なりに考えながら支援を行い、きちんと伝えることが出来ました。今後就く仕事では相手を尊重した言葉遣いと、人それぞれに合ったわかりやすく理解できる説明の仕方を意識したいと思います。

このインターンシップ実習で、福祉の仕事の実態、相手に合わせたコミュニケーションの重要性を学ぶことができました。最後になりましたが、この度は貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございます。

富岡 勇眞

(法学部 埼玉県立狭山工業高等学校)

【株式会社武蔵臨床検査所】

株式会社武蔵臨床検査所は、「正確・迅速」を目標に掲げ、「照一隅」の精神で地域に根ざそうとする検査所です。人体由来の検体や、水質・食品・微生物の検査なども行っています。

【実習期間：8月17・18日】

医療従事者としての責任

私は、株式会社武蔵臨床検査所で、2日間のインターンシップ実習を行わせていただきました。私が武蔵臨床検査所を希望した理由は、武蔵臨床検査所の「照一隅」の精神による地域貢献活動がどのようなものなのか気になり、実際に見て学びたいと感じたからです。

1日目は、社内見学と会社説明でした。私は、臨床検査という業務ではたくさんの人が検体の検査をしているものだと思っていました。しかし、実際の検査業務は、そのほとんどが機械によるものでした。それゆえ、人間が行う実際の業務は、その機械類を調整して最高の状態に保ったり、病院から送られて来る患者の様々な情報から診断が本当に正しいかどうかの裏付けなどをしたりすることだと知りました。そして、実際に、検体を病院やクリニックから回収する集荷業務担当の方が各担当の方に集荷した検体を配り、病院やクリニックからの情報を何度も確認し、機械へ情報を入力し、検体を機械の中に入れて分析するなどの業務を見ることができました。しかし、武蔵臨床検査所だけが行っている、機械によらず、現在でもひとつひとつ人の手で行っている検査もあり、それはとても印象的でした。

2日目は、武蔵臨床検査所のシステム管理や臨床検査システムの仕組みの説明、営業業務などを見学させていただきました。臨床検査においては、検体と患者の情報を紐付けする業務があります。武蔵臨床検査所では、業務をスムーズに行うためのシステムを独自に開発し、武蔵臨床検査所に検査の案件を送ってもらうという体制を取っていると知りました。営業業務では、営業部長に同行し、原田病院と無料のPCR検査を行っている検査所を見学しました。営業部長には、「営業という職は、会社が成り立つうえでなくてはならない大切な職」と教わりました。原田病院では、病院内の武蔵臨床検査所の出張所に行き、どのような検査を行っているか、どの様に病院との連携を図っているかなどを教えていただきました。検査機械は武蔵臨床検査所にあるものとほとんど一緒でしたが、より精密な機械もあり、患者の体調の変化などをチェックしていました。他にも、病院内にある武蔵臨床検査所のパンフレットを補充することも営業の業務の一つであるとのことでした。また、無料のPCR検査を行っている検査所では、各部署の方々が交代で、炎天下の中、毎日200人限定で検査を行っていると感じました。

私が実習の中で感銘を受けた事は、武蔵臨床検査所の職員の方々一人一人が医療従事者としての責任を持って仕事に取り組んでいる姿勢です。実習を通して、改めて仕事とは責任を伴うものだという事を痛感しました。

お忙しい中、このような貴重な体験をさせていただき、武蔵臨床検査所の皆様、本当にありがとうございました。

樋口 雄大

(経済経営学部 新潟県立新津高等学校)

【株式会社武蔵臨床検査所】

武蔵臨床検査所は、創設以来「正確・迅速」を目標に掲げ、社員一同「照一隅」の精神を持ち、作業の標準化、統一化された機器・設備の導入により均質な検査を可能とし、最高水準の検査技術を多くのお客様に提供するため地域密着型の検査サービスを実現しています。

【実習期間：8月17・18日】

医療の裏側

私は、株式会社武蔵臨床検査所で、二日間のインターンシップ実習を行わせていただきました。私が武蔵臨床検査所を実習先に選んだ理由は、医療関係の方々の立場に立って、実際の医療現場を体験したいと考えたためです。武蔵臨床検査所は、臨床業務や食品環境検査業務を通して、医療の前線で働いている人たちを裏側から支えています。そのようなリアルな医療現場を学生の時に体験できることはとても貴重なことだと考えました。

一日目は、まず代表者である会長、社長と対談しました。そして、我々を担当してくださった部長から会社概要及び業界概要を学びました。この座学は、新入社員の新人研修の時に行うものと同じものだそうで、難しい単語やアルファベットが多くあり、理解することがとても難しかったです。午後は、臨床検査の全工程の見学を行いました。一日目に印象に残ったことは、武蔵臨床検査所がお客様に対して常にニーズ以上のサービスを行えるよう万全を期しているということです。例えば、一つの機器が壊れたとしても検査が滞ることのないように、同様の検査器機が二つ以上用意されています。また、医療施設から運ばれてきた血液などの検体一つ一つをバーコード管理し、管理ミス無くすようにしています。さらに、医療施設から追加の依頼が来たとしても、わざわざお客様から再度採血することなく追加の検査を行えるように、検査が終わった血液を倉庫に一定期間保管しています。このように、いたるところで万全を期す努力がなされているのです。

二日目は、一日目に引き続き、業務概要説明を受け、午後に営業業務の同行をさせていただき、原田病院と市民会館裏の無償 PCR 検査所に行きました。そして、最後に総論を行いました。地域のために、身を危険にさらしながらも無償 PCR 検査を行う地域愛の深さに感服しました。そして、医療関係の仕事においても、営業職は数字がすべてであり、新規の受注を取ってこなければならず、クレームの対応もしなければなりません。また、マスクを着けている中でも、人の顔や名前を覚えなければなりません。営業職はとても大変な業務だと感じました。しかし、大変だからこそ達成した時の楽しさややりがいは十分にある仕事であると営業部長がおっしゃっておられ、その姿はとてもかっこよく見えました。

コロナ禍の大変な状況の中ではありましたが、実習を受け入れてくださった株式会社武蔵臨床検査所の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。この二日間とても貴重な経験をすることができました。本当にありがとうございました。

小田桐 萌香

(経済経営学部 東京都立板橋有徳高等学校)

【小林税理士事務所】

小林税理士事務所は、税務や毎月行われる巡回監査、お客様の申告のお手伝いを主に行っています。他にも、保険や相続に対して行われる企業防衛など、お客様の会社にあったサポートを行っている税理士事務所です。

【実習期間：8月29日～9月9日】

当たり前前は当たり前

私は、小林税理士事務所にて二週間のインターンシップ実習をさせていただきました。

私が今回の実習で一番驚いたことは、小林税理士事務所の業務の幅広さです。実習の内容をおおまかに予想して臨みましたが、この小林税理士事務所の業務の幅は予想以上に広く、保険や会社経営、相続についての相談まで行っていました。

全く予想していなかった実習内容だったのですが、まず私が困ったことは、メインである「税理」についてでした。簿記などの資格を持っておらず、税務に関する知識がほとんど無かったのです。しかし、分からない事は一つ一つ何度も教えてくださいました。その分時間を要したため、組まれていたスケジュールの調整をしていただくことになりました。忙しい中で実習を受け入れてくれた皆様にご迷惑をかけてしまったと、かなり落ち込みました。その中で、何度も聞くという事はメモを取っていないからだ気付きました。以降、新しい事や分からない事はメモを取るという事を意識するようになりました。

今年は、去年インターンシップ実習をされた先輩がアルバイトとして私の実習期間中にいらしていました。幸運なことに、その先輩と就職活動についての情報などを相談する機会がありました。印象に残っているのは、自分の強みが見つからないと相談した時に、私生活やアルバイトと結び付けて考えたら、強みも見つかるし、面接においてもスラスラ話しやすいものになると教えてもらいました。たった数日間しか一緒にできませんでしたが、人と話すときは目を見る、他の人が話している時は相槌を打つなど、事前に私たちが習った事を、徹底して当たり前に行っていたらいいなと思いました。それまで以上に私も意識して行動すると、実習先の皆様から話しかけられる回数が増え、プライベートの事も聞いて下さるようになりました。

このインターンシップ実習で、私は、当たり前前のことを当たり前、という事を学びました。言葉遣いや目を合わせる、相槌といった当たり前前の方が出来て初めてお客様のサポートもできる、また、仕事をする環境や人間関係も整うのだと分かりました。税理士に限らず、仕事は、専門的な知識だけではなく、場の雰囲気というものも大切だと感じました。

最後に、小林税理士事務所の皆様には、お忙しいなか二週間のインターンシップ実習を受け入れてくださり、本当にありがとうございました。

野口 楓恋

(経済経営学部 埼玉県立宮代高等学校)

【税理士法人サム・ライズ】

サム・ライズは、永続的発展を支援し、縁のあるすべての人を元気にという理念を掲げています。社内でクラウド化を行っていて、在宅で勤務する社員が多数在籍しています。

【実習期間：8月29日～9月2日】

インターシップ実習を通して学んだこと

私は、将来就職活動をする上で、興味のある税理士の仕事を体験することで、少しでも税理士の方々の仕事ぶりを知り、大変なこと、楽しいことを感じ取るため、税理士法人サム・ライズでの実習を希望しました。また、社会人としての常識などをこれからの成長のために吸収していきたいこと、事務の職場の空気感に興味があったことも希望の理由です。

5日間の実習の中で、以前から大学の授業で簿記やコンピュータ会計について学んでいたため、税に関するの仕事と総務の仕事を経験させていただきました。事務所に入る前は、何となくざわざわとしているのだろうと考えていましたが、社員の人数がとても少なく、図書館のように静かだと感じました。

総務の仕事は、お客様にお茶を出す、各企業様に提出するファイルの作成など、地道で細かい作業を必要とすることがわかりました。この作業は、黙々と、とても楽しく行うことができました。また、顧客様がいらっしゃった際に、お辞儀の角度が浅かったことを指摘されてしまいました。その時に、指摘されたことをしっかりと反省し、適切なお辞儀を実践していこうと思いました。

実習期間の後半には、税に関する業務を体験させていただきました。仕訳では以前から授業で学習していたので実際に作業をさせていただきました。会計ソフトはすべて同じような作りになっているのだろうと思っていたのですが、実際は配置や使用している言葉も異なっており、慌ててしまいました。もっと落ち着いて作業に取り組んでいればそれほど焦ることはなかったのではないかと反省しました。実習開始日に簿記の資格を今後取る予定だと伝えていたため、電卓の使い方や早く打つコツなどを伝授させていただきました。普段ほとんど電卓に触れることがない生活を送ってきたため、気になってはいたけれども恥ずかしくて誰にも聞くことができなかつた電卓のボタンやレバーの機能を詳しく教えていただきました。当分使うことはないだろうと思っていた電卓でしたが、本当は合計を記録したり等の機能がありました。覚えてしまえばこれから先、簿記の試験等で活用できるので、電卓の打ち方に早く慣れ、試験に備えたいと思いました。

最後に、繁忙期の真ただ中でお忙しい状況でありながら私たち実習生に丁寧に指導くださいましたことを感謝申し上げます。学んだことが生かせるよう、精進していきます。

原田 紗希

(心理学部 埼玉県立和光国際高等学校)

【税理士法人サム・ライズ】

税理士法人サム・ライズは「永続的发展を支援し、縁あるすべての人を元気に」を理念として掲げ、会計・税務の業務だけでなく、経営相談も行っています。

【実習期間：8月29日～9月2日】

失敗や体験を通して学ぶこと

私は、税理士法人サム・ライズにて1日3時間、計5日間のインターンシップ実習をさせていただきました。主な実習内容は書類の穴あけ作業、ファイリング、ラベリング、書類のスキャン、税務のお仕事を見学、背表紙に貼るテープの作成、しおりの作成、8月分の様々な領収書を見やすいように工夫しながら紙に貼る作業等、総務のお仕事を中心にさせていただきました。また、毎朝出勤後に皆様に分担して清掃をされているようで、2日目以降はその清掃にも参加させていただきました。

総務のお仕事をさせていただくにあたって、普段あまり使用しない道具や初めて使用することになった機械がありました。まず、書類に穴をあける作業では穴あけパンチを使用しましたが、久しく使用する機会がなかったため、数枚失敗してしまい、作り直しとなってしまいました。そのとき、綺麗に穴をあけるコツを教えてもらい、何度か練習したのち再度挑戦をした末、それ以降失敗することはありませんでした。このことから、作業前に不安要素がある際はあらかじめ練習しておくことやコツを聞くことが大事だということに気づけました。それから、初めて使用する機械に関しては機械の操作方法を説明していただき、それを事細かにメモをした上で数回の操作を傍で確認していただきながら行った結果、始めこそ不慣れなためにメモを逐一見返したり、聞き返したりしながら操作していましたが、段々とメモなしでも行えるようになりました。この体験を通じて、初めて覚える物事に対するメモの重要性や聞くことの重要性を実感しました。

全体を通して、丁寧さや見やすさが重視される内容でしたが、回数を重ねるごとに完成度が高まっていったことが嬉しかったです。それから、税務のお仕事は過去に簿記を全く触れたことがなかったため、今回は見学のみで作業は見送りとなってしまったことから、簿記の資格取得を目指したいと思いました。

税理士法人サム・ライズの皆様、月末と月初といった特にお忙しい時期の中、丁寧なご指導をしていただき、ありがとうございました。私にとって有意義な時間を過ごすことができました。感謝しております。今回学ばせていただいたことを日常生活に活かしていきたいと思えます。

塚田 誠来

(法学部 埼玉県立坂戸西高等学校)

【三光建設株式会社】

三光建設株式会社は、「自然の摂理にのっとり 真心のこもった製品・サービスをお届けすることで お客様の永続的な安心を守り続けます」という企業理念に基づき、お客様の期待と信頼にこたえる最高の技術とサービスを提供することにより、地域社会の繁栄に貢献している建設会社です。

【実習期間：8月22日～9月3日】

建設業界で得たこと

私は、三光建設株式会社で、2週間のインターンシップ実習を行わせていただきました。実習では、基本的な社会人マナーはもちろん、営業するお客様とのコミュニケーションの大切さを学ぶとともに、営業会議、建築現場の監督、工程表、積算、図面からの拾い、作業工程の写真撮影など、様々なことを体験させていただきました。

実習の1日目から3日目は、営業に同行させていただきました。その際に学んだことは、営業するためには時事関連のニュースを見ておくこと、そして、なによりお客様の信頼を得ることの重要性です。まず、ニュースを見ておくのは、もちろん建設業に関わる大事なニュースもあって、それが営業の際にお客様とのコミュニケーションを図る重要なとっかかりになるからです。ニュースを見ておくことで、他企業の成功例あるいは失敗例を知ることができ、営業の時にそれを自社の強みに関連付けて話をすることができます。これまではニュースをそのような意識で見たことはなく、身の回りに起こっている時事が直接仕事に影響することを学びました。また、お客様からの信頼を得るためには、お客様の要望を聞き入れるだけでなく、その要望に+αのサービスを提供することが大切であると学びました。実際の仕事で、この点の工夫を肌で感じることができ、建設業の仕事はお客様とのつながりをどれだけ大事にしていくかが勝負なんだと実感しました。

また、実習4日目から8日目までは、現場監督を体験させてもらいました。そこで学んだことは、安全管理の徹底、広い視野と冷静な考え・判断が必要だということです。現場では何が起こるかわかりません。建設業では、高所に登ったり、刃がある道具を使用したりと、危険がたくさんあるため、事故を未然に防ぐためには安全管理の徹底が必須です。そして、その具体的な指示を現場監督が行うわけです。たとえば、建物の保全のため養生をしたり、安全旗を取り付けたりする際、それらを、いつ、どこにどのように設置すればよいのか判断しなければなりません。そこでは広い視野を持ち冷静な考えが要求されます。広い視野を持つことで、より安全性の高い、そして作業効率が上がる指示ができています。そして、そうした仕事のやり方は、お客様である施主様の心に届くことを学びました。

最後になりましたが、お忙しい中、丁寧で心のこもったご指導をいただき、まことにありがとうございました。この経験を活かしていけるように、常に努力を忘れず精進していきます。

細野 珠瑠

(メディア情報学部 埼玉県立鶴ヶ島清風高等学校)

【株式会社長谷川製作所】

株式会社長谷川製作所は、創業 80 年以上の歴史を持ち、照明器具・分岐ケーブル・インジェクションブローの製造販売を行う製造業です。この業界での「スモールジャイアントになる」ことをビジョンに掲げています。

【実習期間：8月22日～26日】

伝えることの難しさ

私は、株式会社長谷川製作所で、5日間のインターンシップ実習を行わせていただきました。長谷川製作所を実習先に希望した理由は、普段知る機会がない製造業界で実際に実習を行うことで視野を広げ、将来の選択肢を増やしていきたいと考えたからです。

実習では、部署・工場の見学、また、5日目に行う新商品アイテム発表会に向けたプレゼン資料の作成や、実際にスプレーガンで製品に塗装をするなどの業務体験をさせていただきました。今回の実習は、私を含め4つの大学から4人の実習生により行われました。初めは他大学の学生と合同で実習を行うことが未経験だったので、これから5日間上手く乗り越えられるかとても不安に感じていました。しかし、協力してプレゼンの準備を行うことで新しい観点や知識を得ることが出来たので、とても良い経験になりました。

長谷川製作所では、朝礼の時間に、毎日1人が最近起きた身の回りの事など、自由な題材で2分間スピーチをする時間があります。今回の実習では、実習生も、実際に3日間に割り当てて、1人ずつ2分間スピーチをさせていただきました。しかし、大勢の人の前に立って話す経験が普段ないため、とても緊張してしまい、上手く話すことができませんでした。その際に実習担当者の方から、まず初めに「〇〇の話をしたいと思います」など、聞き手側が内容を理解しやすい話し方が大切だと教えていただきました。これから社会人になる身として、人の前で上手く話すための工夫を学べたことはとても貴重なことだと感じています。

最終日に行う新商品アイテム発表会に向けて、実際に様々なことを学びました。まず、発表会では、主にパワーポイントを使用し、1人約6分間の持ち時間で企画案を発表します。発表する上で、いかに聞く人に分かりやすく伝えられるかを6分間で求められるところがとても難しかったです。私自身商品の企画を行う仕事に興味があった為、実際に発案者といった立場となり、身をもって発表の難しさ知ったことは、大変実りのある経験になりました。

自身の考えを人に伝えるスキルを身につけることはこれからの就職活動においても活かせることであり、今後の成長に繋がる大きな学びを得ることができました。短い期間でしたが、たくさんの新しい経験をさせていただいた長谷川製作所の皆様、お忙しい中実習を受け入れ指導して下さい、本当にありがとうございました。

高橋 柊人

(法学部 私立茨城キリスト教学園高等学校)

【株式会社ホンダプロモーション】

株式会社ホンダプロモーションは、新車・中古車販売、車両の整備・点検を中心に、自動車保険や生命保険の代理業など、車に関する業務を行うだけでなく、車を通じてお客様との信頼関係を築いている会社です。

【実習期間：9月2日～6日】

インターンシップ実習で学んだこと

私は、ホンダプロモーションのホンダカーズ川越 川越西店で、5日間、インターンシップ実習を行わせていただきました。ホンダプロモーションでの実習を志望した理由は、車という高額商品を扱う接客の難しさ、やりがいを学びたいと思ったからです。また、高い買い物であるためにお客様とのより密接なコミュニケーションが必要となる車の販売を、インターンシップ実習を通して体験したいと思ったからです。

実習では、お客様のお出迎え・お茶出し等のフロント業務、商談・営業への同行、ロールプレイング、整備の仕事などを体験させていただきました。実習の中で、接客業の難しさを特に感じたのは、ロールプレイングでした。ロールプレイングというのは、消費者役と販売員役に分かれて、車を販売してみる研修方法です。ロールプレイングでは、最初に、消費者役を体験し、実際にどういった方法で車を販売しているのかを学びました。そこでは、基本的な挨拶や、はきはきとした話し方など、気持ちのいい接客が心掛けられているなど感じました。また、自社にしかない特典や商品の良さ、安全性など、お客様を惹きつけるような提案をしていく一方で、デメリットの説明も行うことが、お客様からの信頼を得るために必要なことであると感じました。次に、販売員役を体験し、消費者役を行った際に学んだことを実践しました。質問することでお客様の求めているものを引き出すこと、自分の考えを加えてお客様に提案することなど、相手との対話を重ねていくことが、信頼関係を築いていく上で大切なことであると実感しました。私は、それまで、営業はモノを一方向的に売りつけるといったイメージを持っていました。しかし、今回のインターンシップ実習を経験して、お客様に安心して気持ち良く購入してもらうためには、お客様の気持ちに寄り添うことが必要だと感じました。また、営業職に限らず、接客において大事なことは、マニュアル通りに行動することではなく、お客様が嬉しいと感じられるような気遣いであると学ぶことができました。

お忙しい中、貴重なお時間を割いて頂き、誠にありがとうございました。実習を通して、営業職の難しさややりがいの両方を体験することができました。また、営業の仕事以外にも、メモを取る事を習慣づける、挨拶をしっかり行うなど、多くのことを学ばせて頂きました。ここでの経験を活かし、今後の就職活動に繋げていけるように頑張りたいと思います。ありがとうございました。

鈴木 寛人

(経済経営学部 東京都立東村山高等学校)

【株式会社ホンダプロモーション】

株式会社ホンダプロモーションは、埼玉県を拠点として
いるホンダの正規販売店です。お客様、社員、会社それぞ
れ3つの喜びを大切に、自動車販売、整備等を主に行な
っています。

【実習期間：9月2日～6日】

営業職とは何か

私は、株式会社ホンダプロモーションで、5日間のインターンシップ実習を行わせてい
ただきました。私が株式会社ホンダプロモーションのインターンシップを志望した動機は、
我々の暮らしに欠かせない車という身近で高価なモノを通して、お客様とどのような関係を
築き、地域に貢献しているのかを学びたいと考えたからです。

この実習では、フロント、整備、点検、営業の4つの業務を体験して参りました。どの業
務も、実際にお客様とお話したり、営業に同行したりと、実践的な場に身を置いて学ぶこと
が出来ました。

私が実習を通して特に感じた事は、営業の難しさと楽しさです。実習を行う以前は、営業
という業務に対して、ただお客様にモノを売るだけというイメージを持っていました。しか
し、実際の営業は、世間話をしたり、お客様のお話を聞いたり、車の話だけでは無く会話
を楽しく行い、その中でしっかりとお客様のニーズを引き出すような話術が用いられてい
ました。また、車が売れた後も連絡を取り、商談時だけでなく、売れた後もお客様にきちっ
と寄り添ってサービスを提供していることが分かりました。

実習の中で、私も店長に対して営業を行うシミュレーションの機会を頂きました。最初は
何を話せば良いか分からず、焦ってしまい、頭が真っ白になって、上手く話せませんでした。
自分は本当に5日間もやりきれるか不安にもなりましたが、ここで諦めてはいけないと
思い、店長や社員の方々に沢山のアドバイスや指摘を頂き、毎日家に帰ってから復習を行い、
家族に営業の練習相手になってもらいました。その結果、最終的にはスムーズに話せる様
になり、上手くプレゼンをする事が出来ました。店長からもお褒めの言葉を頂くことができ、
とても嬉しく、私にとって、営業の仕事は、充実した楽しいものとなりました。

また、私は、実習での営業体験を通し、自分自身のコミュニケーション能力の至らなさに
気づく事が出来ました。社会人になるまでに、大学生活ではもちろんのこと、社会人の方と
交流できる場所や、インターンシップに積極的に参加し、自分のコミュニケーション能力を
高めていきます。また、今回の実習で学んだ事をこれからの就職活動に存分に活かしてい
きます。

最後になりましたが、5日間の実習で非常に貴重な体験をする事が出来ました。改めまし
て、株式会社ホンダプロモーションの皆様方へ、心よりお礼申し上げます。

松村 理久

(法学部 私立明和県央高等学校)

【株式会社ヤオコー】

ヤオコーは、食料品を中心としたスーパーマーケットで、現在、埼玉県を中心に、千葉、群馬、茨城、東京、栃木、神奈川の1都6県に広く店舗展開し、生鮮食品、総菜をはじめとする食料品などの販売を行っています。

【実習期間：9月5日～9日】

青果で沢山の体験をする

私は、今回、インターンシップ 5days として、初日と最終日は川越研修センターで、後の3日間はヤオコー高崎飯塚店で店舗実習を行いました。

初日は、店舗実習に臨むにあたっての説明を聞き、ヤオコーの歴史、実績などを学びました。その中で、私が驚いたことが一つあります。それは、ヤオコーは、他のスーパーとは違って、食料の生産や加工など全ての工程がヤオコーで行なわれていて、それが人気の一つになっているということです。

店舗実習に移ると、私は青果の部署に配属されました。主な仕事内容は、野菜・果物の包装、商品の品出し・前出し、パイナップル販売のための計画でした。包装については、簡単そうな作業ではありましたが、お客様が商品を見たときに、美味しそうと思ってもらえるように向きなども考える必要があることを教えて頂きました。品出し・前出しは、他の社員の方達も行っていたのですが、ヤオコー高崎飯塚店では、ほとんどの商品が整列されていて品出し・前出しするところがあまりなかったのが現状でした。

また、パイナップル販売の計画では、主任とお話しして目標を立て、少しでもお客様に興味をもって頂けるように、POP作り、のぼり作り、店内放送、呼びかけをしました。パイナップル販売当日は、雨でお客様の数が少なかったのですが、呼びかけによってパイナップルを購入してくださったお客様が沢山いらっしやって、本当に嬉しかったです。学んだこととしては、店長から「販売する側が味を分かなければお客様にパイナップルのことを聞かれても答えられない」と指摘を受け、確かにそうだなと思いました。実際に食べさせてもらった後は、味や甘み柔らかさなど、お客様に色々紹介することが出来ました。販売数などは目標に届きませんでした。販売の仕組みを知ることができ、とても良い経験になりました。

最終日のパイナップル販売の後、店長含め他の部署の主任達とお話しをする機会を貰いました。就職や、どのように生活していきたいかなど、進路の話をさせて頂きました。どんな質問にも丁寧に応えて下さりとても貴重な時間になりました。他の部署の方にはそれぞれの部署でどのようなことを行っているのかをお聞きしました。お話だけでしたが、とても仲良くなった主任さんもいたので嬉しかったです。

ヤオコー高崎飯塚店の皆様が明るく仕事をしていらして、わからないことはなんでも教えてくださったおかげで、本当に楽しく、わかりやすく実習を行うことができました。3日間本当にありがとうございました。

安並 正晴

(メディア情報学部 私立東日本国際大学附属昌平高等学校)

【株式会社ヤオコー】

株式会社ヤオコーは、食料品の販売を中心に、埼玉県を拠点に一都六県に店舗展開をしています。オリジナルブランドで他社との差別化を図り、新鮮で美味しい食品を確保して、お客様へお届けしています。

【実習期間：8月8日、23～26日】

青果で成果を挙げる

私は株式会社ヤオコー北入曾店で、インターンシップ実習を行いました。

初日と最終日は川越にある研修センターで説明会と実習の結果報告会があったため、店舗での実習は3日間行われました。

2日目～4日目にかけて青果部門での実習で「ハニーグローパイン」というパイナップルの販売戦略を考え、実際に売り場に立ち、販売を行って目標金額の達成を目指すというを行いました。

この実習の中では、パイナップルに関してだけでなく、青果部門での野菜や果物の加工と包装、品出しと売り場での前出しと呼ばれる業務も連日行いました。

青果部門の業務は、売り場でのお客様の接客対応と、調理場での作業の2つに大きく分けることができます。そして、この両方に共通して、人間関係が重要となります。特に売り場では、パイナップルの売り込みや前出し、品出し作業中に、お客様から商品について質問をされることが頻繁にあります。そのような場合に、店長や店員に質問を引き継いでもらったり、自分のわかる範囲であれば質問に答えたりしました。その中で、このお客様はどんな商品を探しているか、必要としていることは何なのかを考えながら行動することを学びました。

また、パイナップルを売り込んでいる際に、特設コーナーにお客様が近づいてこられたので、「いかがですか？」と話しかけ、商品に少しでも興味を持ってもらえるよう行動しました。また、売り込みの際の声掛けも「いらっしゃいませ」、「いかがですか」以外にも、パイナップルの糖度が高いことなど、いろいろとバリエーションを変えてアピールしました。その結果、目標売上を達成して、全店舗売上ランキングで第1位を記録することができました。

今回の実習を通して、スーパーマーケットの経営は、お客様とのコミュニケーションや対応の一つ一つ、工夫された商品戦略によって成り立っているということを学ぶことができました。私は高校生の時にスーパーマーケットでのアルバイトをしており、そこで接客業の大切さを知っていましたが、今回の実習では、アルバイトで経験した品出し以外の業務を経験したことで、戸惑うことが多かったものの、売り上げに貢献することができたことでやりがいや楽しさを感じることができました。

最後になりましたが、お忙しい中、このような貴重な機会を下さった株式会社ヤオコー、川越研修センター、北入曾店の皆様、御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

小川 亜希斗

(経済経営学部 埼玉県立越谷西高等学校)

【株式会社スズキトラスト スズキアリーナ狭山中央店】

株式会社スズキトラストは、新・中古車、損害・生命保険、カー用品の販売、修理、板金、塗装、カーレンタル、外食事業を行っており、地域の皆様の安心・安全なカーライフに貢献する企業を目指しています。

【実習期間：9月1・2日、4・5日、7・8日】

日々の積み重ね

私は、スズキアリーナ狭山中央店で、6日間のインターンシップ実習をさせていただきました。実習では、主に、営業同席、お客様のお出迎え、お見送り、洗車、事務業務等をさせていただきました。そして、最終日には、自分で気になる自動車を決め、模擬販売体験をさせていただきました。

実習を通し、印象深かったのは、事務業務と、自動車の模擬販売体験でした。

事務業務では、車検証などの確認や車を購入されたお客様に書いていただかなくてはならない書類の整理、整備士の方々と連携を取るための指示書の作成、部品の発注をさせていただきました。これらの業務が1つでも抜けてしまうと、お客様の納車予定日や車検終了予定日が伸びてしまい、お客様にご迷惑お掛けして、販売機会を逃す可能性があります。そのため、お客様の対応がない空き時間等を利用し、正確かつ迅速に処理しなくてはなりません。この数々の事務業務の積み重ねが、お客様の満足度向上につながっているという事を学びました。

私は、実習1日目には、何をしたいかわからず、何もできない無駄な時間が何度かありました。それを反省し、2日目からは、今自分ができることは何かという事を考え、自ら従業員の方に指示を仰ぎ行動することを心がけました。

模擬販売体験では、お客様にその車の良さや他の車との違いなどを説明する上で、まず自分がその車のことを知らなくてはならないため、私はまず従業員の方の営業に同席させて頂き、お手本を見せて頂きました。営業では、車の説明だけでなく、お客様がどのように車を使うかなどを、お話をしていく中で考え提案されていました。この経験から、模擬販売では、お客様役の求めることを聞き、考えながら提案することを心がけました。結果は自分の満足のいくようにはいきませんでした。小さな気遣いやお客様が答えやすい質問の仕方など、丁寧にコミュニケーションのコツを教えてくださいました。

スズキアリーナ狭山中央店では、お客様や従業員同士、多店舗とのコミュニケーションも多く、お店全体で相談しやすい雰囲気が作られているように感じ、私もわからないことを気軽に相談させていただくなど働きやすい環境だと感じました。

最後になりましたが、株式会社スズキトラストの皆様、お忙しい中、優しく丁寧にご指導いただき、また貴重な経験をさせて頂き誠にありがとうございました。このインターンシップ実習で学んだことを活かし、日々成長してまいります。

柴田 翔太郎

(法学部 埼玉県立坂戸西高等学校)

【株式会社ホンダカーズ埼玉西】

ホンダカーズ埼玉西は、ホンダの新車や中古車の販売や点検などのサービスを通じて、地域社会の発展とともに成長をし、安心・信頼の構築のもと全てのお客様のカーライフをサポートする企業を目指しています。

【実習期間：8月18日～23日】

お客様を大切にする

私は、ホンダカーズ埼玉西新狭山店で、6日間インターンシップ実習をさせていただきました。実習では、主に、洗車、お客様のお席への誘導、お茶出しとその片付け、お客様がどの席に座っていらっしゃるかわかるようにホワイトボードへの記入、お客様のお見送りをしました。そして、その他にも、納車式や商談に立ち会わせていただきました。このように、様々な業務を体験させていただきましたが、そこからは、お客様を大切にするということを新たに学びました。

お客様を大切にすることを強く感じたのは、商談や点検の呼びかけをしている時です。商談では、新車を購入していただくことが主になります。その際に、営業している側は、お客様に満足のいく買い物をしていただけるように商談を進めていらっしゃいました。そして、そこでは、お客様が何を重視しているのか、普段どういうときに車を使うのかなど、会話を広げながら聞き出していらっしゃいました。そうして、お客様から引き出した情報をもとに、このような車はどうかと提案をされていました。さらに、提案をするだけでなく、その商品を実際に試乗車で体験いただくことで、よりイメージしやすいようにもされていました。話を多く引き出すことや、イメージを持っていただくことで、お客様を大切にサポートしていらっしゃるのだと思いました。

営業職は買っていて終わりではありません。点検などの呼びかけも行います。こうしたアフターフォローも大切にすることで、お客様の安全を第一にした信頼関係を構築できます。私が話を伺った社員の方によれば、「買うときよりも、買っていただいた後の方が大事」とおっしゃっていました。点検を定期的に呼びかけることで、整備不良による事故を防ぎ、安心して乗っていただくことができます。こうしたお客様を大事にする行動を心がけていることで、企業理念である安心・信頼の構築のもとお客様のカーライフをサポートできているのだと思いました。

この実習で、もし私がお客様の立場だったらどのようなサポートを受けたいかということを考えることができました。それを踏まえることによって、営業という職種とお客様とのかわりに関するイメージが大きく変わりました。

最後に、お忙しい中、たくさんの貴重な経験をさせていただいたホンダカーズ埼玉西 新狭山店の皆様には、心から感謝しています。6日間という短い期間ではありましたが、本当にありがとうございました。

宮永 侑奈

(経済経営学部 長野県大町岳陽高等学校)

【株式会社ホンダカーズ埼玉西】

株式会社ホンダカーズ埼玉西は、「私たちは、地域社会の発展とともに成長し、安心、信頼の構築のもと、全てのお客様のカーライフをサポートする」を企業理念に、ホンダの新車と中古車の販売、車の点検・整備等を行っている会社です。

【実習期間：8月22日～26日】

克服への一歩目

私は、ホンダカーズ埼玉西 東飯能店様で、インターンシップ実習を行いました。

初日は、ショールームでの仕事の流れを見ることと、飲み物を出すやり方等の実務や業務内容を教えていただきました。朝礼で、反省点からどうすればいいかを伝えており、情報共有するとともに改善策をすぐに取り入れるという柔軟性が大切だと学びました。また、明るく聞き取りやすく話すよう心掛けるだけでなく、表情や手振りも加えて、お客様により伝わりやすいように対応されていることも学びました。

2日目は、サービスエンジニアの仕事内容を見学し、洗車をさせていただきました。点検の流れや車のプログラムを変更しているところも見学させていただきました。サービスの方々も、ショールームへ行き、お客様と向き合い、現在の車の状況を聞いた上で、車をどうすればいいかを考えて対応されていたりしました。そして、点検終了後も、変更箇所などをサービスの方が実際にお客様に伝えられていたりしました。車の様子を詳しく伝えることでお客様はより安心することが出来ます。お客様と実際に話すことは大切だと感じるとともに、誰が対応するかによって情報が変わることを学ぶことが出来ました。

3日目は、ショールームで、見送りや飲み物提供、実務等を行わせていただきました。最初は、声の大きさやどう動けばいいか分かりませんでしたでしたが、見送りでの立ち位置にも意味があり、見送り一つとっても配慮や感謝があることを学びました。

4日目は、今まで行ってきたことをやらせていただきました。3日目に新入社員の方がいらしており、教えてもらったことを自分から率先して行っていらっしやるのを見て、出来る仕事に対してどう動けばいいのかを学びました。最終日でしたが、以前より自分から行動出来ていたと感じます。

実習の中で苦戦したことは、教えていただいた業務の内容を指示なく自分から行っているのか分からず、行動出来なかったことです。しかし、最終日には、自分から聞いて行動することが出来るようになり、それからは積極的に業務を行えるようになりました。

今回の実習では、今まで考えるだけで終わったことや、何を行っていいのか分からないときにどうすればいいかを学びました。そして、実習内で実際に質問したり、考えていたことを実行出来たりしたことにより、どうすればいいかが明確になり、とても成長することが出来ました。

ホンダカーズ埼玉西東飯能店様、今回は実習させていただき、本当にありがとうございました。

高坂 陽輝

(法学部 東京都立保谷高等学校)

【株式会社 ENgaWA】

埼玉県秩父郡横瀬町にある、チャレンジすることを大切にしており、失敗が価値になる会社です。また、横瀬町に新たな経済循環を作っています。

【実習期間：8月16日～22日】

チャレンジできないことはない

私は、株式会社 ENgaWA で、1週間のインターンシップ実習を行わせていただきました。インターンシップ実習の内容は、主に、横瀬駅前食堂での接客対応、横瀬町のコミュニティ・イベントスペースであるエリア 898 等での主催イベントのスタッフとしての仕事でした。また、課題として、最終日に、私たちが考えたポスターを作成しました。

インターンシップ実習初日には、インターンシップを受けるに当たってのミーティングが行われたのですが、そこでの担当の方の話にとっても感動しました。特に「すべてのことに疑問を持って欲しい。考え続けて欲しい」という言葉、行動指針に衝撃を受けました。また、「社員はチャレンジのプロだから、いくらでもチャレンジして欲しい」という言葉を受け、私も、このインターンシップ実習において、チャレンジできることには積極的にチャレンジをしようと決意しました。

チャレンジの一つとして私は、畑仕事体験イベントの際に初対面の人に話しかけてみようと思いました。私は初対面の人に話しかけるのがとても苦手だったのですが、イベントへの参加者のお一人に自分から話しかけ、コミュニケーションをとろうとしました。最初は少し躊躇していたのですが、勇気を出して話しかけてみましたところ、その方がとても話し易い人だったこともあり、思った以上に円滑なコミュニケーションを取ることができました。今回チャレンジしたことで、躊躇うぐらいならチャレンジしてみる大切だと思いました。

また、「考え続けること、全てに疑問を持つ」ことを意識的に 1 週間過ごしていた結果、行動一つ一つに自然と疑問を抱くようになりました。さらには、「何をしたいのか、他に効率の良いやり方はないか」と、日常的に考えるようにもなりました。特に、アルバイトにおいては、前までは特に気にならなかったことに疑問を抱くようになり、色々なことを改善できるようになりました。

私は、今回のインターンシップ実習を通して、その前と後では、考え方に大きな違いができたと感じています。これは、仕事以外、日常生活の中でも役に立つと思いますので、日頃から頭を働かせ、チャレンジできることにはチャレンジしていきたいと思います。

最後になりましたが、お忙しい中、インターンシップ実習を行わせていただいた株式会社 ENgaWA のみなさん、本当にありがとうございました。

栗原 朝陽

(法学部 私立矢板中央高等学校)

【株式会社 ENgaWA】

株式会社 ENgaWA は、横瀬町の地域おこし、地域農業の活性化を目指す会社です。チャレンジキッチン ENgaWA では、商品開発、販売を行い、駅前食堂では、飲食店営業を行っていて、新たな経済循環を作ること、失敗が価値になる会社を目指しています。

【実習期間：8月16日～22日】

チャレンジすることの難しさ

私は、2021年9月に設立されたばかりの横瀬町にある株式会社 ENgaWA さんで、7日間インターンシップ実習をさせていただきました。

実習の内容は、主に、駅前食堂での仕事と担当の方からいただいた課題に取り組むことでした。

しかし、駅前食堂では、お客さんが実習中はほとんどいらっしゃらなかったため、特に何もせず終わってしまいました。

担当の方からいただいた課題は、横瀬町のポスターを作るというものでした。実習は、このポスター作りに多くの時間を費やしました。まず、ポスターを作るために、かなりたくさんのお店を回りました。そして、横瀬町のいろいろな所を回る中で、横瀬町はとても良いところだなと思いました。自然が豊かで、川などもとてもきれいなのです。機会があればまたぜひ、訪れたいです。

ここで学んだこととしては、何事も考えながら行動するということです。どのようにしたら、もの、サービスが売れるか、人が集まるか、この売り方で本当に良いのか、もっとこうしたほうが良いのではないかとことを常に考えながら行動することで、お客様のニーズというものがわかるようになり、そこにビジネスというものが生まれるのだなと思いました。また一方で、成果が出るには時間もお金もものすごくかかるものです。しかし、ENgaWA の皆さんは、チャレンジし続けることをすごく大切にしていっていました。このようにチャレンジを続けて行かれたならば、きっと近いうちに成果を出されるに違いないと思いました。担当の方も、会社を立ち上げてか3年以内に収益を1千万にすると目標を語っていらっしゃいましたので、2年後が今から楽しみです。

今回の実習では様々な人とお話をする機会をいただき、刺激を頂きました。そしていろいろな人がいて、いろんな働き方、生き方があるなと思いました。このような方々を目のあたりにして、自分はこの先どうしていこうか、将来はこのような人間でいたいなどと考えさせられました。

今回、お忙しい中、貴重なお時間を頂き指導していただいた株式会社 ENgaWA の皆様、そして実習中にかかわらせていただいたすべての皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

岩田 颯希

(心理学部 栃木県立宇都宮清陵高等学校)

【企業団体：株式会社 ENgaWA】

株式会社 ENgaWA は、地方創生を目的とし、地域の魅力を、現地の人との協力に基づき、食物や土地、農業体験などを通して県外の人に伝える活動を行い、何度も観光客に来ていただけるように活動している会社です。

【実習期間：8月16日～21日】

チャレンジする精神

私は、一週間、株式会社 ENgaWA で、インターンシップ実習をさせていただきました。その実習の中で、働くことで得られる充実感を知りました。

ENgaWA は、地域発展のために働いている会社です。ENgaWA では、他の会社と違い、仕事の内容がきっちりと決まっているわけではありません。仕事では、社員の方々が自分で問題点や改善したい部分を見つけて自主的に行動することが求められていると聞きました。私は、仕事というを与えられた仕事をこなすことが求められるものと考えており、仕事に自主性が求められているというのが今一つ実感できていませんでした。しかし、社員の人は、現場に自分から出向いて仕事を手伝ったり、仕事以外でも地域の人々と積極的に交流して町の人から様々な意見を聞いたりされていました。また、実習中には、社員の人々が私たち実習生の意見も求めてくださいました。その姿から、自分で仕事を見つけるということなのだと感じることができました。畑や食堂の仕事を手伝う際に、観光客の人がもっといらっしゃるにはどういうデザインの看板を作ればいいのかの話し合いにも私たちを参加させてくださり、その上、実際に看板づくりも手伝わせてくださいました。その際にも、私たちの視点を新しいとほめてくださり、一方で観光客の目線での改善点も指摘していただきました。

このような経験を通して私は働くうえで大事なことを二つ学びました。

一つ目は、人の意見を聞くことで新しいアイデアが生み出せることです。看板づくりでも、一人で考えるより、メンバーの人と話し合ったり食堂の人に図を見せて意見をもらったりして作った看板のほうが、観光客の人に見つけてもらいやすいものになりました。このように、話し合うことにより視野が広がることを学びました。

二つ目は、色々なことにチャレンジすることです。社員の皆さんは元々農業などの経験はない人たちだったそうです。しかし、現地の農家の人の手伝いや話を聞くことによって、農業への知識を身につけていったそうです。それを知り、やったことがないからと諦めるのではなく、チャレンジしていく精神が大事なのだと感じました。

今回のインターンシップでは、失敗を恐れずチャレンジすることによって新しい価値を作る事ができるという他の会社では得られない体験ができたと思います。これから自分も新たなことに挑戦にしていける精神を持っていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

川崎 晃弥

(経済経営学部 埼玉県立進修館高等学校)

【ウチノ看板株式会社】

ウチノ看板株式会社は、企業理念に「会社の顔としての看板、町の道しるべとしての看板」を掲げ、当社独自の一貫システムにより、高品質、低コストの製品をスピーディーに提供しています。

【実習期間：8月22日～26日】

実習から学んだこと

私は、ウチノ看板株式会社で、5日間、インターンシップ実習を行わせていただきました。ウチノ看板株式会社を実習先に希望した理由は、日ごろ生活に埋没している看板がどのように作られているのか興味を持ち、作っている過程を体験してみたいと思ったことです。また、ウチノ看板株式会社は、企画から設計、自社工場での製造、施行、メンテナンスに至るまで一貫したシステムで自社生産していることを知り、製品になるまでの一連の工程の流れなど多くのことを学べると思ったからです。

実習では、フィルムの運搬、お店のガラスのドアや壁に貼るシートの文字ヌキや、シートの枠のカット、シートに薄いシートを隙間の空気を押し出して貼るなどの体験をしました。

シートの文字ヌキなどは、お店の数だけ文字や模様があり、細かくて難しく、何度かミスをしてしまうこともありました。そのたびに剥がれたり、ずれたりした文字や模様を貼り直しましたが、直す方が一段と難しく、仕事をやりながら、改めて慎重に作業を進めなければいけないと感じました。それと同時に、こういう細かい作業を人がやっているということに驚き、看板を作ることの難しさを感じました。

また、シートの枠のカットなどでは、シートが重なっていると、力加減が難しく、その上、定規を使わずカットするという作業だったので、中々まっすぐには切れませんでした。経験したことがない作業をすることで、看板づくりにはこういう過程の作業もあるのだと知り、滅多に出来ない経験をさせてもらいました。

大変だったのは、作業中に違う作業をやるように指示されることがあったことです。すぐに切り替えて、指示された作業に取り組むことの難しさを感じました。しかし、働くうえではこういうことも大事だと気づきました。

私は、常に今自分が何をしたらいいかを考えて行動する大切さや、指示されたことを自分なりに工夫して正確にやることの重要性、また臨機応変に対応することの難しさ、こうしたことが働くということであると学べたので、これからの生活に活かしていければと思います。

最後になりましたが、ウチノ看板株式会社の皆様、5日間と短い間ではありましたが、お忙しい中、インターンシップ実習を受けてくださり、たくさんの貴重な経験をさせてくださいましたことを感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

江田 桜輔

(法学部 私立樹徳高等学校)

【株式会社エステート白馬】

株式会社エステート白馬は、「こころとカラダに、嬉しい暮らし」という企業理念に基づき、不動産業から建築、医療、介護などの事業展開をしています。企業活動を通じて、喜びを感じられる暮らしを目指しています。

【実習期間：8月22日～26日】

社会人に必要な対応力

私は、株式会社エステート白馬様でインターンシップ実習を行いました。1日目、2日目、3日目は、不動産の基礎研修を受け、同業他社との違いなどを知りました。研修を行った後、実際に物件の見学に行き、写真撮影・広告入稿を体験しました。明るさを調節して撮影するなど、物件の良さを最大限に伝えられるような撮り方をしていました。実際に体験してみると、部屋の隅まで綺麗に撮るのは難しく、見る人の気持ちを考えることが大切だと思いました。

野口祐介社長と、2日目の昼食の時、座談させていただくことができました。会社を大きくしていくための事業展開について、環境が変わってもつぶれない会社を目指していることや会社が欲しい人材など、今後の学生生活に活かせる話をお聞きすることができました。特に印象に残ったのは、社会人として仕事を続けていく上で大切なことは環境や周りの変化に柔軟に対応できることだと教えてもらったことでした。B to Cの場合担当するお客様は毎回違うため、求めていることなども変わります。社会の状況やお客様を見ながら、今すべきことをしっかりと考えることが必要だと思いました。

4日目、5日目は不動産仲介業以外にエステート白馬が事業展開している住宅設計、建築、医療、介護などの現場に実際に行き、現場で働いている人たちの話を聞くことができました。働くことの意味、社会人として必要な心がけ、人間性の大切さ、学生時代にすべきことなどの話を聞き、一人一人違った考え方や気をつけていることを知ることができました。自分では考えることのなかった考え方などを聞くことができ、一人一人違った考えがあり正解はないと思います。自分の中での正解を今後、見つけていきたいと思いました。

今回の実習を通して学んだことは、対応力の大切さです。環境が変わった時に柔軟に対応できることが今後必要となると思います。高校生の時からコロナウイルスの感染が広がり、今までの学生生活とは大きく変わってしまいました。コロナ禍により、多くのことが変化している中で常に考えて行動することで対応力が身につくと思います。実習を通して学んだことを今後しっかりと役立てたいと思います。

エステート白馬様、この度はお忙しい中実習を受け入れてくださり、ありがとうございました。

井上 実波

(メディア情報学部 埼玉県立浦和商業高等学校)

【株式会社エステート白馬】

株式会社エステート白馬は、不動産売買仲介業を主な事業としており、その他に分譲・建設・保険代理店事業等を経営しています。お客様が安心安全で、楽しい暮らしができるよう「こころとカラダに、うれしい暮らし」を提供しています。

【実習期間：8月22日～26日】

暮らしの先を見据える

私は、株式会社エステート白馬で5日間のインターンシップ実習を行わせていただきました。実習初日は物件見学を行いました。物件見学では、広告入稿に必要な写真撮影を撮りに向かいました。部屋に入ったらず部屋のメリットとデメリットを3つ見つけられるようにすると教えていただきましたが、デメリットが思いつきませんでした。そこで部屋では誰が住んでどんな風に使われていくか考えることが大切だと教えていただきました。例えば、子供がいたらここは危ない、ここで勉強できるなど想像力を膨らませることが大切だということ学びました。家を見に訪れるお客様はご夫婦で来られる方が多いため、部屋の内装の写真は女性の方でも見やすい視点で撮るようご指導いただきました。自分だったらこの部屋でどう過ごすかよりも、家族で過ごすイメージすることが重要だと学びました。

2、3日目はビジネスマナーとロールプレイング（ロープレ）を行いました。ビジネスマナーでは、尊敬語と謙譲語、一般常識、マナーの確認テストを行いました。ロープレでは、名刺交換、来客対応のロープレを行いました。名刺交換では、名刺入れをすぐに取り出すことができず焦りました。来客対応でも、訪問の予約時間や用件を言い忘れたり、言葉に詰まったりしました。どんな場面でも柔軟に対応できるように、慣れるまで練習することが大事だとご指導いただきました。

4、5日目は本社から移動し、様々な場所を訪問し、見学させていただきました。建築士の方に、家は人生で一番大きな買い物といっても過言ではないため、お客様がこれからどのような暮らしを過ごされていくのか何年、何十年と先を見据えて部屋の広さから家具の位置まで設計されていることを教えていただきました。

今回の実習で色々な場所に訪問し、年齢層の違う方と交流するという貴重な機会をいただき、とても有意義な時間を過ごせました。上手くいかず失敗することもありましたが、この実習で学んだことを糧としてしっかりと役立てていきたいと思えます。家はお客様の暮らしを想像しながら建てられているものだと教えていただき、常にお客様の視点でその先を見据えて考えることの大切さを学びました。この考え方を今後の就職活動にも生かしたいと思えます。

お忙しい中、5日間の貴重な体験をさせていただきました株式会社エステート白馬の皆様
に心より感謝申し上げます。

田中 綾斗

(法学部 埼玉県立豊岡高等学校)

【社会福祉法人桑の実会 康寿園】

社会福祉法人桑の実会は、「制度があつてサービスがあるのではなく、ニーズを先取りしサービスを創る」という信念のもと、保育・介護・医療と幅広い福祉事業で、驚きと喜び、感動の福祉サービスを提供することを目指す法人です。

【実習期間：9月5日、7日、12日、14・15日】

実習を通して学んだ福祉・介護現場の実際

私は、社会福祉法人桑の実会の康寿園という施設で、5日間のインターンシップ実習をさせていただきました。

まず1日目と2日目には、利用者みなさんが時間を過ごしているフロアで、食事の準備や談話をさせていただきました。また、介助の見学時には、介助の際に注意していることを教えていただき、さらに実際に現場を見学した際に私が感じた疑問について答えていただきました。3日目以降は、入浴介助の見学と補助をさせていただきました。さらに、2度にわたって、施設長から、現在の日本の介護・福祉制度とその現状、そして、その問題点について丁寧に教えていただきました。

このように、5日間の実習の中で、介護現場を実際に見せていただき、現状についていろいろと教えていただくことによって、分かったことが大きく2つあります。

1つ目は、介助によって能力を奪ってはいけないことです。施設長から、高齢者は自力で行動する力を失うのは確かだけれど、少しでも自力で行う力がある人にも同様の手助けをしてしまうと、それが親切心によるものであっても、自力で行う力を奪うことになってしまうということを教えていただきました。そのため、桑の実会では、入浴を嫌う方には、その方が好きな歌とともに入浴していただくことで、入浴を嫌いではなくなってもらおうと同時に、最低限の入浴介助を行うことによって、自力で入浴してもらおうようにしています。できることは自力でやってもらおうという「寄り添い」・「その人らしさの尊重」を重視した介助によって、利用者さんが満たされる生活を提供していることがわかりました。

2つ目は、介護業界の実情です。たとえば、自力で起き上がることのない方だとしても、ベッドが柵で全て囲われていないのはなぜか質問すると、あくまで生活するための老人ホームでは、安全性を考慮すること以上に身体の制限は極力してはいけないのだと教わりました。このことに、私は、意識のはっきりしない老人に対しても権利への配慮が必要であること、その一方で、少ない人員での効率的な介助が求められることの大変さを知りました。

実際に行った入浴介助では、身体が脆くなっている利用者さんがほとんどであるため、服を着せる際には、効率を求める一方で、私たちより怪我しやすいことに十分配慮しながら介助することが難しかったです。また、康寿園では、次に必要となるものが先回りして準備されるなど協力体制がとられており、チームワークの重要性を学ぶことができました。

最後になりましたが、康寿園の皆様、入る機会の少ない介護施設で実習を行わせていただき、多くの現実を学ぶことができました。5日間ありがとうございました。

三浦 大祐

(経済経営学部 青森県立木造高等学校)

【所沢市役所 環境対策課、防犯交通安全課】

所沢市役所環境対策課は、主に騒音・振動や水質の調査を行う部署であり、所沢市が住みやすい街であるための業務を行う部署です。

防犯交通安全課は、主に空き家の調査など、所沢市の防犯業務をする部署です。

【実習期間：8月10日、23日】

信頼されるための責任のある行動

私は、所沢市役所の環境対策課と防犯交通安全課の2つの部署で、1日ずつインターンシップ実習を行わせていただきました。所沢市役所を希望した理由は、現代の社会では環境への配慮や持続可能な社会を作ることが求められており、その中で、所沢市役所は「ゼロカーボンシティ宣言」や地域新電力会社の設立など、先頭に立って主体的に活動されており、その所沢市役所の行動できる職場を実際に体験したいと感じたからです。

実習の内容は、1日目には、環境対策課で地域の観光施設や開発工事が進んでいる所沢駅の騒音調査を行いました。そして、2日目には防犯交通安全課で放置状態にある空き家の木々の調査を行いました。

私が今回の実習を経て、学んだことは2つあります。

1つ目は、臨機応変な対応と様々な事態を予測することです。市役所内で業務を行っている際の窓口にいらした市民の方々への対応や、窓口では対応ができない様な市民の方々からの苦情に対する対応においては、臨機応変な対応によりできるだけ不満を持たせないよう行動することが市役所職員には大切であるということでした。また、様々な事態を予測するとは、空き家の木々の調査とはいっても、その際には、木々だけでなく、ハクビシンなどの動物はいないか、また、倒壊の恐れはないかなど、様々な事態を予測して業務を行うということで、確かにこれは、重要なことだと実感しました。

2つ目は、市役所職員として働くことのやりがいや必要な能力を学んだことです。「所沢市役所」と書かれた車に乗り、目的地まで移動をする業務があり、その時に、市民の方々からの視線をととても多く感じました。市民の方々は市役所職員の行動に興味を持っていらっしゃるのとすることで、市民の視線を感じ取って、歩行者に道を譲るなど、職員の方が様々な気を使っていらっしゃる姿を見て、些細な事が市民からの信頼に繋がるのだと感じました。そして、市民の方々からのある意味でのプレッシャーが、一方では、地方公務員として働く上でのやりがいに繋がっているという事も知りました。また、各課ではグループで活動する事が多いため、積極的なコミュニケーションや分からないことはすぐに聞くことが大事とも知りました。

今回のインターンシップ実習で学ぶことができた2つの事は、今後の私の成長に欠かせないことで、今後も大切にしていきたいと思えます。最後になりましたが、現場で働いている人達の経験や考えを学ばせてくださった所沢市役所の皆様、本当にありがとうございました。今回の経験を糧に、人のために働く意義を大切にしていきたいと思えます。

山口 舞子

(メディア情報学部 埼玉県立所沢西高等学校)

【所沢市役所 所沢市立図書館】

所沢市立所沢図書館は、「市民文化の創造と発展を支える地域の情報拠点」を基本理念とし、誰もが生き生きと学ぶことができるような、生涯学習活動を支える地域の情報拠点となり、人生をより深く豊かなものとするための読書活動推進の拠点でありたいと願って、常日頃から様々なサービスをを行っています。

【実習期間：8月5日、17日～19日、24日】

実務とのつながり

私は所沢市役所 所沢市立図書館で、3日間のインターンシップ実習を行わせていただきました。所沢図書館を実習先に選択した理由は、自分の専攻分野が図書館・アーカイブス分野であり、司書資格を取得予定であるので、自分の学んだ図書館に関する知識が現場でどれくらい通用するのか試したいと思ったからです。

実習させていただいた主な業務は、本の貸出・返却等を行うカウンター業務、図書館内の本の整理を行う在架整理です。そして、その他にも、本をしまう倉庫である書庫の整理、本を保護するブックコートの貼り付け作業等、実際の仕事を多く体験させていただきました。

実習以前にも所沢市立図書館を訪れたことがあったのですが、市民として利用しているだけではわからないことを、実習では数多く知ることが出来ました。例えば、カウンター業務では、貸出・返却・本の予約等に関して、コンピューターによる一連の処理の流れを体験しました。バーコードで読み込んだ本の情報が図書館のデータベースに基づいて表示されたとき、自分の学んだことが実際に現場でも活用されていると感じることが出来ました。また、在架整理では、授業で学んだ日本十進分類法に基づいて分類された本が実際にどのように配架されているのかを確認できました。さらに、通常より字が大きく印刷された大活字本、外国語で書かれた外国語図書など、様々な種類の本が多く取り揃えられていることがわかりました。

実習においては苦労や失敗もありました。例えば、カウンター業務では、本を返却する際に返却日の報告を行うのですが、本をバーコードで読み取りコンピューターで処理を行う作業に集中してしまい、声掛けを忘れてしまうことがありました。また、業務中肘をついてしまい、図書館員の方に注意をされたこともありました。また、最終日の1時間前に書庫の整理をする機会がありましたが、本を段ボールに詰める作業がうまくいかず、他の人の作業を遅らせることになりました。そして、これらの点から、臨機応変な対応を心がけることと、自分に対しての客観性を身につける必要があると学びました。これから社会に出て行く上でどちらも欠かすことの出来ない重要な点なので、日々意識してそれらの力が身に付くよう努力していきます。

最後になりましたが、お忙しい中、実習を受け入れ、優しく指導して下さった市立所沢図書館の職員みなさんに感謝いたします。三日間、どうもありがとうございました。

田中 杏

(心理学部 新潟市立万代高等学校)

【所沢市役所 上下水道局 総務課】

上下水道局総務課は、平成 25 年度に水道事業と下水道事業とを組織統合し、独立性を高めた部署であり、上下水道の管理を行っています。また、小学生に体験授業を行い、上下水道局の仕事や水の大切さを理解してもらう活動もしています。

【実習期間：8月5日、17～19日、24日】

市民の生活のために

私は、所沢市役所で5日間のインターンシップ実習をさせていただきました。1日目には、所沢市役所で、公務員や所沢市役所について、そして、今回のインターンシップ実習では何を目標とするかの説明をしていただきました。そして、2～4日目は、上下水道局の総務課にて実習させていただきました。5日目には、そのまとめとして、また、所沢市役所で、実習を終えて得たことの共有を行いました。

上下水道局の総務課での実習では、浄水場の施設見学や総務課の事務作業、出前教室のDVD作成、職員の方々との対談をさせていただきました。そして、総務課の仕事は多岐にわたるため、一つのことを集中して行うよりも、多くのことを効率的に行うのが重要だと感じました。市役所の仕事は、それぞれの部署が独立していて、デスクワークを中心に仕事をしているというイメージを持っていましたが、実際には、他の課とも連携をとることも多くなっています。また、出前教室という小学4年生を対象とした体験授業を行っており、外に出るの仕事もありました。なお、市役所職員には、必ず課の異動があります。そのため、一つのことを深めたり、自分の専門性を発揮したりするのは難しいですが、幅広い知識を身に付けることが出来ます。

私が今回の実習で学んだことは2つあります。

1つ目は、私たちの快適な暮らしは、誰かの働きのおかげで成り立っているということです。私たちが日々当たり前に使っているお水は、多くの人の働きによって私たちのもとへと届いています。水質の管理や複数の浄水場との連携、水道管の維持など、見えていないところで働いている人が多くいます。また、公務員は競合他社がなく、「全体の奉仕者」であるため、本当の意味で、市民の暮らしのために働いていると感じました。

2つ目は働いていく上での姿勢です。私はこの実習でたくさんの職員の方とお話しさせていただきました。お話の中で印象的だったのは、「素直と謙虚」ということです。水道局内では、他の課との連携が密に行われており、円滑な作業進行のためにもコミュニケーションが必要不可欠です。その際に、教えてもらう姿勢や教えてもらうことを当たり前と思わないという謙虚さや自分の意見はきちんと伝えるという素直さが大事だと学びました。

このインターンシップでは今まで知らなかった水道局のお話や他学生との交流を通じて、自分の視野を広げることが出来ました。最後になりましたが、お忙しい中、本当に貴重な体験をさせていただきました所沢市役所の皆様に、心から感謝申し上げます。

芝田 結衣

(メディア情報学部 銚子市立銚子高等学校)

【株式会社ピーオーエス】

株式会社ピーオーエスは、和気・温和・親和・調和・我・環といった、さまざまな意味を持つ「Wa」を届けることを掲げ、北欧やヨーロッパの商品の輸入や販売、卸し、開発など、幅広く事業を展開しています。

【実習期間：9月7日～9日、12日～14日】

人と商品をつなぐ仕事

私は、株式会社ピーオーエス様および北欧雑貨メツァ店様で合計6日間のインターンシップ実習を行わせていただきました。人とモノを通じて北欧との友好・親睦を深めるといふ企業理念を知り、大学で北欧文化論を履修して北欧に興味があったことから、実習先に希望しました。

初日は、営業所にて担当者の方から会社説明を受けた後、実習先であるメツァ店にて店舗説明を受けました。2日目から5日目は店舗での実習を行い、商品の検品や陳列、梱包など幅広く業務を体験させていただきました。最終日は営業所にて、今回の実習についてのプレゼンテーションを行いました。今まで販売という仕事は、レジで商品を渡すことが中心になると思っていました。しかし、実際には店舗に届いた商品の検品や品出しなど、裏方のお仕事も多くあることが分かりました。特に驚いたのは、商品の陳列の仕方です。商品の間隔を十分に確保することで高級感を損なわないようにする、商品を立てかけて設置して遠くからでも目を引きやすくするなど、取り扱う商品の価値を理解し、大切に扱っていることが分かりました。

今回の実習で一番大変だったのが、商品の梱包です。商品の種類や大きさによって方法も異なるので、梱包に時間がかかってしまいました。その結果、急いで商品を渡そうとする気持ちが先走ってしまい、いい加減な梱包になってしまいました。商品を渡した際に、お客様から「梱包が甘い」とご指摘をいただきました。スタッフの方には「ただ商品を売るために仕事をするのではなく、お客様に信頼していただき、喜んでもらうことが大切」という言葉をいただきました。この言葉を受け、改めてスタッフの方々がどう考えて仕事をしているのか気にするようになりました。そして、お客様が喜ぶことを考えて仕事をしている姿を見て、ただ単に商品を売るだけが販売業ではないと感じるようになりました。仕事に対する思いも、北欧の商品を販売することでゆたかさを届けるお手伝いをしようという気持ちに変わっていきました。販売業は、商品を通じてお客様に幸せを届けることが大事なのだと学びました。仕事において大切なことを学ぶきっかけになりました。

最後になりましたが、お忙しい中私達を受け入れ、ご指導くださった株式会社ピーオーエス様、北欧雑貨メツァ店様に心より感謝を申し上げます。

原口 真利亜

(心理学部 埼玉県立秩父農工科学高等学校)

【株式会社ピーオーエス】

株式会社ピーオーエスは、マリメッコやイッタラなど北欧をはじめとする雑貨の輸入品を取り扱いしている企業です。ムーミンバレーパークに近接しているメツァにて「北欧雑貨」という店名で販売を行っております。

【実習期間：9月7日～14日】

お客様の気持ちに寄り添える仕事

私は、株式会社ピーオーエスの下で6日間の実習を行わせていただきました。1日目は企業の説明を受け、その後の4日間はメツァの店舗である「北欧雑貨」で販売の業務をさせていただき、最終日は4日間で学んだことや、企業の魅力や改善点の発表を行いました。販売の実習では、レジ業務や検品、伝票の確認、ラッピング材料の作成、売り場の作成などを行わせていただきました。

私が普段行っているドラッグストアのアルバイトではレジ業務が多かったため、それ以外の業務について詳しくありませんでした。しかし、今回の実習によって直接お客様とは関わらない業務を体験することができ、販売業について理解を深めることができました。その中でも伝票の確認が一番集中力のいる業務で、一度ミスをしてしまうとそのミスの修正に時間がかかってしまうため苦戦しました。しかし、読み上げながら確認するなど自分なりに工夫することでリスクを減らすよう努力しました。

最初の頃は、お客様と話す際の言葉遣いを気にしてしまい、緊張していました。しかし実習の経験を重ねるにつれ、自分の失敗を恐れるのではなく、お客様の気持ちを理解することが大切だと気づきました。そのことを意識してからは、ある程度リラックスした状態で話せるようになりました。また、「北欧雑貨」はムーミンパークに近接しており、ブランド品を扱っていることから、ギフトとして買われていくお客様が多く見受けられました。お客様が買われた商品をラッピングしてお渡しする際に、お客様の嬉しそうな表情を見ることで、どのような人にあげるのか、受け取った相手はどのような反応をするのだろうかと思惟でき、受け取るお客様の気持ちになって接客することができました。実習を通じてお客様に商品をただ提供するだけでなく、お客様の気持ちに寄り添いながら取り組むことが販売の仕事であることを学びました。

実習前の私は、北欧の雑貨のデザインを知っている程度でした。しかし、株式会社ピーオーエスの皆様が店内にあるブランドや北欧の文化について教えてくださったおかげで知識を深めると同時に、より北欧に興味を持つことができました。慣れない作業が多く、たくさんのご迷惑をおかけしたと思いますが、お客様の気持ちに寄り添いながら接客を行う大切さを学べ、社会人として成長することができました。お忙しい中、貴重な体験をさせてくださり、ありがとうございました。

若田部 佳紀

(心理学部 私立わせがく高等学校)

【社会福祉法人陽明福祉会 陽明保育園】

陽明保育園は、社会福祉法人陽明福祉会によって運営されており、0～5歳までの乳児・幼児を対象に、1日の生活リズムの定着から発達段階ごとの教育、遊びや生活を通じた社会性の獲得など、包括的な養護に力を注いでいます。

【実習期間：8月15日、31日～9月10日】

互いに学び、育っていく

私は、社会福祉法人陽明福祉会 陽明保育園で、併せて11日間のインターンシップ実習をさせていただきました。想定外の日程変更もありながら、密度の高い実習をさせていただけたことに、まずは感謝申し上げます。

期間中は、休日の保育を除いて、3歳児クラスで実習を行いました。子どもたちの身の回りのお世話や、遊んでいる最中の見守り、先生方のプログラムの補助等を行いながら、食事を行うサロンやトイレの清掃、草むしりといった作業にも携わりました。実習中、お世話になった保育士の先生方の誰もが、常に出来ることを探して動き続けていたこと、保育園内の雰囲気は常に明るく朗らかであったことがとても印象に残っています。初めてのインターンシップ実習ということで緊張していた私も、そんな先生方の元であったからこそ、多くの学びと経験を得られたのだと思います。

子どもたち、そして先生方から学ばせてもらったことは数多くありますが、特に得がたく掛け替ええない経験としては、「他者を知ることの大切さと面白さ」ということになるでしょう。

当然のことではありますが、私たちはひとりひとりが異なる性格や特徴を持った個人です。それは子どもも同じなのですが、実習当初の私には、全くと言っていいほどに子どもたちの個性が分からず、ただただ呆然としていました。しかし、子どもたちは、個人差こそあれ、臆することなく私に近づき、話しかけ、してほしいことを当然のように語りかけてくれました。特別な事ではないかもしれませんが、私にとっては驚くべき経験でした。新しい人物を恐れることなく、当たり前のように受け入れるには、何よりも日々の生活や活動が安定していなければなりません。そうでなければ、今を過ごすことに一所懸命になるあまりに、新しい誰かや、新しいものを受け入れるというリスクを冒すことは出来ないでしょう。まさしく実習前の私がそうでした。

子どもたちがその子らしく過ごし、育っていくには、相応の環境が求められると思います。第一にそれは、心身双方の安全性ではないでしょうか。ありのままに過ごす子どもたちの姿は、何よりも保育士が彼らの手本となるべく日々の業務を行い、安心安全の環境を実現させ続けていることの証左に他ならないと思います。他者と関わることの楽しさ、大変さ、難しさ、そして満たされた関わりの有難さを実感したインターンシップ実習となりました。

最後になりましたが、大変貴重な機会と経験を頂いた陽明保育園の皆様へ、改めて心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

TRAN MAI TRUC QUYNH

(経済経営学部 NGUYEN TRAI 高等学校)

【赤門塾株式会社】

赤門塾株式会社は、「塾生・保護者に、学習面・人生面で一生涯貢献し尽くす学習塾」というコンセプトを持つ学習塾です。1971年から51年間にわたって営業している塾であり、親子2世代で通っている生徒もいらっしゃいます。

【実習期間：8月17日～19日、22・23日、25・26日、29日～31日】

交流を通じて学び、感じたこと

私は、赤門塾株式会社の飯能教室で、10日間のインターンシップ実習をさせていただきました。赤門塾で実習を希望した理由は、中学から高校時代まで塾に通っていたので、日本の塾にも強い関心を持っていたからです。授業補佐を通じてコミュニケーションの力をつけ、説明上手になろうと考えました。さらに、サービス業界の動向を深く理解したいとも考えました。

実習内容は、授業において、教室掃除や解答作成をしたり、生徒の送迎に同行したり、生徒に科目を教えたりというもので、塾の経営においては、集客活動の為にビラ・チラシを配ったり、理想的な塾生の獲得のため、周辺地域の学校にパンフレットを配布しに行ったりもしました。

私は、ベトナムからの留学生なので、日本の教育制度についてはあまり知りませんでしたが、インターンシップ実習において、日本の教育制度や塾の雰囲気に対し少し触れることができました。塾長から教え方に関するアドバイスの数々を頂き、社会人として会社に貢献するだけでなく、地域や社会に貢献しなければいけないという意義について学びました。先生たちは様々な分野を勉強している大学生ばかりで、性格や関心のある研究テーマも全然違います。先生方の講話から、私は日本での生活や生徒と接触の仕方を学びました。

さらに、ベトナムとの比較から、日本の文化についても学びました。実習9日目に、ベトナム料理会が行われました。塾での先生たちと、ベトナム料理の生春巻きを巻き、食べる体験をして、文化交流しました。塾生たちは、ベトナムから留学生として紹介された時、ベトナムという国にとっても興味を持っているように見えました。授業も普通より盛り上がり、知らない国について質問できる機会を楽しみにしていました。説明の際に、ベトナムに関連することを紹介し、異文化との交流の中で、自分の価値観が作られたと思います。

日本の職場環境では「始礼」で人が集まり、仕事が始まる前に挨拶や連絡を交わすという礼儀を学びました。ベトナムでは、日本のような「始礼」や「終礼」は全然ありません。だからこそ、日本とベトナムの会社や企業文化の違いは勉強になります。赤門塾で「始礼」は塾理念を読みあげることですが、自分で覚えながら実行しました。

10日間という短い期間でしたが、日越文化交流や仕事の意義についても理解を深めることができました。赤門塾の皆様、インターンシップ実習を受け入れ、指導して下さい、誠にありがとうございました。

BUI THI NGOC CHAM

(経済経営学部 外国の学校等)

【赤門塾株式会社】

赤門塾株式会社様は「塾生・保護者に、学習面・人生面で一生涯貢献し尽くす学習塾」というコンセプトを持っている塾です。創業から50年を待たえる歴史ある塾であり、1対1～1対3までの個別指導を行っています。

【実習期間：8月17日～23日、25日～31日】

初めて人に教える体験

私は、赤門塾株式会社の飯能教室で、十日間のインターンシップ実習を行わせていただきました。赤門塾で実習を希望した理由は、コミュニケーション力を伸ばしたく、子供に関わる仕事が好きで、将来は子供のために貢献したいと考えたからです。自分が成長するため、いろいろな仕事を体験することが必要だと思いました。そして、人に教えることは体験したことがなく、このチャンスで実際に体験しようと考えました。

実習内容は、毎日教室内の掃除作業から始まり、5日目までは、先生方々の講話を聞かせていただき、その話からいろいろなことを学びました。掃除ができれば、仕事の上でも時間を効率的に使えるため、仕事がどんなに忙しくても整理整頓するということを塾長から学びました。講話でベトナムと日本の異文化交流ができ、両国の文化や人間について深く分かるようになりました。講話は1時間しかなかったのですが、積極的に話し合い、分からないことを熱心に教えてくださって、大変ありがたかったです。その他に、生徒の送迎に同行したり、外で草を抜いたり、授業見学と授業補佐を行いました。

初めて人に教えるので、とても緊張し心配していましたが、塾の皆さんが応援してくださり、大変ありがたかったです。塾でのインターンシップ実習のおかげで、人の教え方や生徒それぞれの対応の仕方もわかるようになりました。例えば、生徒により理解度が違うので、教え方や説明の仕方も変えなければなりません。日本とベトナムでは教え方や解き方が違いますが、その相違点から、自分がわかることをさらに学ぶことはうれしかったです。

また、塾長と塾の近くの草を抜き、道路を綺麗にすることによって、自分の力で社会に貢献することができて、大変うれしかったです。人生の中で失敗することが多いと思いますが、草のようにどこでもたくましく成長することを学びました。失敗しても立ち上がって自信を持ち、やり直せば良いと考えます。

今回のインターンシップでは、自分がわからないことを習得することができ、相手とのコミュニケーション力や人間関係のことを深く勉強になりました。さらに、どんな仕事でも必ず意味を持っているとわかりました。頼まれた仕事は意味を見出すことで有意義なものにしたいと思います。

短い期間でしたが、自分の成長を得られ、楽しい時間を過ごすことができました。沢山体験をさせていただいた赤門塾株式会社の皆様、私たちを受け入れ指導してくださり、本当にありがとうございました。

高瀬 渚

(メディア情報学部 栃木県立宇都宮清陵高等学校)

【株式会社ヴェルペンファルマ ヴェルペンスマイルクラス、スマイルスタジオジュニア】

ヴェルペンファルマは、飯能市を拠点として、「安心・信頼・地域密着」を企業ビジョンとして掲げ調剤薬局を中心に、障がい者支援、地域包括支援センター等の事業所を営んでいます。そして、ヴェルペンスマイルは、児童発達支援・放課後等デイサービスであり、障がい者のための通所支援事業です。

【実習期間：8月1日～5日】

障がいのある子どもとのコミュニケーション

私は、株式会社ヴェルペンファルマで、5日間インターンシップ実習をさせていただきました。本来ならば10日までの平日8日間の実習の予定でしたが、諸事情により、残念ながら、5日間の実習になってしまいました。私が今回ヴェルペンファルマでの実習を希望した理由は、元々福祉に興味があり、ボランティア実習という授業で福祉施設へ行った際に障がいを持つ方たちと関わったことで、もっと福祉について学びたいと思うようになったからです。

実習では、主に利用者である障がいや発達に特性のある小学生から高校生に協調性やコミュニケーション能力を育む事業のためのサポートを行いました。具体的には、夏休みの宿題を見たり手伝ったり、レクリエーションやダンスなどのサポートなどをしました。

初日はどのように子どもたちと接したら良いのか分からず、戸惑ってしまい、あまり子どもたちのサポートをすることが出来ませんでした。しかし、子どもたちの方から積極的に話しかけてきてくれたりして、おかげで時間はかかりましたがだんだん子どもたちと積極的に接することが出来るようになりました。

実習では、障がいを持つ子どもたちとどう向き合えばいいか、様々に学ばせていただきました。子どもたちの中には言葉で意思を伝えられない子もいるので、その子が何を求めているのかを自分なりに考えて問いかけ、うなづくか首を振るかで意思を確認する表示できるようにしました。また、子どもたちに注意をしなければいけない状況場面に遭遇したこともあったのですが、障がいを持つ子には特に、注意するべきか様子をみるべきかの判断が上手くつかず、職員の方が注意しているところをただ見ていることしか出来ませんでした。さらに、何か指示を出す時は、「〇〇しよう」などではなく、「〇〇します」と言い切る方がいいと教えていただきました。教えていただいた次の日から少し実践してみると、少しではありますが子どもたちが言うことを聞いてくれました。

子どもたちの中には1人でいるのが好きな子や自分から話しかけるのが好きな子も苦手な子もいたりそれぞれ違うため、子どもたちの反応を見て距離感を測るようにしました。

今回の実習で、障がいを持つ子たちも自らの意思を自分なりに主張し、そしてこちらの言葉を聞いてちゃんと理解しているということに改めて気づきました。

最後になりましたが、お忙しい中実習をさせていただいたヴェルペンファルマ様、貴重な体験をありがとうございました。

宿澤 明日香

(心理学部 東京都立五日市高等学校)

【株式会社ヴェルペンファルマ ヴェルペンスマイルクラス、スマイルスタジオジュニア】

株式会社ヴェルペンファルマは、調剤薬局や障がい者支援事業などを展開しています。そして、障がい者支援のスマイルクラスは、障がい者家族の就労支援及び介護負担の軽減を目的として、障がい者に日中における活動の場を提供しています。

【実習期間：8月1日～5日】

ゲストではなくスタッフとして

私は、株式会社ヴェルペンファルマ スマイルクラスで5日間のインターンシップ実習をさせていただきました。主な実習内容は、利用者の方と余暇時間を過ごしたり、レクリエーションのサポートをしたりすることです。

スマイルクラスの一日の流れは毎日ほぼ同じで、10時に朝の会をし、その後ダンスや運動をするレッスンの時間が設けられています。実習中は、小中学校が夏季休暇期間だったこともあり、さまざまなイベントが行われました。例えば、ボウリングやさかなつりなどで遊べる夏祭りや、飯能河原での川遊びなどです。

この5日間で最も印象に残った事は、相手が障がいを持っている子どもであっても、決して甘やかしてはいけないという事です。相手の子どもたちは私よりかなり年下だったので、最初は、小さな子どもの世話をするようなつもりで、遊んだり片付けを手伝ったりしていました。しかし、他の先生方の様子を観察してみると、必要であれば子どもたちに容赦のない指導をしていらっしゃいました。また、指導を担当された方は、本人にできる事は多少時間がかかっても自分でしてもらおうようにしているとも仰っていました。これらの事が頭では分かったのですが、「外部から来た実習生」という気持ちが残っていたために、初日は、同じような指導をすることはできませんでした。

初日が終了し、一日を振り返った際、いつまでも私が実習生の気持ちでいては、せっかく先生方が用意されている子どもたちの成長の機会を台無しにしてしまうと気付きました。そこで、気持ちを入れ替え、「実習生」というゲストではなく、スタッフの一員として子どもたちに接し、工夫しながら、子供たちの特性に合った指導をするように努めました。

二日目まではまだ、どのくらい毅然とした指導をすればいいのか迷いがありましたが、最終日に近づくにつれてある程度強弱の調整ができるようになりましたし、少しはスタッフの一人としての自覚を持って実習に取り組めるようになったと思います。そして、これにより、私自身も成長することができたと考えています。

最後になりますが、今回のインターンシップ実習で、子どもたちの成長を傍で見守り、子どもたちの成長を支援されている先生方と共に働かせていただくことで、私自身も成長する事が出来たと感じています。お忙しい中実習を引き受けていただき、心より感謝申し上げます。株式会社ヴェルペンファルマの皆様、本当にありがとうございました。

堀田 珠妃

(法学部 東京都立板橋有徳高等学校)

【一般社団法人 奥むさし飯能観光協会】

奥むさし飯能観光協会は、観光案内所での観光案内を中心に、エコツアーなどのイベントも開催している観光に特化した公共団体です。また、市や観光関連の企業と連携し、飯能の魅力を伝えるためのサポートを行っています。

【実習期間：8月11日～14日、17日～19日、23日～25日】

観光を通して知ったコミュニケーション力

私は、奥むさし飯能観光協会で、10日間のインターンシップ実習をさせていただきました。実習では、8日間は、事務局で、飯能市の観光地について、軽作業、簡単な事務処理などをしました。また、2日間は、観光案内所で接客を行った他、観光関連の企業と一緒に回らせていただきました。

私は、観光業に興味がありましたが、飯能市出身ではない上に、ほとんど予備知識がない状態で実習に挑んでしまいました。そのため、皆さんのお話を聞いても、どこの話なのかかわからず、いちいち地図で場所を把握しなければなりません。また、私には、地図上でその場所を見ても、その景観やまちの雰囲気がどのようなものであるか、全く想像できませんでした。しかし、職員の方々は、飯能市の細かいところまで把握されており、常にまちの様子についての情報を収集されていました。そこで、観光案内には現地をしっかり把握することがとても大切であることを学びました。基本的なことですが、観光案内には市内のことをたくさん知る必要があります。また、知り得た情報を職員同士で共有することが、お客様に伝える上では、とても重要であるということも学びました。

事務局では、簡単な軽作業のお手伝いさせていただきました。観光協会扱う製品の梱包やシールを張る作業、そして、電話対応をしました。作業をしながら電話の対応をすることが難しく、中々うまく対応することができませんでした。一つの作業に集中することはさほど難しいことではありませんでしたが、周りにも目を向けながら作業するのは大変で、そういった切り替えをすることが苦手であることに気が付きました。

観光案内所での仕事では、観光地を回るのにも同行させていただきました。観光地までの道中に何があり、どのような道なのかを実際に見て知ることは、お客様を案内する上で必要なことです。また、現地に行き従業員の方々とコミュニケーションを取ることで、お客様に新しい情報をお伝えすることができます。このことから、実際に足を運ぶ重要性を学びました。行ってみないとわからないことが多く、地図上の地理をなんとなく把握できたとしても、案内するのは難しいことだと、お客様とのやり取りや職員の皆様の会話を聞いていて強く感じました。

実習を行って、コミュニケーションがとても大切だと感じました。また、職員の皆さんが暖かく迎えてくださり、普段では聞けないような話を聞くことができ、ためになりました。

奥むさし飯能観光協会のみなさま、お忙しい中、貴重なお時間を割いてご指導いただき、誠にありがとうございました。

大石 和宏

(心理学部 東京都立小平西高等学校)

【一般社団法人 奥むさし飯能観光協会】

一般社団法人奥むさし飯能観光協会は、飯能観光の総合的な窓口を担っており、観光を通じて飯能市の人口を増加させることを目指し、活動している団体です。

【実習期間：8月11～14日、19日、21日、26日～28日】

先を見据える必要がある仕事

私は、一般社団法人奥むさし飯能観光協会で、9日間のインターンシップ実習を行いました。私が奥むさし飯能観光協会を実習先に希望した理由は、お客様のニーズにどう適応すればよいか知りたいと考えており、ニーズに敏感な観光業ならばそれを知ることができると思ったからです。

奥むさし飯能観光協会は、主に観光案内、飯能市のブランド製品の販売、河川管理、催事運営、ツアー催行から飯能市の町おこしを行っています。その中で、今回の実習では、主に飯能河原の河川管理の仕事を体験しました。私が実習を行っていた期間は、丁度、飯能河原における火気使用等に関する有料化実証実験期間に当たっており、来場されたお客様に、バーベキューや河川利用における注意事項などの案内並びに河川の見回りや整備といった作業を行わせていただきました。

私は、飲食店でアルバイトをしているので接客には自信があったのですが、海外のお客様も非常に多かったため、コミュニケーションをとるのがとても難しく感じました。日本語だけでは限界があったので、ジェスチャーなどで理解して頂くように努めました。また、有料化については、リピーターであっても、ほとんどそのシステムを理解されていませんでした。そこで、お客様から聞かれたことだけに返答するのではなく、自分が逆の立場の場合どうしてほしいかを考え、先回りして行動すべきことに気づいたところ、スムーズにご案内できるようになりました。業界が違えば、同じ職種でも、やり方が違うことを実感しました。

また、副会長から観光業の現状、課題、想いについてのお話し頂きました。その中で「わざわざ遠くから来ていただいているから、決して悪い思い出として帰ってほしくない。良い思い出として帰ってほしい。そしてまた飯能に遊びに行きたいと思ってもらいたい」という言葉がとても印象的でした。一時的な利益だけを追及するのではなく、今後の動向まで考える姿勢は、今後、社会人として働くうえでも大事なことだと思います。

また、苦勞したことも沢山ありました。中でも、実習中に台風に見舞われたため、資材や設備などを撤去し、翌日にはそれを再設営するという作業は、想像以上に、過酷でした。しかし、観光業ならではの苦悩を知ることができました。

私は、この実習で、先を見据える重要性というものを学ぶことができました。実習中は予期せぬ事態が多々ありましたが、それもこの実習でしか学べない貴重な体験だったと感じています。

最後になりましたが、一般社団法人奥むさし飯能観光協会の皆さま、貴重な体験をありがとうございました。

NGUYEN TUAN ANH

(経済経営学部 外国の学校等)

【Fun Space 株式会社 さわらびの湯】

Fun Space 株式会社は、企業の存在目的として「社会貢献」と「人間の成長」を掲げ、その達成のために、「品質の向上」と「収益の確保」に努めています。物販施設、文化施設、交流施設、宿泊施設、飲食施設、健康増進施設・温浴施設などを運営しています。

【実習期間： 8月10日～16日】

Fun space・さわらびの湯で学んだこと

さわらびの湯でインターンシップ実習を行うことによって、観光業界についていろいろな体験や気づきがありました。この業界では、他と違って、皆が休んでいる時に一番盛況になるので、一所懸命仕事をし、休んでいる人にレジャーサービスを提供しないとイケません。これが、この観光業界の特徴です。

また、実際に会社に入って働いてみたら、会社では、仕事ができるかどうかだけではなく、人間関係というのも大事で、将来の昇進などに役立つと思います。仕事をする上で、コミュニケーションは必ず必要になるものです。インターンシップを経験することで、学生同士の付き合いではなく、社会人としてのコミュニケーションスキルを学びたいと思い実習に臨みました。そこで、インターンシップに参加した際には、受け身ではなく積極的に先輩社員などから話を聞きました。また、担当してくださる先輩社員が、社内の人や社外の人それぞれに、どのような接し方をしているのかよく観察することが重要だと気付きました。

インターンシップ実習も 5 日目になると、仕事の流れもほとんど覚え、いつ何をやればいいのか把握できるようになりました。そして、先輩などに教えてもらったことをそのままやるのではなく、もっと早く正確に自分で考えてやらなければならないということにも気付きました。それに、わざわざ教えてもらわなくても、先輩を見て真似することも大事だと思います。こういうふうには仕事を身につけていくということは、とどの業界に行っても応用できると思います。

もちろん、それだけでは会社の中での人間関係がよくなるとは限らないし、自分が認められないということもあるはず。そこで、仕事の場で必ず少なくとも一人ぐらいのパートナーを見つけた方がいいと思っています。なぜなら、ストレスが溜まる時や困る時に相談ができるからです。しかも、いじめられても、嫌われても最初の 1 年頑張って仕事をして、先輩や上司の信頼を得ることが大切だと考えています。

最後になりましたが、お忙しい中実習を引き受けてくださったさわらびの湯のみなさま、本当にありがとうございました。

近藤 雄太

(経済経営学部 埼玉県立狭山工業高等学校)

【新電元メカトロニクス株式会社】

新電元メカトロニクス株式会社は、武蔵工業株式会社と連携した会社で、主にソレノイドの設計、開発、営業を行っています。

【実習期間：9月1日～2日】

世界で使われるソレノイドを作る工場は無駄がなかった！

新電元メカトロニクス株式会社での1日目の実習では、まず、ソレノイドがこういった製品なのか、また、どのような用途に使われているのかを詳しく教えていただきました。建設機械や、農業機械、自動車、医療機器、身近なものではコンビニのコーヒーマシンなど様々な用途で使われていることがわかりました。

2日目の実習ではソレノイドを製造している1つ目の工場のライン・設備の見学をさせていただきました。この見学のおかげで後日の武蔵工業株式会社での実習での説明が呑み込みやすくなり、ありがたかったです。その後、3D CADの操作体験をさせていただきましたが、製品の3Dモデルがパーツ毎に動かせるのを見て驚きました。高等学校で学んだ2DのCADでは教わらなかった恐らく3Dならではのものを見て感動しました。

次に、2つ目の工場での加工現場を見学しましたが、ここの方々も1つ目の工場の方々と同じく動きに無駄がなく、殆ど待っている時間もなく、これがプロの仕事なのだと思いました。その後の計測実習では3つの部品を計測しましたが非常に細かい数値まで製品の検査をしていて、信頼される理由はこういったところにあるのだな、と思いました。

2日間の実習でしたが、担当者の皆様にはとても親切かつ丁寧に実習を見ていただいてソレノイドについての知識、随所の工夫、無駄の削減などを楽しく学ぶことができました。新電元メカトロニクス株式会社の皆様、本当にありがとうございました。

【武蔵工業株式会社】

武蔵工業株式会社では新電元メカトロニクス株式会社と連携し、ソレノイドの生産のその多くを担っています。

【実習期間：9月5日～7日】

武蔵工業株式会社では、主に実務作業、つまり製品の製造の実習をさせていただきました。実習以前は工場の中で何をやっているかをイメージでしか分からないという状況だったので、今回の実習の経験は、具体的に工場で働くというのはどんなものなのかを強くイメージできるようになったと思います。3時間同じ場所に立ち続けての作業はとても足に負担がかかり、疲れました。これは体験してみなければ分からないので、とても良い経験だと思いました。

また、工場で実践されていたトヨタ生産方式の七つのムダを減らそうという意識は学校や日常生活など、さまざまな事で参考にできる、と思いました。アルバイトの時に意識してみようと思います。

武蔵工業株式会社の皆様、短い間でしたが、本当にありがとうございました。

舞木 司

(経済経営学部 私立宇都宮短期大学附属高等学校)

【新電元メカトロニクス株式会社・武蔵工業株式会社】

新電元メカトロニクス株式会社は、ソレノイド製品を中心に製造、販売をしており、武蔵工業株式会社は、新電元メカトロニクス株式会社からの生産委託指示を通して、ソレノイド製品を中心に生産している会社です。

【実習期間：9月1・2日、5日～7日】

信頼と改善

私は、新電元メカトロニクス株式会社で2日間、武蔵工業株式会社で3日間のインターンシップ実習を行わせていただきました。

新電元メカトロニクス株式会社では、1日目は経営理念、会社概要、販売製品であるソレノイドについて学んだ後、実際に組立て作業を体験させていただきました。2日目は工場ライン、加工現場の見学、3DCAD、測定器の実習などを体験させていただきました。

経営理念では、7つの行動基準が挙げられていますが、中でも「品質は命」という考え方は、今日まで国内で製造業として信頼を集め、成長してきた大きな理由であると感じました。実際に、昨今のコロナ渦においても医療機器を中心に売上を伸ばしており、多くのメーカーが信頼を寄せていることがわかりました。

3日目からは武蔵工業株式会社に場所を移し、新電元メカトロニクス株式会社で学んだことを活かし、出荷・入荷業務、計量、組立て作業などを体験させていただきました。

作業の中で、多くの担当者様が「トヨタ生産方式」という考え方を徹底されていました。トヨタ生産方式とは、7つの点でムダがない生産体制を構築するために、トヨタ自動車が生み出した生産方式です。7つのムダとは、①つくりすぎ、②手持ち、③運搬、④加工、⑤在庫⑥、動作、⑦不良です。これらを、武蔵工業株式会社では、改善活動の一環として社内全体に取り入れようと努力されていました。担当者様も「改善活動を行わない企業は衰退してしまう」とおっしゃっておられ、企業にとって問題を見つけ、改善することの重要性を知ることができました。

中でも印象に残っているのは、組立て作業において、1個流し方式と呼ばれる1つの流れ作業をひたすら行い、製品を一つずつつくる生産方法でした。このことで、在庫のムダを減らすこと、不良が起きた際のムダを減らすことを可能にしていました。また、作業の中では、どの部品をどちらの手で取るのかまで決まっており、極限までムダを無くし、効率を上げていることに驚きました。

この5日間を通して、目標を定め、達成するために、如何に問題点を改善していくのか分析することの大切さに気付くことができました。今後は必要とされる人材を目指し、今回の実習で見つかった課題を改善し成長していきます。

新電元メカトロニクス株式会社並びに武蔵工業株式会社の皆様、お忙しい中、ご指導いただき、本当にありがとうございました。

本橋 優希

(メディア情報学部 東京都立片倉高等学校)

【西武ガス株式会社】

西武ガス株式会社は、埼玉県飯能市、日高市をサービスエリアとして都市ガスの販売、プロパンガスの販売、ガス工事の設計・施工、水道工事の設計・施工、ガス機器の販売・修理、電気販売事業を行っています。

【実習期間：8月22日～26日】

信頼を得る仕事

私は、西武ガス株式会社で5日間のインターンシップ実習を行わせていただきました。

一日目は、総務グループで西武ガスとガス会社について学びました。二日目は、お客様サービスグループで都市ガスに関しての業務を経験しました。三日目は、供給・保安グループで工事現場や工場での業務や実際に施設の点検等を行いました。四日目はエネルギーサービスグループでプロパンガスに関しての業務を行いました。最後の五日目は、営業開発グループで新築物件の完成検査やガス栓交換を行いました。

三日目の供給保安グループでの実習では、市内にあるガス供給所でガス供給機器の点検や供給の仕組みについて学びました。その中で、実際にガス漏れの検査を行いました。検査の箇所は決まっており、接合部のガス漏れやガスタンクのメーター管理などチェック項目に沿って点検をしていきました。ガス漏れは機械を使い検査を行うのですが、ガスは目では見えないため、どこを検査するのか検査が出来ているのか最初はわからず苦労をしました。しかし担当の方に聞いたり、何度も試したりしていく中でどこが重要で検査が必要なのかを理解し、その後は円滑に検査が出来るようになりました。

五日目の営業開発グループでは、新築のガス検査やガス機器の効果作業を行いました。新築のガス検査は、ガス管からガスが正常に通っているか、ガス管のガス漏れがないかを確認する作業を行い、その結果を記録することでガスに異常がないことを明らかにする仕事でした。実際にガスメーターにガスを通し、ガスの流れや漏れがないかを確認する作業では、機械を使い測定するため、正しく測定するには正しく機械を設置する必要があります。この取り付け方に不備があると正しく測定が出来ず、その後に問題が起こった時に検査を行ったと証明が出来ないため正確に取り付けることが求められる、つまり、お客様が安心してガスを利用できるようにミスなく確実に仕事をする必要があると学びました。

西部ガスでの五日間の実習を通じて、普段使っているガスが安全に使えるのは、日ごろの検査や整備によるものであると学びました。検査を丁寧に正確にやることでお客様に信頼していただけると知りました。

最後になりましたが、お忙しい中、このような貴重な機会を下さった西武ガス株式会社の皆様に、心から感謝申し上げます。

小林 俊介

(スポーツ科学部 私立正則高等学校)

【鳥居観光株式会社】

鳥居観光株式会社は、代表者である平沼庸生さんが経営されており、家族向けのキャンプ場であるケニーズ・ファミリービレッジ、古民家をキャンプ場としてリノベーションした古民家ファミリービレッジの二つを運営しています。

【実習期間：8月3日、10日、19日、24日、28日】

常にお客様に寄り添うことの重要さ

私自身、キャンプにとっても興味があり、キャンプ雑誌を買っては流行りのキャンプ用品や、最新のキャンプ用品をチェックしたり、YouTube で様々なキャンパーが日本各地でキャンプをしている動画を見たりしています。そんな「好きなこと」であるキャンプを仕事にしたら、どのような感情を抱くのか、どのような発見があるのかを確かめるべく、鳥居観光さんでのインターンシップ実習を希望し、「好きなこと×仕事」に焦点を当てて、今回の実習に臨みました。

実習では、キャンプ場の管理や清掃業務、キャンプ場のレンタル品の点検、お客様にキャンプ場を案内するなどの接客業務を行いました。業務全体を総括すると、どの業務もお客様がいかにキャンプ場を安心して楽しく利用できるのかを考えて、それを念頭に置いて業務に取り組みなければならないので、終始気の抜けない実習になりました。

清掃業務では、常にお客様に見られているという意識を持ち、トイレを含め、隅々まで清掃することを心掛けました。その理由は、一般に「キャンプ場のトイレは管理がしっかりされてなくて汚い」というイメージを持たれているので、それを大きく覆して、絶対的安心感をお客様に持っていただきたいと思いますと思ったからです。サービス業は、常にお客様に見られ、評価されるものであり、それが悪ければ、経営に悪影響を及ぼしかねません。清掃業務は、そのような重い責任が伴う業務だと痛感しました。

また、お客様をキャンプ場に案内したりする接客業務も、自分にはなかった仕事に対する新たな価値観を与えてくれました。私は、元々、知らない人と面と向かって話すことがとても苦手です。しかし、あえて苦手なことと向き合うことによって、新たな気づきがたくさんありました。お客様に対する言葉選び、どのような表情で接客すればいいのか、接客する度に、次はもっと伝わりやすいように工夫しようと心掛けたり、新たな課題を発見したりと、接客には自分が成長するきっかけが沢山ありました。今回のインターンシップで自分にはまだ秘めたる可能性があることを実感できました。

しかし、失敗から学ぶことも多くありました。清掃の際、清掃手順の効率が悪く、他の作業の時間を削ってしまうこともありました。また、接客では、お客様からの予期せぬ質問や依頼に対応できず、お客様に迷惑をかけてしまうことも多々ありました。

仕事には自らが成長したり、新たな発見をさせたりしてくれる素晴らしい要素があることに気づかせてくれたこの実習を提供してくださった鳥居観光さんには感謝しかありません。ありがとうございました。

吉永 華穂

(経済経営学部 私立埼玉平成高等学校)

【NPO 法人名栗カヌー工房 ソグベルク】

名栗湖に本店を置く NPO 法人名栗カヌー工房は、地元の西川材を有効活用し、カヌーや小物などの製作、レンタルを行っています。そして、ソグベルクは、メツァ内の工房で、同様のレンタル以外に、ワークショップを展開しています。

【実習期間：8月8日、10日、13日、16日、18日、20・21日】

新しい発見

私は、NPO 法人名栗カヌー工房 ソグベルク様で、幅広い年齢の方を対象に、カヌー体験、ワークショップの対応といった実習を7日間行わせていただきました。今回、ソグベルク様を実習先として希望した理由は、私は人前に立って接客するのが好きで、飲食店で現在アルバイトをしているのですが、飲食店以外の経験を通して、接客の技術をさらに磨きたいと思ったからです。

実習先で人前に立った時に、接客において誰もができる「挨拶」、「姿勢」、「表情」については意識できていたものの、自分が予想してなかった質問に焦ってしまい、お客様にお時間をいただくことができました。実際に私に頂いた質問は「自動販売機の場所、温泉施設の場所はどこ？」といった、ソグベルク以外の施設についての質問や、「メツァってどういう意味？」といった、メツァの従業員なら知っていて当然のことでした。それを知らなかったということから、接客するにあたって、お客様目線に立つ意識が欠けていたことを痛感しました。

何日か日数を重ねるごとに接客に慣れ、少し余裕ができたので、お客様に、「今日はどこからいらしたのですか？」、「この後の予定はどうされるのですか？」などと、こちらから少し問いかけてみました。すると、お客様も答えてくださいました。都内からのお客様が多いことも分かりましたし、高齢のお客様が「メツァは自然に囲まれていて落ち着く。しかも孫と一緒に楽しめる施設がたくさんあるから何度も来てしまう！」とおっしゃってくださったことから、メツァはパークがオープンして今年で5年とまだ日は浅いにもかかわらず、リピートしてくれるお客様がもうたくさんいることを知り、とても驚きました。さらに、夫婦でワークショップを体験なされた方は、「この前、名栗のカヌー工房（本店）に行ってきたけれど、時間をかけて行った甲斐があったよ」とおっしゃってくださり、メツァだけではなく、名栗カヌー工房もたくさんの方に知られ、愛されていることに気づきました。

このように、ただ接客をするだけではなく、お客様と交流を深めようとする中で、お互いに良い気持ちになったり、良い思い出ができたりしましたし、実際にお客様の声を聴かなかつたら気づかなかつた、新しい発見をすることができました。これが、今回の実習を通じて目標としていた接客の技術を磨くことに繋がる一番の収穫となりました。

最後になりましたが、たくさんのお客様に愛されているソグベルク様。そして、従業員の皆様。お忙しい中、貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

権藤 千美

(メディア情報学部 私立福岡第一高等学校)

【NPO 法人名栗カヌー工房 ソグベルク】

名栗カヌー工房 ソグベルクは、メッツァにおいて、飯能の木材を使用した商品の販売、ワークショップ、レンタルカヌーなどの体験を提供しています。木を通じて、名栗湖の環境保全や自然に対しての関心を高める取り組みを行っています。

【実習期間：8月17日、19日、23・24日、26日、29日】

お客様の立場に立って接客をする

私は、NPO 法人名栗カヌー工房 ソグベルク様で、6日間のインターンシップ実習をさせていただきました。ソグベルク様での実習を希望した理由は、接客を通してコミュニケーション能力を向上させ、さらに、対人間で発生するイレギュラーな出来事に対する咄嗟の判断力や対応力を身につけたいと思ったからです。

実習では、主に、木材を使用した小物に色付けや飾り付けができるワークショップの接客やカヌーレンタルの補助を行いました。

私が実習を通して学んだことは二つあります。

まず一つ目は、わからないことはそのままにせず、聞くということです。ソグベルクでは、木を使用した商品や体験をメインにしているので、お客様から木にまつわる質問をたびたび頂きます。中には、「この商品に使われている木の特徴はなんですか？」や、「この商品に使われているオイルはなんですか？」など、専門的な知識を求められることもありました。ここでお店が忙しいから、聞くのが怖いからという勝手な判断や私情を持ち込み、お客様に間違った情報を伝えてしまうことは、何があっても絶対にやってはいけません。その際は、専門的な質問に詳しいスタッフさんに対応を代わっていただき、どのような返答をされているかを聞いて、次に同じ質問をされた時に対応できるようになるように努めました。当たり前のことですが、聞いて自分のものにして、活用する大切さを再確認することができました。

二つ目は、笑顔の大切さです。ソグベルクは、お年寄りの方から赤ちゃんまで、幅広い年齢の方がいらっしゃるお店です。特に園児や小学生のお客様に関しては、笑顔や優しい言葉で接客しなければ、怖い印象を与えたり、お店の印象を悪くしたりしてしまう可能性があります。実習1日目や2日目あたりは、とにかくミスをしないようにという気持ちでいっぱい、お客様に目を向ける余裕がありませんでした。しかし、5日目、6日目にもなると自分の表情にも余裕ができ、笑顔を心がけ、お客様の表情を確認しながら接客をすることができました。そうすると、お客様もお帰りの際に、「楽しかった」、「ありがとうございました」などと言ってくださり、良い思い出作りのお手伝いが出来たのだと、嬉しく感じました。

最後になりましたが、名栗カヌー工房ソグベルクの皆様、お忙しい中ご指導いただき、ありがとうございました。いただいたアドバイスを多くに場面で活かせるように努力していきます。

齊藤 江紀

(心理学部 新潟県立佐渡高等学校)

【埼玉県立名栗げんきプラザ】

名栗げんきプラザは、県立奥武蔵自然公園内に立地し、青少年の健全な教育を図っている社会教育施設です。自然体験活動を提供し、補助することを通じて、とりわけ主体性や問題解決力、協調性を育むことを目指しています。

【実習期間：8月20日～27日】

仕事の意味とは

私は、埼玉県立名栗げんきプラザ様で、7日間のインターンシップ実習を行わせていただきました。ここを実習先を選んだ理由は、私は昔から自然が好きで、自然の素晴らしさを伝えられる観光業やレジャー系を志望しているからです。様々な年代と関わる経験ができ、豊かな自然の中にあるプラザでの実習ならば、貴重な学びの機会になると考えました。

実習では、施設内の点検から始まり、プラザのポスターやチラシの包装などの雑務や体験学習の指導の補佐を中心に務めました。その中で、仕事の意味やプラザの理念の意味など様々なことを学習し、考えを改めることとなりました。

プラザは、カレー作りや木のクラフトの機会を提供しています。私がスタッフとして利用者にできることは体験前の説明のみであり、自分自身の考えで動き解決することで成長するよう促しています。私も、スタッフとして、それを実践し、プラザの理念を理解しようとしました。しかし、子供がそもそもやる気がなかったり、引率の方の方針が主に楽しませることだったりして、主体性を育てるという方針に沿うことが難しいことも多くありました。また、私自身実習生であったために、現場で利用者に尋ねられてもうまく対応できなかったり、雑務に従事し現場に出ることができなかったりして、焦りを感じたこともありました。

うまくいったとは言えないことも多かったのですが、失敗から学ぶこともできました。プラザの方針に沿っていない場合には引率の方と相談することや、子供にやる気がない場合にはその原因を探ること、また、曖昧に返事をせずスタッフの方がフォローできるまで雑談をするなどの対処手段を考え、実行しました。考えれば考えるほど、現場の柔軟性や経験、そして積極性の必要性を感じました。また、雑務に関しても、考え直す機会がありました。雑務とはいえど、それはプラザの告知のためのものです。当初の期待とはずれた仕事であったためやや倦厭することもありましたが、プラザにとっては活動の生命線であるからこそ、利用者対応よりも多くの時間を割いて従事しているのだと注意されました。このことがあり、どんな仕事でも真剣にこなすことの重要性に気づき、それを大事にしたいと思いました。

私が体験した7日間は、失敗の挽回ができないほどに短かったです。しかし、その中で、これが失敗だと認識できたことや挽回の方法を思いついたのは、プラザのスタッフの方々のおかげでした。挽回のチャンスがなかなか恵まれなかったことは悔しかったのですが、今回の体験を通じて学んだ対応力や積極性を大事にし、これからは活かしていきたいと思っています。名栗げんきプラザの皆様、お忙しい中、7日間の実習をさせていただきありがとうございました。

小田川 茜

(メディア情報学部 私立日々輝学園高等学校)

【NPO 法人ぬくもり福祉会たんぽぽ デイサービス田園倶楽部】

NPO 法人ぬくもり福祉会たんぽぽのデイサービス田園倶楽部は、利用者様の自立支援を積極的に行っています。

そして、趣味活動やレクリエーション、ぶどう狩りやお花見、フィッシングツアーなどの様々な行事も行っています。

(行事の一部は新型コロナのため中止中)

【実習期間：8月10日～12日、15・16日】

一人ひとりに合わせたコミュニケーション

私は、NPO 法人ぬくもり福祉会たんぽぽのデイサービス田園倶楽部で、5日間のインターンシップ実習をさせていただきました。今回、実習先としてデイサービス田園倶楽部を選んだ理由は、私の身の回りに認知症や体の不自由な人がいないため、インターンシップ実習で利用者様と実際に話をすることで認知症や高齢者について理解を深めることができたからだと思います。

実習では、職員の方の補助という形でお昼ご飯やおやつの配膳・下膳をしました。ほかに、午後のプログラムの手伝いをしたり利用者様と会話をしたりしました。

私は、今回の実習で、利用者様と話すことが多くありましたが、緊張してしまいどのような距離感で接していいのかわからず戸惑いました。ですが、職員の方に認知症のことや利用者様について教えてもらえたため、日を追うごとに少しずつ慣れていき、利用者様と話すのがとても楽しくなりました。

利用者様の中には認知症の影響で怒りやすくなっている方もいました。そこで、話しかけ方や、視線を合わせるなどを意識して対応しました。ほかにも、家に帰ろうとしてしまう方など様々な症状が認知症にはあることを知ることができました。認知症の症状について知ることによって利用者様にどのように接したらいいのか考えることができました。

今回の実習で実際に利用者様と話したり一緒に作業をしたりすることで、認知症と一括りにして対応するのではなく、利用者様一人ひとりとしっかりコミュニケーションをとり、その人の性格や症状、自分でできることを理解したうえで接することが大切なのだということが分かりました。そして、一人ひとりに合わせたコミュニケーションは、認知症や高齢者の方の対応だけでなくほかのサービス業でも大切なことだと思うので、今後活かしていきたいらと思います。

初めての实習で慣れないことが多くありましたが、職員の方や利用者様が優しく接してくださったおかげで楽しく実習をすることができました。そして、実際に利用者様と関わることができたおかげで、認知症や高齢者についての理解を深めることができました。NPO 法人ぬくもり福祉会たんぽぽデイサービス田園倶楽部の皆様、この度は実習を受け入れていただきありがとうございました。

大石 雄生

(心理学部 東京都立東大和高等学校)

【飯能ケーブルテレビ株式会社】

飯能ケーブルテレビ株式会社は、飯能市と日高市を中心に有線テレビジョン放送事業を展開する民間企業です。放送番組の制作および販売を行う放送事業とインターネットサービスやコンピュータシステムの開発等を行う通信事業の大きく2つの業務が主軸です。

【実習期間：8月5日～9日、27日、9月2日】

飯能ケーブルテレビ株式会社での7日間

私がインターンシップ実習でお世話になったのは、飯能ケーブルテレビ株式会社です。7日間という短い期間でしたが、多くの経験をさせていただきました。実習では、主に取材に同行してのインタビューや撮影の手伝い、撮影した素材から放送に使う内容を切り抜く編集作業の大きく2つの仕事をさせていただきました。

取材では、実際にインタビューをさせていただいたのですが、その際の質問の仕方を工夫しました。具体的には、回答者に合わせ放送に差し込みやすい応答が返ってくるような質問を考えました。例えば、1日目に子供向けのイベントで子供たちにインタビューをしたのですが、「何が」、「どのようなところが」の二点を引き出す質問をすることができませんでした。相手が子供だったので、なかなかこちらが意図するような答えを引き出すことができずとても時間がかかってしまい、結果として子供が萎縮してしまっていたように思います。この反省はその後の実習での良き教訓となって、最終的には社員の方に褒められるまでに上達しました。

編集では、取材よりも多くの時間と精神を使ったように思います。そして、正直に言うと、実習の前後で最もイメージが変化しました。私に与えられたのは10分程度あるスピーチ素材の中から15秒～30秒で見どころをまとめるということでした。スピーチの内容が視聴者に伝わるような箇所を見つけ、そこを切り取るという作業でした。この中で、見どころとなるスピーチ内で端的に「誰が」、「何を」といったことが述べられている箇所を探し出そうと、長い間集中し続けざるを得なかったので、集中力が鍛えられたと思います。また、この映像をどのように放送で使うことができるのか、放送では実際にどのような編成になるのかとイメージを膨らませながら作業したので、「こんなことがしたい」、「この素材があればこんなことができる」と構成力も伸ばすことができたと思います。

飯能ケーブルテレビ株式会社での7日間のインターンシップ実習経験は、私に、社会人として必要な忍耐力と思考力を鍛えてくれました。初めは興味本位でインターンシップ先選ばせていただいたのですが、結果として、様々な良い影響を得ることができました。報道制作課の皆様や取材先でお世話になったたくさんの方々に感謝を伝えたいです。ありがとうございました。

石川 汰暉

(スポーツ科学部 東京都立第四商業高等学校)

【NPO 法人飯能市スポーツ協会】

NPO 法人飯能市スポーツ協会は、昭和 24 年に飯能町体育協会として設立され、今に至ります。指定管理制度によって飯能市から飯能市内のスポーツ施設の管理業務を委託され、サービス向上に貢献しています。

【実習期間：8月23日～9月3日】

裏方の仕事の大切さ

私は、NPO 法人飯能市スポーツ協会で、9日間のインターンシップ実習を行わせていただきました。主な実習内容は、体育館事務所内での受付業務、市民球場やソフトボール場の整備、忘れ物や廃棄書類の整理などでした。私は将来、なにかのかたちでスポーツに関わる仕事がしたいと思っており、実際にスポーツ施設で働く経験を積んでみたいと思い、飯能市スポーツ協会を実習先に選ばせていただきました。

体育館事務所内での受付業務では、体育館やトレーニング施設を利用しに来たお客様の対応の他、電話対応や当日の予約の確認なども並行して行いました。当日の予約の確認では、予約した団体が来館するまでに申請書と許可書を印刷しておきます。市民球場やソフトボール場の整備では、主にグラウンド内の雑草の除去や芝の整備などを行いました。特に市民球場の整備には力を入れていて、マウンドの整備、トンボがけ、ライン引きなども行っており、球場は高校野球の大会や、プロ野球の試合にも利用されています。

私がインターンシップ実習で体験してきた業務は、お客様に体育施設を気持ちよく利用していただくための、いわば裏方作業のような業務が多かったと思います。受付業務では、基本的には窓口で座りお客様の対応をしつつ、空いた時間に事務作業を行っていました。しかし、最初のうちはスムーズに業務をこなすことができず、一度に複数の仕事が重なると、お客様を待たせてしまうこともあり、焦って接客中に無意識にひじをついてしまい、注意を受けるということがありました。そこでたくさんの仕事が一度に舞い込んでくる余裕のないような状況でも、丁寧な接客を第一に考えることを教わりました。グラウンドの整備では、長時間屋外での作業をするため、帽子や飲み物を用意して、業務に参加させていただきました。グラウンド内の障害物や雑草の除去などを行っている際に、担当の方からこの作業はお客様が安全に利用できるように行う必要があるとの説明を受けて、一見地味な作業でも大切な役割があるということを実感し、お客様の目線になって仕事をするということと、与えられた業務の意義を考えながら行うことの大切さを学ぶことができました。

飯能市スポーツ協会の皆様、お忙しい中、たくさんの貴重な体験をさせていただき心より感謝申し上げます。この経験を、今後の人生でいかしていきたいと思っております。誠にありがとうございました。

小嶋 揺楽

(法学部 埼玉県立狭山経済高等学校)

【飯能市役所 飯能市立図書館】

飯能市立図書館は、飯能市内にある四つの図書館の一つで、飯能駅から徒歩 15 分の場所にあります。地元の西川材が多く活用されており、木の温かな雰囲気を感じられる図書館です。

【実習期間：9月23日～27日】

体験することの大切さ

私は、飯能市立図書館で、5日間のインターンシップ実習を行わせていただきました。

私が行わせていただいた主な業務は、カウンターでの貸出と返却の作業、そして、返却された書籍を所定の位置に戻す配架です。他にも、開館のあいさつ、いっぱいになった書庫の整理と除籍候補の本を探す作業、今月のテーマであるアルツハイマーについての展示作業、定例会の見学などを行わせていただきました。

中でも印象に残っているのは、ボランティアの皆様を交えた定例会です。はじめにお話を伺った際は代表者数人による小規模の会議を想像していました。ところが、実際には、数十人の方々が参加されており、しかも、活動報告や今後の目標について活発に議論が行われていました。私は、その定例会を見学して、図書館が書籍の貸出以外に紙芝居制作や読み聞かせの出張など多様な業務を行っていること、そして、それが地域の皆様の支えによって成り立っていることを理解しました。

その他にも、図書館に対する自分のイメージと実際の業務との差を感じることも多々ありました。例えば、実習を行う前に私が思い浮かべていた図書館のイメージは、事務的な作業ばかりという冷たいものでした。しかし、実際には、利用者の方々のためを思って親身になって作業を行い、笑顔で挨拶をすれば利用者の方も挨拶を返してくださるというとても温かな場所でした。

このことから、私は、調べて得た知識やイメージと実際に体験して得られる情報・知識では大きな差があるということ学びました。これからは、ただ自分の知識やイメージにとらわれるのではなく、実際に体験することを心がけ、物事をより深く捉えられるように努めていきたいと思いました。

最後になりましたが、飯能市立図書館の皆様、お忙しい中、また、コロナ禍の影響で突然の変更があったのにも関わらず、貴重な経験を得る機会をくださり、心から感謝申し上げます。5日間という短い間でしたが、大変お世話になりました。ありがとうございました。ここで得た経験を糧に、これからも精進していきたいと思っております。

齋藤 大夢

(法学部 群馬県立前橋南高等学校)

【飯能市役所 飯能市立図書館】

飯能市立図書館は、「市民に愛され、市民と共に創り続ける図書館」を基本理念とし、生涯学習の拠点として、様々なサービスを提供しています。館内には、森林文化都市・飯能の特産品・西川材が使用されています。

【実習期間：8月23日～27日】

実務ならではの学び

私は、飯能市立図書館にて、5日間のインターンシップ実習を行わせていただきました。私は、公務員を志望しており、中でも司書業務に興味を持っていて、大学でも司書課程において日々その学習を深めています。この実習に臨むにあたっては、これまでに学んだ知識を試したいと思うとともに、座学では学べない事柄を実地で学び、今後の学習、そして、将来に役立てたいと考えていました。

実習では、カウンターでの貸出・返却、返却された本の点検及び配架、書庫の整理、展示準備、寄贈された本の配架準備、他の図書館と本の貸借を行う相互貸借等、様々な業務をさせていただきました。また、ボランティア定例会の見学もさせていただきました。実習では、ある程度これまで司書課程にて学んできた知識を活かして業務に取り組みたと感じましたが、経験した事のない業務や知らない事も多くありました。しかし、担当の方や職員さんに優しく教えていただき、無事に実習を終える事が出来ました。

私がこれまでに行政や司書の学習において得た知識は、この実習をするにあたっても確かな「財産」であると感じられました。同時に、自分の知識の未熟さや定着の曖昧さにも気づかされました。また、実務に携わる事で、自分の知識がより確かなものになる事も感じられました。それゆえ、「財産」をより大きなものにする為にも、知識を得る学習が大切であり、仕事について知る「職業研究」は、仕事をする上で必要なものであると学びました。

具体的な業務においても多くの学びや発見がありましたが、特にカウンター業務においては、「相手目線」が大切だと学びました。利用者様を相手にする際は、笑顔はもちろんですが、声の大きさをはじめ、利用者様にとってどのような言葉が伝わりやすいか、どのような言葉遣いが心象良くなるか等、様々な事に気を遣わなければなりません。また、他にも、展示もどうすれば興味を持って貰えるか、どのような本を薦めるか等、利用者様の立場に立って考える必要があります。ここから、「相手目線」が大切だと感じるとともに、「公務員」として働く事を体感する事が出来ました。

そして、向上心を持って弛まず学習する為にも、相手の目線に立ってより良質なサービスを提供する為にも、総じて、自分が成長する為には、自分自身を律し、「謙虚な姿勢」を持つ事が必要だとも学びました。

最後になりますが、大変お忙しい中、インターンシップ実習を受け入れて下さった飯能市立図書館の皆様には感謝申し上げます。この度は本当にありがとうございました。

田村 優稀

(法学部 埼玉県立坂戸西高等学校)

【飯能市役所 飯能市立図書館】

飯能市立図書館は、「市民に愛され、市民とともに作り続ける図書館」を基本理念に活動を続けています。館内は、飯能市の特産品である西川材を活用した、木の薫り漂う心地の良い空間で、市民の憩いの場所です。

【実習期間：8月23日～27日】

人と本の繋がり

私は、飯能市役所 飯能市立図書館で、5日間のインターンシップ実習を行わせていただきました。そして、実習では、本の貸し出し・返却のカウンター業務、日替わり展示物準備、書庫整理、リクエスト受付、寄贈資料受入などに加えて、アルツハイマーに関する特別展示の準備を行いました。これは、9月がアルツハイマー月間として世界で決められているので、それにちなんだ本を展示するというものですが、あわせて、飯能市役所と連携して、様々な病院の先生からのおすすめの本やコメントも紹介するなど、とても大掛かりな展示でした。そして、その準備として、ラミネート加工や展示レイアウトなど、大変重要な作業を経験させていただきました。

今回5日間のインターンシップ実習を経験させていただいて、特に強く印象に残ったのは、職員の方々もお客様も、本が大好き、図書館が大好きだと感じられた事です。職員の方々には、少しでも多くのお客様に本を手にとっていただこうと、リクエストされた本を新たに仕入れたり、図書館に来ることのできない方の為に移動車を用いたり、図書館で映画会を開いたり、本や図書館をより身近に感じていただくために、日々努力をされていました。

映画会には、土曜日にも関わらず、多目的ホールが埋まるほどのお客様がご来場くださり、映画会の終わりには、「良い映画でした、ありがとうございます」と声をかけてくださいました。設営から携わった私たちにとって、こういうお言葉をいただけるというのは、何よりの喜びでした。貴重な土曜日に多くのお客様がいらしてくださり、とても楽しそうにしていらっしゃるという事から、お客様も図書館が大好きで居心地の良い場所だと感じていらっしゃるのだろうと感じました。しかし、これも、図書館職員の方々の努力のたまものであり、1人1人に親身になって対応されている普段の振舞がお客様に伝わり、信頼を生んでいるからだろうと感じました。

私はこの実習を通して、幅広い年代のお客様とのかかわり方を学ぶとともに、図書館という場所は憩いの場であり、1人でも多くのお客様に本を届けることで笑顔になっていただくことのできる素敵な場所だという事を知りました。また、1冊の本を手にとっていただくために、いろいろな工夫と努力をし、多くの方々と協力しながら進められている図書館職員の皆様の姿から、仕事をしていく上でとても大切なことを学ばせていただきました。

最後になりましたが、飯能市立図書館の皆様、コロナ過で大変な中、この実習を受け入れ、貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。

松本 諒平

(法学部 埼玉県立川口東高等学校)

【飯能市役所 飯能市立図書館】

飯能市立図書館は、「市民に愛され、市民と共に創り続ける図書館」を基本理念に、毎月行われる映画会やテーマを決めて行われる本の特別展示など、様々なサービスを提供している図書館です。

【実習期間：8月23日～27日】

一つ一つの作業の必要性

私は、飯能市立図書館で、5日間のインターンシップ実習を行わせていただきました。私が飯能市立図書館を実習先に希望した理由は、公務員を目指しているからです。公務員の仕事は、市民の声を聞き、知識を活かして市の問題を解決することです。そして、図書館の仕事は、利用者が探されている情報を聞き、知識を活かして情報を提供することです。そこで、図書館の業務から公務員としての働き方を学べるのではないかと考え、飯能市立図書館での実習を希望しました。

私が実習をさせていただいた業務は、貸出・返却のカウンター業務、書庫の整理、飯能市立図書館に所蔵されていない資料を他の図書館から借りる手続き、寄贈本に保護フィルムを貼る業務、特別展示の展示準備などで、どれも図書館の職員でなければ体験できないものばかりでした。実習前に私が思い浮かべていた図書館の仕事は本棚の整理や資料の貸出・返却のカウンター業務などに過ぎず、ここまで幅広い業務がなされているとは思ってもいませんでした。

5日間の実習でもっとも印象に残っていることは、「一つ一つの作業の必要性」について教えていただいたことです。飯能市立図書館に所蔵されている資料にはICシールが貼られており、貸出・返却カウンターのパソコンで読み込ませなければ図書館から持ち出せない仕組みになっています。しかし、私は、作業を覚えることが苦手なので、この読み込み作業をすぐには覚えることができず、初日には、何度も担当の方に質問をしてしまいました。担当の方は、その作業をする理由をルールという言葉で済ませるのではなく、その作業をしないことでどのようなリスクが発生するのかを説明することで、一つ一つの作業の必要性を教えてくださいました。そのおかげで、作業の必要性を念頭において一つ一つの業務をすることにより、「忘れてはいけないという意識」が強まり、自然と作業手順を覚えることができました。ここから、相手に作業手順を教える際には、その作業をしないことでどのようなリスクが発生するのかを教えることにより、作業の必要性について相手にわかりやすく説明でき、教えられた側も作業の必要性を意識することで作業手順を忘れないようになるということを学びました。私自身、この学びを活かすことによって、物覚えの悪さを克服していきたいと思います。

最後になりましたが、飯能市立図書館の皆様、お忙しい中、実習を受け入れて、貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

齋藤 壮志

(メディア情報学部 私立中央国際高等学校)

【飯能市役所 飯能市立図書館】

飯能市立図書館は、「市民に愛され、市民と共に創り続ける図書館」を基本理念に作られ、幅広い世代の利用者に合った形で情報発信を行ない、ボランティア主導の活動も行っている図書館です。

【実習期間：8月23日～27日】

「相手」を考えること

私は、飯能市立図書館で、5日間のインターンシップ実習を行わせていただきました。飯能市立図書館を希望した理由は、将来図書館で働くことを目指しているため、実習を通して図書館で働くとはどういうことかを現場で学び、将来役立てたいと考えたからです。

私が実習させていただいた業務は、主に配架作業と貸出返却をするカウンター作業でした。他にも、本の展示や寄贈本へのブックカバー貼り、相互貸借、書庫整理、イベントの裏方作業などをしました。これらの様々な業務を細かく覚えていくことは容易ではなく、しかも、ミスをしてはいけないという緊張感と丁寧に行わなければならないというプレッシャーがあって、多くの業務で苦戦してしまいました。しかし、担当の方が工程のプリントを作って細かい部分まで丁寧に教えて下さったので、一つの業務に費やす時間は多くなってしまいましたが、大きなミスをする事が無く全てを終えることが出来ました。

実習での多くの業務の中で、印象に残ったことは、相手のことを常に考えて行動するという事です。職員の方から業務を教えていただいている時、「相手のことを考える」という言葉がよく出てきました。一つ一つの作業において「相手」のことを考えて、言動に注意して行動することが、相手の不安が減り、笑顔になってもらえるという結果に繋がるということです。例えば、配架作業の時には、次の利用者のことを考え、葉がある本は葉を中にしまって本の見た目を整えて戻します。また、カウンター業務の時には、利用者様とともに一緒に座っている職員の方のことを考えなければなりません。そこで、利用者様には、返却を忘れていた本がないかという不安を取り除くために、一言添えて本を渡します。また、職員の方には、自分が時間内に終わらなかった作業について、どの作業まで終わっているのかなど引き継ぎをできるだけ細かくするようにしなければなりません。このように、サービスや情報提供、資料提供だけでなく、多くの人に対する心遣いをする事で、それぞれが自分のやりたいことを快く進めることが出来るという事を学びました。

また、飯能市立図書館は多くの人とのコミュニケーションも大切にしており、自分の意見を伝えるだけでなく相手の要望を取り入れることの重要性を学びました。

最後になりましたが、飯能市立図書館の皆様、お忙しい中、そしてコロナ禍にもかかわらず、実習を受け入れてくださり、本当にありがとうございました。

鴨下 遼太

(法学部 埼玉県立飯能高等学校)

【飯能市役所 飯能市立博物館】

飯能市立博物館は、フィンランド語でありがとをを表す「kiitos」をベースとした「きとす」という愛称がつけられており、歴史展示室、飯能と西川材、身近な自然コーナーを常設展示し、飯能の歴史や文化、自然についての展示を行っています。

【実習期間：8月16日～25日】

失敗と反省を改善に

私は、飯能市立博物館で、7日間、実習をさせていただきました。実習では、私は、保管されている公文書の入った段ボールの中の整理、及びそれらが排架される棚の整理、そして公文書の目録作成をさせていただきました。最初の3日間では、段ボールと棚整理、目録作成に使うための写真撮影を行い、残りの4日間で、撮った写真をもとに Excel を使用しての排架場所の配置図作り、公文書の目録作成をさせていただきました。

最初の3日は公文書の入った重い段ボールを動かす力仕事、残りの4日は Excel を使用した事務仕事と、一見つながりの薄い仕事に思えますが、最初の3日間で気づけなかったことに後の4日間で気づくなど、とてもつながりの強い仕事でした。例えば、棚整理中に、保存されている公文書の中身を確認するため、業務に差し支えない範囲で読ませていただいていたのですが、その貴重な体験の中では特に気に留めなかった文書を、目録を作成する中で、「読んでおけばよかった」と思うこともありました。また、記録として撮影した写真がブレていたり一部隠れてしまっていたりしていて、目録作成時に読み取れない箇所ができてしまっていたなど、後になってから反省することも多くありました。このようなつながりがいろいろと見つかったのは驚きでした。

そして、今回の実習の中で一番印象に残った出来事は、3人の実習生の間で目録作成時の書き方を統一していなかったことです。保存されている公文書には同じような名前および形式で書かれたファイルがいくつか存在したのですが、入力作業を開始してからしばらくして、それらの似たファイルに関する目録の書式が3人で統一されておらず、各々の目録の書き方に差があることに気づきました。そこで、私たちは、書き方を統一するために、担当者の方とともに話し合い、何とか統一させることができました。この失敗を通じて、私は、この入力作業が個々の作業ではなく、チームでやっている作業だということに気づきました。作業の速さは大切ですが、それ以上に、しっかりとチームで話し合い、協力して作業していくことが大切なのだと学びました。それからは、個々別々の作業にならないように、疑問に思ったことは話し合い、お互い協力しながら作業を進めることができました。失敗から学んだことを改善にうまくつなげられたと思います。

最後になりましたが、飯能市立博物館の皆様、今回は実習を引き受けていただき、ありがとうございました。ここで学んだこと、教えていただいたことを、これからの就職活動、ひいては社会に出てから活かしていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

山崎 遼太

(法学部 埼玉県立坂戸西高等学校)

【飯能市役所 飯能市立博物館】

飯能市立博物館は、「里」、「町」、「山」、「飯能今昔」の4つに分けられた歴史展示室があり、また、入ってすぐには飯能の特産品である西川材コーナーや身近な自然コーナーを常設展示しているなど、飯能市についてその歴史・文化、自然などを紹介しています。

【実習期間：8月16日～25日】

インターンシップ実習で得たもの

私は、飯能市立博物館にて、7日間のインターンシップ実習をさせていただきました。

実習では、公文書の整理と記録、公文書の目録作成を行いました。公文書の整理とは、廃棄年度ごとにダンボールで保存されている公文書の向きを揃えて、写真で記録するという作業です。目録作成では、廃棄年度と箱名、簿冊名などを写真から目録に打ち込む作業を行いました。

私がこのインターンシップを通じて最も大切だと感じたことは、「人と協力すること」と「事前の話し合い」です。

実習のはじめ、各々仕事が振り分けられ、公文書の整理と記録を1人で行うことになりました。慣れない作業である上に、棚とダンボールがくっついていたり、ダンボールが重かったり、窓が無く少し暗いために写真をうまく撮ることができなかつたりと、とても苦労しました。そんな中、棚から箱を下ろす人、写真を撮る人、向きを揃える人、暗くて写真が撮れない時にライトで照らす人といった形で、仕事を分担していた人たちは、業務をあっという間に終わらせることができていたのです。ここから、人と協力し合い、分業することの大切さを知りました。

公文書の整理と記録が終わり目録に打ち込む作業を行っている際、同じ説明を聞き、同じ資料を元に行っているのに、実習生の間で記録する内容に違いが生じてしまいました。たとえば、ファイルに記録されている年号の位置であったり、工事の写真帳であったり、工事場所を書いている人いない人がいたりといった違いです。わずかな違いですが、目録を作る上で、そのような違いは許されません。それを指導担当者の方に指摘されました。この経験から、分担して資料などを作成する際には、事前に話し合い、すでに記録されたものを元に決まりを作り作業を行うことの重要性を学ぶことができました。

また、公文書を整理する際に、保存されている資料を見る機会がありました。最初一見しただけでは、この資料を取っておく意味は無いのではと思ってしまいましたが、「公文書を取っておくというのは、どこの市町村でも行っているのではなく、取っておいている自治体のほうが少ない」という説明を思い出し、代替のきかない資料をしっかりと保存するこの業務の重要性を改めて認識することができました。

最後になりましたが、お忙しい中、そしてコロナ禍にもかかわらず、7日間ものインターンシップ実習を受け入れて下さり、誠にありがとうございました。今回の実習で得た貴重な経験や学びを、今後の生活や就職活動に活かしていきたいと思えます。

吉田 早希

(心理学部 私立常磐高等学校)

【飯能市役所 飯能市立博物館】

飯能市立博物館は、平成 30 年 4 月にリニューアルオープンし、飯能市の様々な歴史資料が展示されている他、飯能河原・天覧山周辺の自然ビジターセンター的機能を持ったコーナーが併設されている施設です。

【実習期間：8月16日～19日、23日～25日】

仕事に対する責任感の大切さ

私は、飯能市立博物館で、7日間のインターンシップ実習をさせていただきました。

実習では、主に公文書等の目録作成を中心にを行い、様々な学びを得ることができました。

初日から3日間は、倉庫内の見取り図作成と、公文書等の目録作成に使用する公文書等の写真撮影を行いました。そこでまず、失敗から得た学びがありました。私は、倉庫内の見取り図を作成する際に、自分の思い込みで作業を進めてしまったため、見取り図を書き直さなければならないというミスをしてしまったのです。仕事を与えられた時は、その内容をしっかり確認し、理解した上で作業に取り組まなければならないという大切なことを学びました。

4日目からは、公文書等の目録作成を行いました。公文書等の資料には、昭和から令和のものがあり、その一部を担当しました。こういった公文書等の目録作成を行うことで、公文書を利用しようという人の役に立つことができると思うと、とても重要な仕事であると実感できました。目録があることで、正確にかつ短時間に公文書を手にするできるようになります。目録が何度も利用されることを考えると、後世に残るとてもやりがいのある仕事であると感じました。

目録作成に当たっては、公文書等を撮影した写真をもとに、パソコンの Excel に排架場所や資料の名前を一覧にしていく作業を実習生3人で分担しました。しかし、公文書等の写真の中には文字がぼやけて確認できないなど、一覧に打ち込めなかったり、確認するまで時間がかかってしまったりするものも出てきてしまいました。写真の撮影を担当したのは私だったので、皆さんに迷惑をかけてしまいました。写真撮影に不慣れだといった甘えは許されません。自分の不手際が、その後の作業に影響してしまうことを知り、仕事に対して責任感を持つ大切さを学びました。これも、失敗から得た学びでした。

また、目録作成を3人で協力して行っている途中、目録の内容は同じはずなのに、その打ち込み方にばらつきが生じてしまっていることに気がつきました。完成された目録を見る人のことを考えて作業しなければならないのに、それを怠りました。同じ作業をしている3人で、目録の打ち込み方をどう統一するかを相談し合うことが必要でした。こういった協力作業では、ミスを防いだり仕事の効率を良くする工夫をしたりすることが重要になってきますが、その際に、仲間と情報共有していくことが、より良い仕事つながるのだということを、身をもって感じました。

最後になりましたが、飯能市立博物館の皆様、7日間多くのことを学ばせていただきました。お忙しい中、貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

高橋 啓尊

(法学部 私立文星芸術大学付高等学校)

【飯能市役所 南高麗地区行政センター】

南高麗地区行政センターは、飯能市役所までは遠くへ行けない方に、市役所まで行かなくても、証明書発行・交付・申請等、同じ手続きができるようにしている場所です。また、南高麗地区の地域行事などにも、積極的に協力しています。

【実習期間：9月1日～11日】

市のために働く仕事

私は、南高麗地区行政センターで、8日間、インターンシップ実習をさせていただきました。私は、将来市役所に就きたいと考えているため、この南高麗地区行政センターを実習先として希望させていただきました。主な実習内容は、実習最終日にあった小中学校・自治体合同運動会の準備です。また3日目には、南高麗のウォーキングコースを整備するために、地域の方々や駿河台大学のまちづくり実践を履修している学生と一緒にコースを歩き、親睦を深めることが出来ました。

私は、この実習に参加するにあたって、自分から積極的に動くということ、自分の目標としていました。それ故、運動会の準備では、役員の方々に、自分にできることはないかをお聞きしましたし、ウォーキングコース整備では、周りを見て、今何が必要かを考えてしっかり行動するようにしました。その結果、行政センターの方に褒めていただき、とても嬉しかったです。

この実習で一番印象に残ったことは、小中学校・自治体合同運動会です。私の町ではすべてバラバラで運動会を実施していたため、どの様にして行われるのだろうと、とても楽しみにしていました。そして、当日は、素晴らしい快晴になりました。小学生のとても可愛らしいダンスには癒されましたし、中学生の息の合った集団行動や町の方の普段見せることのない競技に真剣に取り組む姿にはすごく感動しました。さらに、南高麗の方々皆さん明るくとても仲がいいという事も印象に残っています。合同で運動会を開催することが出来るのも仲の良さ、人と人とのつながりの深さがあるからこそだと私は考えました。暑さの中で準備を進めていったので、疲労を感じることもありましたが、行政センターの方々・南高麗の皆さんが、声をかけてくださったおかげで、暑さに負けず、私も、南高麗の為に頑張ることが出来ました。本番でも、南高麗の皆さんの笑顔が輝いていて、準備を頑張った本当によかったと思いました。

この実習では、南高麗地域の素晴らしさを学ばせていただきました。インターンシップで不安だった私を、行政センターの方々、南高麗地域の方々、まちづくり実践の大学生の皆さんは、温かく迎え、気にかけてくださり、とても感謝しています。お陰様で、本当に有意義なインターンシップ実習にすることが出来ました。私も、将来市役所に勤めた際には、このインターンシップ実習の事を思い出し、町やそこの人々を愛して行動できる市役所職員になります。本当にありがとうございました。

市川 雄大

(経済経営学部 埼玉県立狭山経済高等学校)

【飯能信用金庫】

飯能信用金庫は現在、4 次元的地域密着型金融機関を目指しています。具体的には、地域における取引シェアの拡大、複合取引による取引深化、ライフサイクルやライフステージといった時間軸に沿った取引の推進です。

【実習期間：8月22日～26日】

実際の業務を体験して学んだこと

私は今回、飯能信用金庫で5日間インターンシップ実習を行いました。実習では、1、2日目は座学とグループワーク、グループ毎の発表、3、4日目は支店での窓口業務、融資業務、営業の同行訪問を体験し、5日目には支店業務の感想と、テーマに沿ったプレゼンをグループワークを行い発表しました。

私が実際の業務に間近に触れたのは3、4日目で、この時に支店内の雰囲気も体感する事が出来ました。窓口業務では実際に接客している所を間近で拝見し、時には具体的な業務内容も教えて頂き、私の質問に対しても快く答えて頂きました。私が間近で見た感想として、お客様を待たせない、臨機応変且つ素早い対応が求められているのだと考えました。特に一人のお客様の対応と対応の間に、別のお客様の対応をしている点が印象的でした。融資業務では実際に融資した案件などを見せて頂き、その際に決算書やその内訳についても見せて頂きました。融資をする際には決算書などのデータのみでは判断せず、融資先の職場の雰囲気や、社長と実際に話す事も重要になると教えて貰いました。場合によっては実地調査なども行い、総合的に判断したうえで融資している事を学びました。融資業務はデスクワークのイメージが強かったため、実際に社長と話す等、意外にもコミュニケーション能力が必要なのだと考えました。営業の同行訪問は3、4日目にそれぞれ別の担当者に同行しました。3日目は個人から会社まで幅広く訪問し、4日目は会社に訪問しました。個人への訪問では、投資信託の現状の説明や紹介などを行いました。また、担当者とお客様、担当者とお客様の家族との関係がとても良かった印象です。会社への訪問では、3日目は短時間に複数回だったので様々な会社に訪問し、社長と話す機会等はありませんでした。4日目は1社に訪問し、訪問前には決算書等を見させて頂きました。訪問時には相手企業の社長と担当者が雑談している所を横で聞き、今期の決算書を見せて頂きました。決算書を見せて貰いながら、担当者が質問をして細かい所まで念入りに聞いていました。私は2日間の営業を通して、コミュニケーション能力の重要性だけでなく、雑談と営業での切り替えや臆することなく質問する事も重要であると学びました。

私は5日間の実習を終え、飯能信用金庫の概要、実際の業務と雰囲気、私自身の長所と課題点を学ぶ機会となりました。飯能信用金庫のみなさま、ありがとうございました。

小谷野 妃菜

(経済経営学部学部 私立山村国際高等学校)

【飯能信用金庫】

飯能信用金庫は、お客様のライフスタイルやライフステージに応じた解決策を提供することで、地域の住民と中小企業の信頼できるパートナーとして地域社会とともに歩み、地域の発展に繋げることを使命とした信用金庫です。

【実習期間：8月22日～26日】

地域に寄り添う金融機関

私は、飯能信用金庫の本店で2日間、研修所で1日、北坂戸支店で2日間の合計5日間、インターンシップ実習を行わせていただきました。私が飯能信用金庫を志望した理由は、金融業界への興味と地域社会に貢献したいという思いがあるからです。そして就業体験を通して、沢山の学びを得られると考えたからです。

今回の実習を終え、私は、お客様との信頼関係をしっかり築いていくことで、業務がより良い方向に進行していくと感じました。そして常にお客様に寄り添い続ける姿勢が、何よりも大切だと学びました。これらの思いをより近くで感じる事ができたのが、北坂戸支店で過ごした2日間です。

北坂戸支店では、窓口業務と融資業務の2つの部署の体験と、午後は営業担当と顧客先を同行訪問するプログラムでした。融資業務では、決算書の見方や電話対応を拝見し、窓口業務ではお客様の要望に合わせた、正確で素早い金銭のやり取りを見学しました。また、金融業界での札勘の正しい方法や大きな機械を使った両替の方法、数多く収納されている札束や小銭を拝見させていただくなど、貴重な時間を過ごさせていただきました。窓口で行われるお客様とのやり取りは、知識が無いため全てを理解することはできなかったですが、職場の空気感を味わえたことや普段聞き馴染みのない専門的な会話を聞いたことは、心に残る経験になりました。

顧客先への同行訪問は、お客様と契約をする場面に立ち会うという普段は絶対にできない経験をさせていただきました。数多くの書類の管理や複数の印鑑を決まった場所に押すことなど、沢山の仕事内容を頭に入れなければならないのだと、身に沁みて感じました。また仕事の話だけでなく、世間話を交えながらお客様とコミュニケーションをとる姿勢と話術に驚かされました。世の中の状況を把握し、様々な知識が無ければお客様との会話は続かないのだと気づきました。日頃から時事問題について新聞を読む等、勉強することが私の課題です。働く姿を見て、自分に出来るのかと思うと同時に、こうなりたいと強く思えた5日間の実習でした。

最後になりましたが、飯能信用金庫の皆様、新型コロナウイルス感染拡大の状況下でのインターンシップ実習を受け入れて下さり、そして丁寧にご指導いただき、心より感謝申し上げます。学んだことを今後の人生に繋げられるよう努めます。ありがとうございました。

久保田 彩花

(心理学部 私立松商学園高等学校)

【飯能精密工業株式会社】

飯能精密工業株式会社は、プレス金型の設計、製作、メンテナンスをトータルに行っています。また、お客様のニーズに合わせて、単型、順送型のどちらも製作加工できる設備を持ち、様々な組立部品にまで幅広く対応しています。

【実習期間：8月23日～26日】

お客様の気持ちに真摯に寄り添う

私は、飯能精密工業株式会社で、製造部門及び業務部門の現場体験、そして、外注協力工場の見学という計4日間のインターンシップ実習を行わせていただきました。製造部門では、医療用機器に取引先の企業名を入れるプレス加工をしました。業務部門では、できあがった製品に打痕や傷がないか1つ1つを目で見て検査し、検査し終わった製品を段ボールに詰める作業を行いました。

実習を通して、多くのことを学びましたが、特に大事だと感じたものが2つあります。

1つ目が、お客様の気持ちに寄り添うことの大切さです。飯能精密工業株式会社は、「お客様の身になり、信頼ご満足頂くことを第一に考えよう」という経営理念を掲げており、サンプル商品を直接お取引先の企業に持参し、確認をしてもらうなど、懇切丁寧な取り組みを行っています。このことから、お客様の視点に立って、どのようにすれば喜んでいただけるかを日頃から絶えず考え続けていくことが、非常に重要であると実感しました。私も社会人になったら、相手の立場に立ったサービスができるように、意識して行動したいと感じました。

2つ目が、自分の仕事に責任感を持って取り組むことへの重要性です。製造部門の仕事は単純な作業の繰り返しであったため、私は、しばしば集中力が途切れてしまいました。しかし、いくつもある工程のなかで1つでもミスがあると、そのすべての工程をはじめからやり直すことになってしまいます。そこで、製品の1つ1つがお客様にとって大切な商品であるという自覚をもって取り組みました。業務部門では、できあがった製品を検査するときに、不良品を見逃してはなりません。また、検査し終わった製品を段ボールに詰める際に、向きをきちんとそろえて、正しく梱包をしないと、荷崩れが発生する危険性があります。ここでの小さな見落としによって、会社全体に迷惑がかかる上に、先方企業からの信頼をなくしてしまう恐れがあります。そのため、常に緊張感をもって作業を行うようにしました。これらの経験から、任された仕事に対して最後まで責任を持つ姿勢を、これから忘れないようにしていきたいと思いました。

最後になりましたが、飯能精密工業株式会社の皆様、お忙しい中、丁寧にご指導いただき、心より感謝を申し上げます。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

高橋 駿希

(経済経営学部 栃木県立黒磯高等学校)

【株式会社松下製作所】

株式会社松下製作所は、飯能市で77年続いている精密プレス加工を行っている会社です。主な製品としては、スマートフォン充電に使うUSBの金属部分があります。

【実習期間：8月22日～26日】

社会人共通知識の理解による視野の拡大

私は、株式会社松下製作所で5日間インターンシップ実習をさせていただきました。

実習期間中は、全体を通して、座学を中心に、営利企業、株式会社の特徴、産業分類、PDCAといった社会人として知っておくべき基礎知識を学ばせていただきました。

2日目と3日目には、会社の概要を学んだだけでなく、実際に工場の見学もさせていただきました。

担当者様からは、総務・経理の方で利益を出すためにはどのようなことが必要であるか、そして会社が成長するためにはどう考えれば良いのかを教えてくださいました。利益を出して成長し続けることが営利企業の目標ですが、利益を上げるには売上を上げ、コストを下げるのが不可欠です。単純に数量を増やただけではコストも上がってしまい、利益を上げることは出来ません。そこで、例えば一度の取引量を増やす代わりに、材料費を少し下げて欲しいと缶の素材を扱う会社に交渉することもできます。これをボリュームディスカウントと教えてくださいました。しかし、優先すべきことは業界や部署によっても変わってきます。立場の異なる相手との交渉では、相手の立場に立ち、双方の利益が出るように考えることが重要だと学びました。

こういった考え方をPDCAサイクルに当てはめた場合、最も重要であるのはPのプランであると担当者様はおっしゃっていました。現状把握をしっかりと行い、何をゴールとするのかを正確にすることによって、その後の改善活動をより良いものにできるためです。

今回のインターンシップ実習を通して、自身の視野が広がり、それに伴って考え方の幅も大きく広げることが出来ました。総務・経理の新入社員という形で今回インターンシップ実習に参加させていただきましたが、製造業だけでなく就職活動や日常生活でも役立つ知識を学ぶことで、多くの視点と考え方を得ることが出来ました。また考える中で、得た知識をすぐに活用することや、難しい問題はいくつかの要素に分解して考えることを、この5日間で鍛えることが出来ました。

最後になりましたが、お忙しい中、有意義な体験をさせていただき、またご指導いただいた株式会社松下製作所の皆様、誠にありがとうございました。

又吉 妃和

(経済経営学部 沖縄県立読谷高等学校)

【株式会社松下製作所】

株式会社松下製作所は、飯能市で77年続いている精密プレス金型の設計・製作、精密プレス加工を行っている会社です。イメージしやすいものとして、スマートフォンに付いている充電に利用するUSBの金属部分などが挙げられます。

【実習期間：8月24日～26日】

考えを深めていく

私は、株式会社松下製作所で、3日間のインターンシップ実習を行わせていただきました。

私が株式会社松下製作所での実習を希望した理由は、製造業について興味があり、実習内容の中で社会人共通知識の理解という魅力的な実習内容に惹かれたからです。

実習では、株式会社松下製作所の総務・経理に新入社員として配属されたという想定でインターンシップ実習を計画して下さったおかげで、社会人共通知識・製造業基礎知識・株式会社松下製作所の事業内容・データ分析について学ぶことができました。

一番苦戦したところは、実際のデータを用いて原価率と稼働率の分析をしたことです。初めて原価率や稼働率という数字を見て、何から手を付ければ良いかわからず、自分なりに考えて分析をしました。その後、担当者様からアドバイスを頂き、最初の五里霧中の状態よりは何をどう分析したら良いかが見えてきました。しかし、アドバイスの通りにしか分析できなかったのも、そこから自分自身で工夫し、新たな気付きがあればもっと良かったと思いました。最後に分析方法について教えて頂き、分析はどのような軸で見るのか、様々な側面から見る事が重要だとわかりました。

そこで大きく学んだことは二つあります。

一つ目は、視野の拡大です。データを知ることで現状を把握し、様々なデータを比較することで多くの点に目を向け考えるのです。また、利益の考え方について学んだ際に、利益は自社だけでなく、利害関係者についても考える必要があると教えていただいたことで、相手の立場になって考えるという新たな視点も得ることができました。

二つ目は、考え方の幅を広げることができたことです。利益を増やすためにはどうしたら良いかという内容について考えたとき、売り上げを増やし、費用を下げることで利益を増やすことに繋がりますが、それを具体的にどうやって実現するのが重要です。そこで、PDCAサイクルを学びました。この考え方は日常や社会生活において活用でき、目的達成のための道筋を明確にできることがわかりました。

今回の実習を通し、視野の拡大と考え方の幅を広げることができ、社会人としての基礎力を身に付けることができた実感しました。そして、その他にも、多くの学びを得ることができました。

最後になりましたが、株式会社松下製作所の皆様、お忙しい中、三日間のインターンシップ実習を受け入れて頂き、心から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

相子 夏輝

(経済経営学部 埼玉県立飯能高等学校)

【株式会社ムーミン物語】

株式会社ムーミン物語は、ムーミンバレーパークの企画運営事業を行っており、「love of life」の想いを胸に、訪れるゲストの生活（こころ）がより豊かになるための空間やサービスを提供しています。

【実習期間：8月22日～26日、29日】

ゲスト目線で行動することと笑顔の大切さ

私は、株式会社ムーミン物語で、ゲストサービスチームとしてインターンシップ実習をさせていただきました。

初日は、ムーミンのキャラクターや作品、メッツァについて学び、ムーミンバレーパークやメッツァビレッジを案内していただきました。

2日目の午前と最終日は、ムーミン物語のフィロソフィーやコンセプトなどについて学んだ上で、グループワークを行い、意見を共有しました。

2日目の午後は、ゲストサービスチームで、メッツァやムーミンバレーパークの施設情報やチケットの種類などについて学びました。

3日目と4日目の午前は、エントランスで、挨拶をしてゲストを迎え、消毒の誘導、チケット確認を行いました。チケット確認は、様々な種類のチケットがあり、対応方法が一つ一つ異なるため、的確かつスムーズにゲストを迎えることが大切になります。しかし、私は、対応方法を考えているうちに動きが遅くなってしまいました。すると、スタッフの方から、ゲストの持ち物や行動を観察することで、チケット確認の準備ができると、アドバイスをいただき、ゲストを観察することの大切さを痛感しました。また、人数確認や再入園チケットのことを伝える時に、言葉を噛み、ゲストを待たせてしまったり、焦ってしまって笑顔をつくれないうま覚えた説明を棒読みで言ったりしてしまいました。しかし、経験を積むごとに、慣れていき、スムーズにチケット確認ができるようになりました。エントランスでゲストの方が「ありがとう」や「楽しかった」と言ってくださると、とても嬉しい気持ちになり、各チームの一人一人のスタッフが連携して役割を果たすことでゲストを楽しませることができると感じました。

4日目の午後は、ムーミンバレーパークのインフォメーション業務、5日目は、メッツァビレッジのインフォメーション業務を行い、入場者数やペット数を数え、スタッフと情報共有した他、遺失物の対応やベビーカーなどの消毒、マップなどの補充、ゲスト対応などを行いました。ここでは、ゲストがどのような人物でどのような情報を知りたいのかをゲスト目線で考え、様々な対応の仕方を考えておくことの大切さを学びました。ゲスト対応では、事前にメッツァ全体のコインロッカーや授乳室、喫煙所などの場所を覚え、どのようなことを聞かれても応えられるように練習していたため、スムーズに案内することができました。

最後になりましたが、株式会社ムーミン物語の皆様、お忙しい中、貴重な体験をさせていただき、誠にありがとうございました。

白田 あかり

(心理学部 私立札幌新陽高等学校)

【株式会社ムーミン物語】

株式会社ムーミン物語は、ムーミンバレーパークの企画運営事業を行っている企業です。従来のテーマパーク事業とは異なり、体験を通じて発見や気づきを提供し、日々の生活を少し良質にして頂ける場所を目指しています。

【実習期間：8月22日～27日、8月29日】

楽しませる接客

私は、株式会社ムーミン物語が企画運営しているムーミンバレーパークにて、6日間のインターンシップ実習をさせていただきました。

初日は、ムーミンやパーク全体の説明を受けた後、ゲストとしてパーク内を見学させていただき、パークに対する知識や理解を深め、パークの雰囲気やスタッフの姿等を感じることができました。

2日目は、企業の理念や経営目標について学びながらグループワークを行い、その後は、物販販売・ゲストサービスの2チームに分かれて実習を行いました。私は、物販チームとして、倉庫や商品の管理等を教わり、実際にショップの品出しや店内消毒を行いました。しかし、ここで多くのお客様に多種多様な質問をされてしまい、幅広く豊富な知識が必要だと実感しました。

3日目は、はじまりの店、アーケードゲーム、ニブリングの店と3つのエリアについて見学し、ゲームの説明をする際の注意事項や商品を詰めるサッカー台作業、グリーティングにおける細やかな気遣いや臨機応変に対応を間近で見ることができました。

4・5日目は、実際に3つのエリアで接客をさせていただきました。ゲームのお店では、お客様に楽しんで頂けるように、自らが大きな声で楽しそうにゲームの説明や案内をするよう心掛けました。タイミングを見ながら応援や声掛けなどで盛り上げることは今までにない経験だったため、大変でしたが、とても勉強になりました。また、はじまりの店では、グリーティングの際に帰りたくなくて泣き叫んでいる子どもに駆け寄り、シールをプレゼントしてあやすという経験をしました。

どのエリアでも「お客様に楽しんで頂けるために」という接客の姿勢は一貫しており、スタッフのみなさんは、常に「どうすればもっとお客様に楽しみ、喜んでもらえるか」を考えながら行動していることがわかりました。そのために、細やかな気遣いや対応、入念な準備等、様々なスキルを磨き、共有されていました。中でも、特に「楽しませる接客」のためには、スタッフである自分自身がまず楽しんで接客をするということが大切だと学びました。私は、初めは上手く対応できるかが不安で消極的になっていましたが、次第にお客様に喜んでもらえる嬉しい、もっと楽しんでもらいたいと思うようになり、それが気遣いや接客対応にも表れ、お客様の笑顔や喜びに繋がっているのだと肌で感じる事ができました。

最後になりましたが、お忙しい中、ご指導くださった株式会社ムーミン物語の皆さまに感謝申し上げます。この度は誠にありがとうございました。

小堀 隆仁

(メディア情報学部 埼玉県立上尾橋高等学校)

【株式会社ダスキンくりはら】

株式会社ダスキンくりはらは、「喜びのタネ撒き」
「SERVICE FOR PEOPLE PEOPLE FOR
SERVICE」の理念のもと、クリーニングサービスや、掃除・
イベント用具、介護用品など幅広いレンタル・販売事業、
加えてイベントの企画、設営を行っている。

【実習期間：8月10日～12日、17日～20日、23日～27日】

お客様の笑顔を守るために

私は株式会社ダスキンくりはら様で12日間のインターンシップ実習を経験させていただきました。

私には中学校に不登校で行けなかった時期があります。その際に身近な人々に支えてもらった過去から、人の間近で手助けできるような仕事をしたいと思い、サービス業を経験してみたいと考えていました。ダスキンくりはら様を選んだ理由は、清掃により物や場所を綺麗にすることで、空間の心地よさの向上や、衛生環境の改善を図ることができ、人の心身を良好にすると考えたためです。

私は当実習を行うまで仕事というものをしたことがなく、働く経験自体が人生で初めてでした。このたび実習で学ばせていただいたのは、お客様のことを考え、喜んでいただけるかを意識することが良い仕事をするためのモチベーションを上げるために重要だということです。

今回私は主な業務としてベビー用品のレンタル前メンテナンスをしましたが、これが最初は2時間ほど時間を要し、続けるには大変気力のいるものでした。しかしメンテナンスした品はそのままお客様に提供されます。手を抜くとお客様へ不快な思いを与えてしまいます。会社へも損失を出してしまうかもしれません。すると働き続けることも難しくなり、自分の生活もままならなくなってしまいます。

この状況で学んだのが、自身の行っていることがお客様にいかに関与しどれほどの責任があるのかを考えることで、仕事をするのが楽しくなるということです。ベビー用品のメンテナンスを怠ればお客様に不快な思いをさせてしまいます。逆に考えればそれは、「丁寧に仕上げればお客様の笑顔を守れる」ということです。この考えが、自分の仕事への責任感と、大きなモチベーションになりました。実習を始めた当初は苦勞していた仕事に、自ら取り組むことができるようになったのです。今回の経験は私の働き次第ではお客様の笑顔を守ることができる事実と、これが自分にとって大きなモチベーションになるという気づきを与えてくれました。

またバイトの経験がなく他人と話す際に緊張してしまう私を暖かく迎え、丁寧に指導していただいたことで安心して業務に取り組むことができました。株式会社ダスキンくりはらの皆様には心より感謝申し上げます。実習を受けさせていただきありがとうございました。

大森 公聖

(メディア情報学部 埼玉県立狭山緑陽高等学校)

【株式会社 温泉道場】

株式会社温泉道場は、温泉という娯楽を利用し、地域活性化を実現しようとする会社です。おふろカフェで有名な店舗を運営する会社でもあります。温泉施設の運営を核として地域社会に貢献できる人材の育成を重視しています。

【実習期間：9月1日～8日】

社会人として働く楽しさ

私は、株式会社温泉道場が運営する BIO - RESORT HOTEL & SPA O Park OGOSE というリゾート施設で、インターンシップ実習を行いました。実習内容は、主に、客室清掃とキッチンのヘルプでした。

そのうち、客室清掃では、トレーラーキャビンのベッドメイク、室内清掃、その他の清掃、リネンの補充を行いました。特にベッドメイクは初めての経験だったのでとても苦戦しました。シワ一つないように綺麗にメイキングしなければならないので、神経を使う作業で大変でした。そこで、ひたすら慣れるまで作業をして、社員さんに見てもらおうようにしました。すると、日に日に上達して、成長する楽しさ、働くことの楽しさ学びました

キッチンのヘルプでは、皿洗いとお客様が食事に使用した食器が入った木箱の掃除をしました。皿洗いは、普段のアルバイトの経験が活かせて良かったです。

実習を通して、常にお客様により良いサービスを届けるためには、どんな状況でも従業員同士、連携して動かなければならず、お客様のことを常に考えて動くということがプロ意識であることを発見しました。休憩中に雷による停電が起きた際には、全員がインカムをとって「これしてください」、「私はこれをします」などと、急いで復旧作業に取り掛かれており、その姿にとっても感激しました。私も、お客様のことを考えて迅速な対応ができる社会人になりたいと思いました。

私の課題点、反省点は、社員さん、従業員さんとのコミュニケーションがうまくいかないことがあったということです。他の方々も自分の仕事があつて、それに加えて実習生である私たちに指示をされているので、少ない言葉、最小限でのコミュニケーションで指示を出されるのですが、その指示をくみ取れないことがありました。最小限のコミュニケーションであってもしっかりと意味をくみ取るためにも、仕事の理解度を上げる必要性を学びました。

私は、今回の実習で、働くことの楽しさを知りました。実習担当者の方々に向けて実習の成果発表をした時に、実習担当者の方に、社会人になって働くことの8割は大変なことや辛いことだが、残りの2割は、突然と自分の成長を感じて幸福感を感じたり、お客さまとの対応がうまく行って満足できたりと、仕事のモチベーションにつながるものであるとのお言葉をいただきました。まだ実感は持てませんが、とても含蓄あることばだと思います。

株式会社温泉道場、BIO - RESORT HOTEL & SPA O Park OGOSE の従業員の皆様が優しく教えてくださったおかげで、とても充実したインターンシップ実習をすることができました。本当にありがとうございました。

藤森 悠衣

(心理学部 埼玉県立坂戸高等学校)

【株式会社温泉道場】

株式会社温泉道場は、「温泉を核とした地域の活性化の実現」を目標とする会社です。「川上から川下まで」という考えのもと、会社全体で一貫性のあるサービスを提供しています。

【実習期間：9月1日～4日、6日～8日】

働く上で大切な気配りと報連相

私は、株式会社温泉道場様が運営されている施設「BIO-RESORT HOTEL & SPA O Park OGOSE」で、計7日間、インターンシップ実習をさせていただきました。

前半の4日間は、客室清掃と厨房の皿洗いのヘルプを行いました。5日目と6日目はこの2つに加え、次の日のための準備のヘルプを行いました。そして、最終日には、実習期間のまとめとして、実習を終えての感想や実習中に気づいたサービスへの改善点などを発表する機会をいただきました。

この実習を通して多くのことを学ぶことが出来ました。その中でも、大きな学びとなったと感じたことが2つあります。

まず1つ目は、細かな気配りの大切さです。客室の清掃をしている際、社員の方だけでなく、アルバイトの方々も、その場で働いていらっしゃる方全員が、汚れの拭き取りやアメニティの配置など、お客様の視点では気づかないと思うような細かい部分にまで気を配った作業をされていました。私は、最初、このような細かな部分に気づかないまま作業を終えてしまっていました。しかし、従業員の方に指導をしていただき、不十分だった作業を終えて、全体を眺めた際に、感じていた小さな違和感がなくなったことに気づきました。些細なことと感じる作業1つで、お客様がより快適に過ごすことの出来るサービスを提供することが出来るのだと感じ、細かな気配りの大切さを学びました。また、細やかな気配りは、お客様に提供するサービスだけでなく、共に働く方々との連携にも大きく関わっていることを感じる場面も多くあり、より細かな気配りの大切さを実感することが出来ました。

2つ目は、報連相の重要性です。実習期間中に責任者の方に最終日に行う発表についての詳細を聞かれた際、お時間を作っていたにも関わらず、担当者の方としっかり確認を取っていなかったことに初めて気がつきました。発表をする内容ばかりを気にしていて、「聞いていただく」、「お時間を作ってください」という意識が出来ていなかったことに気づきました。自分の中では大きな問題であると感じないことでも、自己完結せずに関係する方々への連絡や相談をすることが必要不可欠であると強く感じました。

最後になりましたが、今回の実習で本当に多くの貴重な経験をさせていただきました。お忙しい中、実習を受け入れてくださいました O Park OGOSE の皆様に、心より感謝申し上げます。学んだことを活かせるよう努力していきます。本当にありがとうございました。

横山 絢人

(法学部 私立東京学館新潟高等学校)

【株式会社酒商増田屋】

株式会社酒商増田屋は、埼玉県日高市を中心に、埼玉県に6店舗を展開している酒屋であり、「仕事を通してお客様と『たのしい』『うれしい』『おいしい』を共創します」という企業理念のもと、酒類や飲料水、食品を販売、卸している企業です。

【実習期間：8月10日～12日】

「地域に根付く酒屋」で学び得たもの

私が株式会社酒商増田屋での実習を希望したのは、お客様を大切にする接客理念に強く共感したのと同時に、自分がアルバイトで培ってきた接客技術やコミュニケーション能力が他の職場、業種でも通用するのか試してみたかったからです。また、自分の出身が新潟ということもあり、増田屋のように地域に根付いた酒屋さんが多くあり、馴染み深い部分もあったからでもあります。なお、酒商増田屋では、お酒の販売はもちろんのこと、米の販売・精米を行っているのには、本当に驚かされました。玄米を販売して、精米の歩合等細かな要望に従って精米しているのです。酒商増田屋は、単に飲料水や食品だけではなく、驚くほど幅広い分野を取り扱っているのです。

酒商増田屋の実習では、開店準備から商品の品出し、焼酎の量り売りや精米作業などを中心に行いました。開店作業から日中の作業では、ビールの箱やその他飲料水等を運ぶ作業、玄米を量り売りする作業を行いました。しかし、玄米を量るにしても1kgからの作業であったため、とにかく力仕事が多く、自分の「肉体的力」が試される作業でした。接客に関しては、アルバイトの経験を活かして、お客様への挨拶や商品の場所を聞かれた際の対応などは難なくこなしていたと自分では感じていました。しかし、お客様の求めに対応できないこともありました。例えば、おすすめの日本酒やいい料理用のワインを聞かれた際には、全く対応できず、とても悔しい思いをしました。単純に自分の知識不足だけだけなのですが、質問に詰まってしまったということに悔しさが残ってしまいました。また、実習に向けての課題でもあった柔軟な対応に関しては、他の従業員の方の作業を手伝ったり、何もなければ、店長に仕事がないか聞いたりして、暇を作らないようにしました。

スタッフには、同年代の方から年上の方まで、様々な人がいらして、職場に溶け込めるかちょっと心配していましたが、短期間に打ち解けることができ、それにより作業効率も上がったのではないかと考えています。自然と会話が弾むことも多く、常連さんが来店された際に、特徴や何を注文するか何を買って帰られるか従業員の方が的中され時は、「これぞ地域に根付く酒屋だ」と、改めて実感しました。

「『たのしい』『うれしい』『おいしい』を共創します」という経営理念のもとで行った今回の実習は、とても有意義な時間だったと思います。自分の接客技術や行動力、課題であった柔軟な発想のもとでの行動など、とても3日間とは思えない濃い時間であったと感じています。実習させていただいた酒商増田屋日高店様に、心からの感謝を申し上げたいと思います。お忙しい中、誠にありがとうございました。

伊藤 彩花

(心理学部 私立自由の森学園高等学校)

【株式会社酒商増田屋】

株式会社酒商増田屋は、1988年に狭山市で酒販売店として創業し、現在では、入間市、所沢市、日高市に1店舗ずつ展開している、地域に根付いた酒屋です。そして、仕事を通じて、お客様と「たのしい」「うれしい」「おいしい」を共創し続けています。

【実習期間：8月10日～13日】

周りを見て気づくこと

私は、株式会社酒商増田屋狭山台店で、4日間のインターンシップ実習をさせていただきました。私が酒商増田屋を希望した理由は、お店の雰囲気や形作ったり商品を手にとってもらいやすくしたりする陳列の技術や工夫に興味があったからです。さらに、取り扱う商品がお酒であることから、強いこだわりや要望を持ったお客様が訪れるでしょうから、より深い接客技術も学ぶことができるのではないかと考えたからです。

実習では、お酒類から飲料水やお菓子、調味料等の品出し、様々な品種のお米の精米作業と量り売り、お酒の量り売り、お客様からの呼び出し対応を主におこないました。

この4日間の実習で特に学んだことは、わからないことや不安なことがあったらすぐに確認を取ることの重要性です。一般的なコンビニやスーパーで扱っている商品とは違うため、お客様からの質問やご要望を素早く正確に応えられないことが多くありました。その場合には、お客様にはすぐに確認するということを伝えて他の従業員の方に声をかけて内容を簡潔に説明したり、事務所へ行って確認を取ったりしなければなりません。そこから細かな報連相の大切さを学びました。

また、商品棚の中身を維持し続けながら、お客様からの相談や要望に素早く対応できるように目配りを欠かさないなど、作業と接客の両立にもとても苦労しました。しかし、お客様のお買い物の妨げにならないように、商品を補充する棚の場所、種類さらには個数を確認してメモを取りつつ、バックヤードから持ってきた商品を声掛けのあいさつをしながら品出しをおこなうという工夫を凝らすことで、苦労を目標に変えて活動することができました。

そして、常連お客様にお酒の量り売りをおこなったのですが、確認のため「このボトルに表記されているお酒の種類と量で間違いないですか？」とお声掛けをしたところ、「そう、いつものやつだよ、見ればわかるでしょ？」と反応が返ってきて、その後に「あ、新人さんだったのか」というやり取りがありました。本当に地域に根付いたお店なのだなど実感したと同時に、商品を安全に清潔に要望通りに提供することも大切だけれど、それらを取り扱っている私たち従業員の身振り等も、商品を買ってもらう上では重要であるという事に気づき、私自身を見つめ直すきっかけになりました。

最後になりましたが、株式会社酒商増田屋 狭山台店の皆様、お忙しい中、温かく受け入れご指導していただき本当にありがとうございました。

小谷野 匠実

(経済経営学部 埼玉県立入間向陽高等学校)

【日高市役所 下水道課】

日高市役所下水道課は、業務、工務、施設に担当が分かれており、日高市浄化センターやマンホールポンプ施設等の維持管理業務を行い、日高市の下水処理を適正かつ効率的に行っています。

【実習期間：8月15日～26日】

市役所での仕事、下水道とは

私は、日高市役所下水道課で、10日間、インターンシップ実習を行わせていただきました。日高市役所下水道課は、本庁舎から離れた浄化センターで仕事をしています。下水道はあまり認知されておらず、良いイメージをもたない人も多いですが、記念マンホールの設置やマンホールカードの配布により、下水道だけでなく日高市を知ってもらおう活動に取り組んでいます。

実習では、大きく分けて、PC作業、施設見学、現場見学、記念マンホール点検を行いました。

PC作業は、紙で保管されている下水道に関する施設や機械の情報、工事の修繕記録をエクセルでデータ化する作業です。紙の情報をそのままエクセルに入力するという単純な作業ではありますが、下水道課の今後の為に重要なデータとなるので、最後まで集中しなければならず、とても苦労しました。施設見学では、日高市内にある下水道施設や公共施設を案内していただきました。見学した施設の中でも新しくできたというポンプ場を見学した際に、驚きの発見がありました。下水道ということを意識させないように、ポンプ場の外観が周りの風景に溶け込むように作られていたことです。市民への配慮や工夫がされていて、とても感心しました。現場見学では、下水道に関する工事の現場や浄化センターの水質調査を見学し、体験もしました。工事や水質調査は下水道を維持していく為にとても大切だということを、理解することができました。記念マンホール点検は、日高市制施行30周年を記念して、日高市内の各駅に設置された特別なデザインのマンホールを、点検、清掃する作業です。マンホールには、「まんが日本昔ばなし」と「のだめカンタービレ」がデザインされていて、観光客がたくさん見に来るそうです。

10日間の実習を通して、私の市役所のイメージが大きく変わりました。実習前は、仕事はデスクワーク中心で堅苦しい雰囲気があると思っていました。しかし、実際には、仕事はとても幅広く、明るい雰囲気の職場でした。また、実習を通して一番に感じたことは、職員の方は人との関わりやつながりを大切にされているということです。これから将来、社会人になるにあたって、人とのつながりを大切にしていきたいと思いました。

最後になりましたが、日高市役所下水道課の皆様、お忙しい中、10日間の実習をさせていただき、誠にありがとうございました。皆様が私を明るく、優しく受け入れてくださったことに、心から感謝申し上げます。

内山 諒

(法学部 私立新潟産業大学附属高等学校)

【株式会社松本商会】

株式会社松本商会は、土地建物の売買、賃貸仲介・管理、ビルの企画・設計・管理などの業務を行っており、「しあわせを築くよりよい住まい」をモットーにした住まいとまちづくりを進めています。

【実習期間：8月22・23日、25・26日、29・30日】

実習を通して学んだこと

私は、株式会社松本商会で、6日間のインターンシップ実習をさせていただきました。実習では、売買、賃貸、管理などの不動産業務に加えて、財務、総務などの業務も学ばせていただきました。

実習を行う前は、不動産業には、部屋を貸し出しているオーナーさんと部屋を借りに来るお客様をつなぐ賃貸仲介というイメージが強くありました。しかし、実際には、賃貸の契約を結んだ後の業務も重要で、たとえば物件の管理や家賃の集送金、クレーム対応など、不動産屋の仕事は多岐にわたります。そうした仕事を実習において体験することにより、私は多くのことを学びました。また、担当して下さった社員の方からも、仕事をするうえで気を付けるべき大切なことを学ぶことができました。

モデルルームの作成やクレームがあった部分の確認作業などはいずれもその不動産の価値を高めるのに重要な業務ですが、そこで私は多くのことを学びました。その中でも一番心に残っていることは、準備をぬかりなく行うということです。なぜなら、仕事を進める中で出てくる可能性のある問題をあらかじめ予測し、対策を立てておくことにより、仕事をスムーズに進めることができるからです。例えば、クレーム対応では、騒音問題や共用部分の問題、設備の不具合など、実務で起こりうる状況を想定しておくことで、実際に問題が発生したときに冷静に対応することができます。

また、お客様への対応をするうえで重要な応酬話法についても教えていただきました。応酬話法とは、お客様の反応に合わせて上手く切り返すというスキルです。応酬話法を用いることで、会話がぶつ切りになって上手く続かなくなることやお客様の反応への切り返しに困るといったことを減らすことができます。このように、応酬話法は、コミュニケーションを取るうえで重要なスキルであるといえます。そして、これは、仕事だけでなく、様々な対人関係において活用できると思いました。日常生活においてもこれを意識し実践することにより、応酬話法を身に着けられるようにしたいと考えています。

最後になりましたが、株式会社松本商会の皆様、お忙しい中、インターンシップ実習に協力していただき、ありがとうございました。とても貴重な経験をさせていただきました。実習で得た学びを、今後に活かし、努めていきます。6日間、本当にありがとうございました。

堀越 美羽

(心理学部 群馬県立沼田女子高等学校)

【株式会社ミート・コンパニオン鶴ヶ島工場】

ミート・コンパニオンは、「『肉』を超えて『食』を目指す」をテーマに、お客様に信頼される、安全で安心な食であることはもちろん、こだわりのある美味しい食肉製品と質の高いフードサービスを提供するフードサプライヤーです。

【実習期間：9月5日～9日】

時は金なり

私は、株式会社ミート・コンパニオン鶴ヶ島工場で、5日間のインターンシップ実習を行わせていただきました。私がミート・コンパニオンでの実習を希望した理由は、B to Bに興味があったということと、企業理念である「生産する現場から、食卓やあらゆる食のシーンへの橋渡しをしていくつながりの輪の中心でありつづけること」に惹かれたからです。

株式会社ミート・コンパニオンの鶴ヶ島工場は、主に業務用のハンバーグパティ、ソース類などの食肉加工製品の製造を担っています。人事・総務課の課長さんや今回指導して下さった方から、ここから、別の工場へ出荷する他、有名なスーパーマーケットや飲食業界にステーキ、ハンバーグなどの製品を提供していることを教えていただきました。普段から口にしている食品が鶴ヶ島工場で製造されていることを知り、私たち消費者には製造業の実像がほとんど見えてこないということを実感しました。

5日間という短い期間での実習でしたが、ここで、時間の大切さを学びました。私は、実習中、豚バラ肉の計測や牛肉のカット、冷凍ひき肉の解凍、お肉のパック詰めなどを行いました。豚バラ肉の計測では決められた範囲以内に分けること、牛肉のカットでは重さの他に赤身と脂身の比率を考えながら切ること、ひき肉の解凍ではお肉の塊をなくすこと、お肉のパック詰めでは見た目の綺麗さがそれぞれ求められました。そのため、私は、どれもお客様に提供されるものなのだから慎重に、正確に作業しようとして、ひとつのものに時間をかけすぎてしまい、動きが遅くなってしまいました。そんな時、周りの従業員さんが、「これで大丈夫、次に行こう」と教えて下さいました。もちろん、慎重に、正確にやることは間違っていないかもしれませんが、工場では1日に何千、何万もの商品を製造していかなければなりません。ひとつのものに時間をかけてしまうと、その分1日に製造できる量が減ってきたり、作業時間が伸びたりしてしまうのです。そこで、私は、慎重に正確に、それでも速く作業するように心がけました。また、従業員さんがお互いに声を掛け合って遅れている所があればそこを手伝っている姿を見て、有効な時間の使い方に加えて、チームワークの大切さを学ぶことができました。

最後に、お忙しい中さまざまなことを教え体験させて下さった株式会社ミート・コンパニオン鶴ヶ島工場の皆様、本当にありがとうございました。この経験を、今後活かしていきたいと思います。

神頭 元気

(メディア情報学部 私立山村学園高等学校)

【株式会社共立メンテナンス】

株式会社共立メンテナンスは「顧客第一を会社の心とする」を理念とし、寮事業やホテル事業、シニアライフ事業やPKPという地方自治体の民間委託事業などさまざまな展開をしている企業です。

【実習期間：9月5日～9日】

表現力と情報処理能力の大切さ

私は、株式会社共立メンテナンスで五日間のインターンシップ実習を行いました。共立メンテナンスでは、「大学様に理想の住まいを提供しよう」というテーマのもと、実際の寮を見学し、その改装案をチームで考え最終的に大学様側にコンペを通して提案するという実習を行いました。大学様役の方にヒアリングを行い、「女子学生割合を増やしたいと同時に学生の自主性を伸ばせる寮が欲しい」とのご意見から、私たちのチームはセキュリティが整っており、学生主導のイベントが行える共有スペースを設けた、学生同士でコミュニケーションをとりながら自主性を伸ばすことができる女子専用寮を提案しました。

一日目の午前中は、チームの顔合わせを行なった後、午後は実際に使われている寮を見学しました。二日目は、どのようなコンセプトで進めていくかを話し合い、実際に提案準備を進めていき、三日目は、上司役の方への中間報告を行い、改善点の洗い出しを行いました。四日目は、中間報告で出た改善点をチームで共有して、改善を行い、五日目は、資料の最終調整をした上で実際にコンペを行いました。

今回の実習を通して私はコミュニケーションの大切さを学びました。チームで一つのことを進めていく以上結束力が大切になってきます。全員が初対面である中、最終的にはチームでコンペを成功させなければいけないため、チーム内でコミュニケーションを取りながら結束力を高めていくことが重要でした。今回の実習内ではアイスブレイクなどを通してチームのみんなと親睦を深めることによって結束力を高めました。

また、実際に大学様役の方へのヒアリングの際は、どのようなことを大学様が寮に対して求めているのかを引き出すことが重要になってきます。その際に、ただ質問をして答えてもらうだけでなく、その答えに対してなぜ考えるのかを聞くなど、情報収集の大切さを実感しました。

今回の実習を通して培ったアイデアや意見を言語化して伝える「表現力」とさまざまな情報を的確に集め、それをどう処理するかという「情報処理能力」という2種類のコミュニケーション能力を今後の就活に活かしていきたいと思います。

最後になりますが、共立メンテナンスの皆様、コロナ禍の中さまざまな調整をしていただき、このような五日間にも及ぶ貴重なインターンシップの機会を設けていただくとともに、さまざまなご指導をいただき、本当にありがとうございました。

岡庭 レイ

(メディア情報学部 東京都立芦花高等学校)

【株式会社サンエー印刷】

サンエー印刷は、足立区小台と埼玉県児玉郡に工場を持つ印刷会社です。駅などで目にするポスターや、カタログ、パンフレット等の他にも、学習塾で使用されるテキストをはじめとする、教育にまつわる印刷物も多く手がけています。

【実習期間：8月29日～9月2日】

つくることの責任

私は、株式会社サンエー印刷で5日間のインターンシップ実習をさせていただきました。主な実習内容は、小台工場での見学と梱包等の作業、グループ会社であるサン・ブレーンの情報出版部での、過去の原稿を用いた文字校正の体験、オンデマンド部の見学、営業部同行です。

私が実習を通して最も印象に残った言葉は、「印刷は製造業のなかでも『まだ無いもの』を売る仕事」という言葉です。一般に製造業では、既に仕様や製造法が完成している場合と、ゼロから新しくこういったものを作ってほしいという要望に応える場合の両方がありますが、印刷ではほぼ全てが後者に分類されます。どんなものを作りたいのか、作ったもので何をしたいのかを汲み取り、まだ存在しないお客様の理想を実現するところに、製造業としての印刷の魅力を感じました。

4日目と5日目は営業部同行でした。この実習の中で、営業という仕事に対してのイメージが大きく変わりました。今まで営業は、新しい仕事や関係を見つけたり創り出したりすることが仕事であり、実際の制作にまつわる作業にはあまり関わらないものなのだと思っていたのですが、サンエー印刷の営業部は、制作期間の管理をはじめとした全ての工程に関わり、下版という、最終的な印刷に使用する見本に完成指示を出す仕事など、印刷物を完成させることや、完成品自体の出来に責任を持つ仕事であると伺い、驚きました。

サンエー印刷では、平版印刷・輪転印刷・オンデマンド印刷の3種類の手法を印刷物の数や表現したいことによって使い分けています。小台工場で扱っている平版印刷では、青赤黄黒の4色を細かい点で表した版を作成し、それぞれを重ね合わせて印刷することで多くの色を表現します。そのため同じ版を使って印刷しても、少しズレて重ね合わされたり、機械の速度によってわずかに濃淡が変わったりという要因で、全く同じ印刷物は出来ません。そして、印刷という仕事では、完成して納品した時点で、それ以降関わることはできません。実習中、様々な部署の仕事を間近で見学させていただいて、より良いものをつくり、また完成したものに責任を持つことの重さを学びました。

実習を通して、印刷技術に関する知識だけでなく、ものをつくること、また、それに責任を持つことなど、非常に貴重な学びを得ることができました。お忙しい中ご指導いただき、ありがとうございました。

永岡 葵

(メディア情報学部 私立白梅学園高等学校)

【株式会社サンエー印刷】

印刷だけでなく、企画・編集・デザインから、製本、梱包・物流までを一企業で行っています。学習塾等の教育部門の出版、カタログ・パンフレット・ポスター・広報誌、パッケージ等の立体物も取り扱っています。

【実習期間：8月29日～9月2日】

印刷と、人との繋がり

株式会社サンエー印刷様に5日間の実習に行かせていただきました。主に、本社・グループ連携会社実習、工場実習、営業部同行実習をさせていただきました。

一日目の午前、本社の総務部実習として、「エンパシーサークル」といって、机に円状に並べられたキーワードが書かれたカードを聞き手が、話者の話をもとに選び、そのキーワードを選んだ理由を発表する実習をさせていただきました。この実習から、伝わりやすい話の構成を考えることができました。話のお題はその場で知らされたため準備をしていない状態での発表だった点が苦勞しました。そのなかで、誰がどうしたかを順序通りに話すことを心がけました。さらに、聞き手になったときに、どのような話の順序でどのような情報があったら分かりやすいかを考えることができました。

午後は、グループ連携を行っている工場の見学・卓上カレンダー組み立て作業をさせていただきました。

二日目は、足立区にある小台工場で梱包作業・ライン作業の実習をさせていただきました。

三日目は、午前はグループ連携会社であるサン・ブレーン本社で文字校正・名刺作り、午後はオンデマンドプリントの工場内を見学させていただきました。オンデマンドプリントは小部数から印刷できるため、営業の際に持参するサンプルを営業部の方と相談して作ることもあるとお聞きしました。一企業で完結させられるからこそ、他部署間の関わりも大事にしていると感じました。

四・五日目は営業部で、四日目と、五日目午後は取引先への訪問、五日目の午前は「下版」といって、印刷の版にする前の原稿が揃っているかの確認し、貼り合わせる作業を見学させていただきました。営業部実習を通して、社内の人よりも取引先の方と交流が多いというお話をお聞きしましたが、実際に企業とお客様というより親しく話されているように感じました。営業部は全工程の始発点となる仕事であるため、後の工程を行う部署への繋がりはもちろん、そしてお客様からまた依頼したいと思っていただけるような心配りされているという点から、良い仕事には良い結びつきが大切だと学びました。このことから、繋がりを増やすために、人と関わっていく機会を増やしていこうと思いました。

最後になりますが、株式会社サンエー印刷の皆様、お忙しいところ、実習を引き受けてくださったとともに、貴重な経験と学びを提供してくださり、誠にありがとうございました。

中山 怜斗

(法学部 私立本庄第一高等学校)

【幼児活動研究会株式会社 コスモアカデミー品川】

幼児活動研究会株式会社は、園児・小学生への体育指導や保育所・保育園経営コンサルティングなど、子供の将来をより良くするための幅広い事業を行っており、日々の積み重ねを大事にしています。

【実習期間：9月1・2日、5日～9日】

子どもたちの真剣な姿勢からの刺激

私は、幼児活動研究会株式会社コスモアカデミー品川で、一週間のインターンシップ実習をさせて頂きました。おおよそ一日の流れとしては、午前中は勉強や散歩、体操を行い、お昼ご飯を食べた後の午後からは、読み聞かせや縄跳びを取り入れた運動、音楽を行います。

実習初日は、まず一日の流れと子どもたちの名前を把握することから始めました。一週間とはいえ、自ら寄り添わなければ信頼関係を築くこともできませんし、一日の流れから次の行動を予測して動くようにし、また、常に周りを気にかけて行動するようにしました。

二日目以降は、一人一人の名前と流れを把握したことで、スムーズに動けるようになりました。そこからは、子どもたちのお手本となることを意識して、活動に取り組みました。

実習中は、勉強の補助や運動、読み聞かせなど、様々な活動に参加させて頂きましたが、子どもは吸収が早く、一週間のうちにできなかったことができるようになった子もいました。先生が「子どもの成長を見ていると私たちも刺激をもらえる」と仰っていましたが、まさにその通りで、子どもの成長の瞬間に立ち会えると、それがまるで自分のことのようにうれしい気持ちになりました。

また、毎日頑張ってきたことが実ただけで特別なことが起こったわけではありません。一日一日をどう過ごすか、どのように指導するかがいかに重要であって、先生方の子どもたちに経験させる指導の姿から多くのことを学ばせて頂きました。

実習を行って、子どもと関わることを通じ、相手の気持ちを理解すること、相手の立場になって考えることの大切さを学びました。また、「人として大切なことを伝える」、「子どもの見本になる」という先生方が大事にされていることは、子どもを成長に繋げてあげるための道標でもあり、子どもと真剣に向き合うことで、子どもの中に人としての立派な土台ができあがっていくのだと思います。

全体を通して、私は道筋を立てて、考えて行動することが当たり前だと思っていますが、子どもにはそれが難しく、体で感じた感覚で成長をしているのだと感じ、柔軟性に長けていると思いました。指導者から学ぼうとする子どもたちの姿は凛々しく、その姿から、日頃の感謝を忘れないことや失敗を恐れないことの大切さに改めて気付かされました。

最後になりましたが、お忙しい中、実習を引き受けて下さいましたコスモアカデミー品川の皆様、貴重な経験をさせて頂き、深く感謝申し上げます。一週間本当にお世話になりました。ありがとうございました。

山関 貴大

(法学部 私立大東文化大学第一高等学校)

【幼児活動研究会株式会社 コスモアカデミー品川】

幼児活動研究会株式会社は、幼児教育を通じて「誰もが夢を描ける社会」、「自らに誇りを持てる社会」、「相手を思いやれる社会」、次の未来をつくることを目的とし、子どもの可能性や成長を育む教育を行っています。

【実習期間：9月1日～9日】

褒めて伸ばすことの重要性

私は、幼児活動研究会株式会社のコスモアカデミー品川にて、一週間ほどインターンシップ実習を行わせていただきました。コスモアカデミー品川では、体操だけでなく、縄跳びや鉄棒、音楽、読み書きの学習も行っています。体操の補助に入ることもあれば、子ども達と一緒に走る時もありました。学習の時間には、採点の手伝いを行いました。このように、私が行ったのはサポート中心でしたが、その中で、子どもの成長や気づきを見守っていました。

まず、子ども達に警戒されて距離をとられたらどうしようという不安の中、挨拶をさせていただきます。すると、心配とは裏腹に、子ども達は無邪気な笑顔で近寄ってきて、その笑顔に心打たれました。

初日に担当の方が「体操で教える、成功体験をつくる」と仰っていましたが、その時はあまり言葉の意味を理解できていませんでした。しかし、実習を行っていくうちに少しずつ理解できるようになりました。逆立ちの練習の時、先生は、しっかり補助するのではなく、少し支えるだけのように見えました。しかし、ある子が目標を達成し、「先生みてみて」と言うと、「〇〇くんすごいね！次はもっとやってみよう！」と全力で褒めておられ、その子自身も満足げな表情を浮かべながらすぐに練習に戻っていました。そして、その様子を見た周りの子ども達も、その子に負けまいと熱心に練習に取り組むようになりました。その姿を見て、感心するとともに、あくまでも子どもに自分でやらせる中での成功体験こそが将来に向けての大きな自信に繋がるのだと学びました。

上のエピソードでもそうですが、コスモアカデミー品川が大切にしていることの一つは、とにかく褒めて伸ばすということです。体操の時はもちろん、学習の時間でも、子どもの姿勢や手の挙げ方といった細かい部分までを先生方は見られていて、褒めたりポイントを付けてあげたりして、子ども達のやる気を引き出していました。私も、全体を見て、小さな事でも褒めてあげることが意識しましたが、褒める点を見つけることがそもそも難しく、また、褒め方のバリエーションも少なく、苦労しました。そこで、まず、子ども達の名前をいち早く覚える努力をしました。子どもは、何をすることも、先生の視線を自分に向けさせようとします。ですから、ただ褒めるだけでなく、名前を呼びながら褒めてあげることにより、より大きな成長を促せると考えたのです。そして、その通りであると感じました。

最後になりましたが、実習を引き入れてくださり、貴重な経験をさせていただいた幼児活動研究会株式会社、コスモアカデミー品川の皆様に、感謝申し上げます。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

8. 地域インターンシップ報告会

2022年度の「地域インターンシップ」も、2021年同様、コロナ禍が続く中ではありましたが、実施の方向で動きだしました。しかし、実習先が確保できるかどうか最大の懸念材料であり、2021年度同様、早目の3月に実習受入れのお願いをさせていただきました。すると、ありがたいことに、82企業・団体が実習受入を承諾してくださり、200人を超える実習枠を確保することができました。この「地域インターンシップ」は、地域の皆様の協力があって初めて実施できるものであり、この厳しい状況の中でも、実習を引き受けてくださる企業・団体がこれだけいらっしゃることに、ただただ感謝するのみです。

さて、就職状況がやや不透明な中、今年も、ガイダンスには多くの学生が集まりましたが、第1回授業には、ほぼ適正規模の学生が参加するに留まりました。それでも、一応選考を行った結果、86名（3年次生65名、2年次生21名）の履修登録者で、春学期における「地域インターンシップ」の事前研修をスタートさせることになりました。

「地域インターンシップ」は、春学期に事前研修、夏休みにインターンシップ実習、秋学期に事後研修として報告書の提出と報告会を行います。

春学期の事前研修では、社会で活躍する卒業生を招いて自らの経験に基づいて「働くこと」についてお話しいただいたり、姿勢や笑顔の指導を行っていただいたりします。今年度は、新井同窓会長を始めとして4人の卒業生、昨年度「地域インターンシップ」を履修した4年生2人にご協力いただきました。また、飯能市役所のご協力のもとに「公務員の仕事」の階を設けています。さらに、キャリアセンターの石橋英理講師にご協力いただいて、マナー講座を行いました。加えて、この事前研修の中では、挨拶の励行、迅速な行動、時間厳守（遅刻をしない）、報告の徹底など、さまざまな指導を行います。これらは、どうしても対面で行わなければ成り立ちません。駿河台大学でも、春学期は、新型コロナウイルス感染防止対策として、少人数のゼミナールを除き、ほとんどの講義がオンラインで行われましたが、「地域インターンシップ」の事前授業は、ご指導いただく講師の方々も対面での授業に同意くださったこともあり、学生にも協力を求めて、対面で実施いたしました。そして、幸いにも、無事対面による事前研修を終えることができました。

そして、夏休みに、インターンシップ実習を実施する運びとなりました。しかし、夏休み期間が、新型コロナウイルス感染の大きな波と重なったために、実習期間を大幅に変更せざるをえなかったり、本来であれば1週間から2週間（5日から10日）お願いしてきた実習期間を短縮せざるをえなかったりなど、さまざまな問題が生じました。それでも、地域のみなさまが何とか実習を行ってくださったおかげで、何とか履修生全員が、42の企業団体において実習を行うことができました。

秋学期には、インターンシップ実習を行った学生たちは、事後研修として、実習報告書を提出し、担当教員の厳しい添削を受けます。これが、報告の核となります。そして、リハーサルを経た上で、「地域インターンシップ」報告会に臨みます。

報告会も、教育効果を考え、感染防止策を十分にとった上で、対面で行うこととしました。ただし、2022年度は、実習先の企業・団体のみなさまに大学にお出でいただく他に、Zoomを用いたオンラインでの参加も可能としました。ありがたいことに、合わせて24の企業・団体の方々にご参加いただきました。今後も、このような形をとっていきたいと考えています。

さて、報告会の開催は、10月6日（木）でした。

インターンシップ実習を行った学生全員が3101教室に集合し、15時15分に報告会は開会し、まず大森一宏学長にご挨拶いただき、そして、「地域インターンシップ」は駿河台大学同窓会の寄付講座となっていますことから、新井克明同窓会長にご挨拶いただきました。

そして、その後 15 時 30 分から、3102、3103、3306、3307、3405 の五教室に分かれて、学生たちの報告が開始されました。司会は、授業を担当した 5 人の教員が努めました。ただし、コロナ感染などにより、3 名は報告に加われなかったのは、残念でした。

2022 年度も、2021 年度に続いてコロナ禍という厳しい状況の中で実習を行った学生たちだったためか、実習を終えた学生たちは、大きな成長を遂げたことが窺え、リハーサルの時からかなりしっかりした報告を行っていたのですが、本番では、さらに、色々と工夫をした発表を行ってくれました。実習中に来ていた制服を着たり、自らが作った成果物を手に発表したり、グループの発表で、見事な掛け合いを披露したりと、司会をしている教員も驚くほどの報告を繰り返してくれました。実習での苦労や達成感など、その内容も極めて充実したものでした。

そして、実習先の方々が教室にお出で、あるいは、オンラインで参加されている場合には、学生の報告の後に、感想などをお願いしましたが、とてもお喜びいただき、極めて暖かく評価していただいた上で、実習した学生だけでなく、その教室の学生全員に感銘を与えるような話をしてくださいました。

報告会では、例年通り、各教室の報告者に対して、発表の相互評価を実施しました。自分以外の発表に対して、「メッセージ性」、「表現上の工夫」、「プレゼン力」を踏まえて、5 点満点の総合評価を与えるというものです。そして、その評価を集計して、各教室上位二組に「優秀プレゼンテーション賞」を授与しました。結果は下記の通りです。

順位	3102 教室	3103 教室	3306 教室	3307 教室	3405 教室
第 1 位	(株)武蔵臨床検査所	日高市役所	(株)ピーオーエス	幼児活動研究会(株)	(株)酒商増田屋
第 2 位	(同点で 2 組) 飯能市役所 飯能市立博物館 南高麗地区行政センター	飯能信用金庫	ツインスターテクノロジー(株)	(株)温泉道場	(福)陽明福祉会 陽明保育園

かつては、各教室での発表を終えた後は、すべての報告者（実習参加者）と、おいでいただいた実習先のみなさまとで、大学会館 4 階において懇親会を開催し、「優秀プレゼンテーション賞」の授与式なども行うのですが、今年度は、新型コロナウイルス感染を防止するために、残念ながら中止となってしまいました。

本学の「地域インターンシップ」は、地域のみなさまのご協力により、教育を主眼とし、「社会」を主体的に学ぶ場を学生に提供し、その就業力を伸ばし、地域社会で活躍する人材を育成しようとするものです。埼玉県西部地区を中心とした企業・団体のみなさまのご協力とご理解によって、2020 年度は中止いたしました。19 年前から続けているものです。

また、駿河台大学同窓会の寄付講座として、資金や講師などで、同窓会より多大な支援を得ています。

実習を終えて秋学期の事後研修に現れた学生たち、そして、報告会で報告を行う学生たちの姿を見れば、地域の皆さまに温かく支えられ、教え導いていただいたことにより、学区制たちが大きく成長できたことが実感できます。担当教員として、改めて地域インターンシップの価値を実感するとともに、地域の皆様、そして同窓会の皆様に感謝申し上げます。そして、来年度も、多くの学生が参加して、実りある「地域インターンシップ」が実施できますことを願っています。

9. 企業・団体が求める人物像（社会人インタビューの実践）

埼玉県の補助により 2016 年度に県内企業魅力発見事業「社会人インタビュー」が実施され、翌 2017 年度からは、その内容を、「地域インターンシップ」が継承し、実習先について調べる「実習先研究シート」に、「発展研究」として、「実習先が求める人物像」、「実習生から見た実習先の魅力」という二項目を追加しました。ここでは、その中から、就活を行う上で有益だと思われるものを紹介します。（ある程度、業種によってまとめています。）

入間市役所
・市民の為に色々なことを工夫して実行できる人
所沢市役所
・何事にも挑戦できる人 ・素直な人
飯能市役所
・与えられたことにも疑問を持ち、自分の意見を言えるコミュニケーション能力がある人 ・仕事人間にならない人 ・自分の身体を大切にできる人 ・市民との対話を重視し、市民目線で働ける人 ・一つの能力ではなく、マルチに対応できる人
日高市役所
・スピード感と正確性を持つ人 ・郷土愛がある人 ・精神的に強い人
入間市商工会
・主に「協調性」、「向上心」、「素直さ（吸収力）」が必要
一般社団法人奥むさし飯能観光協会
・コミュニケーションがよくとれる人 ・基本的な Word、Excel などが使える人
株式会社武蔵臨床検査所
・信頼関係を築くため、ミスを繰り返さないよう努力し、誠心誠意仕事に取り組む人 ・努力を継続してお客様第一に思いやる気持ちを持てる人 ・失敗を恐れなくて努力と挑戦ができる人
株式会社ヴェルペンファルマ
・広い視野、多角な視点で物事を見られる人 ・協力し合える人 ・自主勉強ができる人 ・地域の人のために頑張れる人
社会福祉法人 桑の実会
・元気で明るさのある人 ・暴れられてもこちらから利用者の方を傷つけない我慢強さのある人 ・ただ励ますだけでなく利用者の方の気持ちに寄り添うことができる人
NPO 法人ぬくもり福祉会たんぽぽ
・優先順位を考えた行動 ・責任を持った対応を行うことのできる人

社会福祉法人 茶の花福祉会
<ul style="list-style-type: none"> ・人との関わりが好きな人 ・共に成長するという意識や自立を支援する意識がある人 ・何事にも落ち着いて対応できる人
社会福祉法人 羽博会
<ul style="list-style-type: none"> ・施設利用者の方の人間性を尊重する人 ・利用者の異変や変化によく気付き、利用者に対して一人の人間として接してくれる人
社会福祉法人 陽明福祉会 陽明保育園
<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつなどの基本的なことがらができる人 ・学び続けられる人 ・突然の事態やトラブルに対し、臨機応変に動ける柔軟性
幼児活動研究会株式会社
<ul style="list-style-type: none"> ・小さな成功や成長に気づき褒められ、子どもの成長を支えることに喜びを感じられる人 ・広い視野を持つことができる人 ・人として大切なことを伝えることができる人
飯能ケーブルテレビ株式会社
<ul style="list-style-type: none"> ・人が見ていないところでも努力できる人。 ・成長しようとする意志がある人
株式会社サンエー印刷
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを取ることができ、協調性を大切に、前向きに仕事に取り組める人 ・固定観念にとらわれず、柔軟な考え方ができる人 ・物事を吸収するために、意欲を持って素直に取り組める人
小林税理士事務所
<ul style="list-style-type: none"> ・素直で明るくて前向きな人 ・努力を怠らない人
税理士法人サム・ライズ
<ul style="list-style-type: none"> ・熱心に挑戦し続ける人 ・報連相を徹底できる他、協調性があり、自分の意見をしっかりと伝える等のコミュニケーション能力のある人
飯能信用金庫
<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考えて行動する人（コミュニケーション能力、積極性、柔軟性、自己管理能力） ・会社を変えようとする意欲がある人 ・地域を元気にしたいと考える人、地域をよくしていきたいという想いに共感できる人
株式会社酒商増田屋
<ul style="list-style-type: none"> ・人との縁を大切にでき、明るく元気に人と接することができる人 ・お客様への対応が好きな人 ・地域の方々と接する事が好きな人
株式会社スズキトラスト
<ul style="list-style-type: none"> ・お客様のニーズに合った対応ができ、様々な提案ができる、積極的で、課題発見能力のある人 ・困った時に助けてくれる、相談しやすい場を作れる明るい人

株式会社ホンダカーズ埼玉西
<ul style="list-style-type: none"> ・明るく前向きな人物 ・自分で考えて判断をし、行動できる人
株式会社ホンダプロモーション
<ul style="list-style-type: none"> ・人と話すことが好きで、元気で明るく、はきはきとした態度で接客できる人 ・周りの人と協調性を持って行動できる人 ・失敗したり、すぐ成果が出なくとも、あきらめずに向上心を持って努力を続けられる人
株式会社ピーオーエス
<ul style="list-style-type: none"> ・色々なことにチャレンジしてくれる人 ・自分で何をすればよいのか考えられる人（自主的に行動できる人）
株式会社ヤオコー
<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶ができる人 ・商品に興味を持ち、仕事を楽しんでできる人 ・人との繋がりを大切に人。チーム力がある人
赤門塾株式会社
<ul style="list-style-type: none"> ・何事にも前向きに頑張る人 ・人の役に立つ事に喜びを感じられる人
株式会社いわさき
<ul style="list-style-type: none"> ・相手への共感力が高い人 ・奉仕の心を持ち、これをしてあげたいという気持ちと向上心がある人
株式会社エステート白馬
<ul style="list-style-type: none"> ・環境や周りの変化に対応できる人 ・お客様に親切にかつしっかりした態度で対応できる人 ・個性のある人、自分の個性をよく理解している人
株式会社共立メンテナンス
<ul style="list-style-type: none"> ・広い視野でサービスを考え行動できる人 ・お客様のニーズを適切に捉えて主体的自発的に答えられる人 ・連携を大事にしてチームのクオリティを高められる人
西武ガス株式会社
<ul style="list-style-type: none"> ・しっかりとあいさつが出来る人 ・少しずつでも成長をしていくことで会社を支えることが出来る人
株式会社ダスキンくりはら
<ul style="list-style-type: none"> ・明るく元気で周囲を和ませ、社交的で挨拶ができ、着実に成長していける人 ・良い意味で印象に残る人物
株式会社 松本商会
<ul style="list-style-type: none"> ・聞く力と対応力を持っており、知識を身に着ける意識が高い人
株式会社おごせロイヤル
<ul style="list-style-type: none"> ・前向きな姿勢で、学ぶ意欲のある人 ・自ら行動する人 ・お客様の要望を接客に通じて「実現」できる人

NPO 法人 名栗カヌー工房
<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶ができ、明るく元気なモノづくりが好きな人 ・老若男女幅広い方との接客経験を積むことができる人
株式会社温泉道場
<ul style="list-style-type: none"> ・素直で、勉強好き、プラス発想の人 ・地域活性化や、町おこしに興味がある人
Fun Space 株式会社 さわらびの湯
<ul style="list-style-type: none"> ・明るく元気な人 ・どんな仕事で諦めず、最後まで粘り強くやる人、意欲がある人
埼玉県立名栗げんきプラザ
<ul style="list-style-type: none"> ・プラザの特徴を使い、面白く新しいアクティビティが思いつけるような人
鳥居観光株式会社
<ul style="list-style-type: none"> ・会社の理念を理解し、かつ共感ができる人 ・公益性・公共性を持ってビジネスができる人 ・自分に厳しく、他人に優しくでき、ここぞという時に踏ん張れる人
ムーミン物語
<ul style="list-style-type: none"> ・元気があり、笑顔で接客ができる人、コミュニケーション能力がある人 ・挨拶やアイコンタクト、身だしなみ、笑顔、言葉遣い、立ち振る舞いができる人 ・仲間やチームワーク、職場内の連携を大切にできる人 ・スタッフ自身が成長を感じ、お互いに喜び、褒めあえる人 ・ゲストも自分も楽しく、ポジティブにいられるよう、想像力のある人 ・自分に何ができるのか、覚えたことをどのように使うのかなどを考える人
ウチノ看板株式会社
<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりが好きな人 ・言われたことをしっかり出来る人
ツインスターテクノロジー株式会社
<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶がよくでき、相手の立場や考えを理解して笑顔でいる人 ・与えた仕事や見つけた仕事に対してすぐに取り掛かる行動力のある人 ・仕事や課題に対して受け身ではなく自分から見つけに行く意識がある人 ・仕事を通じて社会に貢献したという意力がある人員。 ・約束を違わず、陰口・告げ口は言わず、常識を軽視しない人 <p>ミスを恐れずぐずぐず言わずに挑戦して、困難に立ち向かう</p>
飯能精密工業株式会社
<ul style="list-style-type: none"> ・指示や命令をされなくても自ら行動ができる人 ・お客様の視点に立つことができる人
株式会社松下製作所
<ul style="list-style-type: none"> ・粘り強く物事と向き合い、難しくても出来るところから取り組もうとする姿勢をもつ人 ・素直な人 ・人の話を良く聞き、自分を大きくも小さくも見せない人
株式会社ミート・コンパニオン
<ul style="list-style-type: none"> ・時間を読む力を持つ人

10. 駿大社会人基礎力による効果測定

駿河台大学は、2013年度に、学生が在学中に身に付けるべきジェネリック・スキル（社会で活躍するために必要とされる汎用的な力）を「駿大社会人基礎力」として定めて、学生の就業力の向上に努めてきました。そして、2021年度には、それを再構成して、次の5つの能力、15の能力要素よりなる「駿大社会人基礎力 Ver.2」としました。

- | | |
|-----------|------------------------------|
| 1. 基礎的な力 | ① 言語処理力、② 非言語処理力、③ 情報収集力 |
| 2. 考える力 | ④ 論理的・多面的思考力、⑤ 情報処理力、⑥ 構想力 |
| 3. 行動に移す力 | ⑦ 主体的行動力、⑧ 自己統制力、⑨ 自信育成力 |
| 4. 協働する力 | ⑩ コミュニケーション力、⑪ 統率力、⑫ チームワーク力 |
| 5. 総合的な力 | ⑬ 課題発見力、⑭ 計画力、⑮ 問題解決力 |

この社会人基礎力は、ルーブリックである「駿大社会人基礎力 (Ver.2) セルフチェック票」によって、「1. 基礎的な力」と「2. 考える力」は5段階に、「3. 行動に移す力」、「4. 協働する力」、「5. 総合的な力」は7段階に自己採点できるようになっています。

「地域インターンシップ」（授業としては、「インターンシップ I / 地域インターンシップ」）では、この「駿大社会人基礎力 Ver.2」を用いて、事前研修開始時（授業開始後、履修者が確定した4月末）と、事後研修終了時（10月報告会）において調査を行いました。

2022年度のインターンシップ実習参加者は86人（2年次生21人）でした。4月は、授業に1名多く参加しており、10月は十分なデータ収集ができなかったため、データ数は、4月：n=87、10月：n=61となっています。（2021年度は、5月：n=74、10月：n=71）

個々人の成長度合い等も分析可能ですが、ここでは、平均値による分析に留めます。

2022年度の5つの能力に関する結果は次の通りです。（引き算は元データによります。）

	2022		2021	
	1	2	1	2
開始時 (A)	2.80	2.90	3.15	3.14
終了時 (B)	3.28	3.38	3.38	3.37
B-A	0.49	0.48	0.22	0.24
B-A (7点換算)	0.68	0.67	0.31	0.33

	2022			2021		
	3	4	5	3	4	5
開始時 (A)	3.57	3.59	3.48	4.09	4.13	3.78
終了時 (B)	4.34	4.19	4.16	4.49	4.40	4.23
B-A	0.77	0.61	0.68	0.39	0.28	0.45

授業としてのインターンシップに参加するのは元々積極的な学生であり、「地域インターンシップ」参加者は、初めから自己評価が高い傾向にあったと考えられます。さらに、2021年度は、厳しい選考が行われたため、2022年度よりも高い値を示しています。それでも、「1」と「2」の中央値が3、「3」・「4」・「5」の中央値が4であることからすれば、必ずしも「高い」ということはできません。

しかし、2022年度は、2021年度に比して、「地域インターンシップ」前後ですべて0.6を超える大きな伸びを見せ、2021年度に追いついています。特に、通常の授業ではなかな

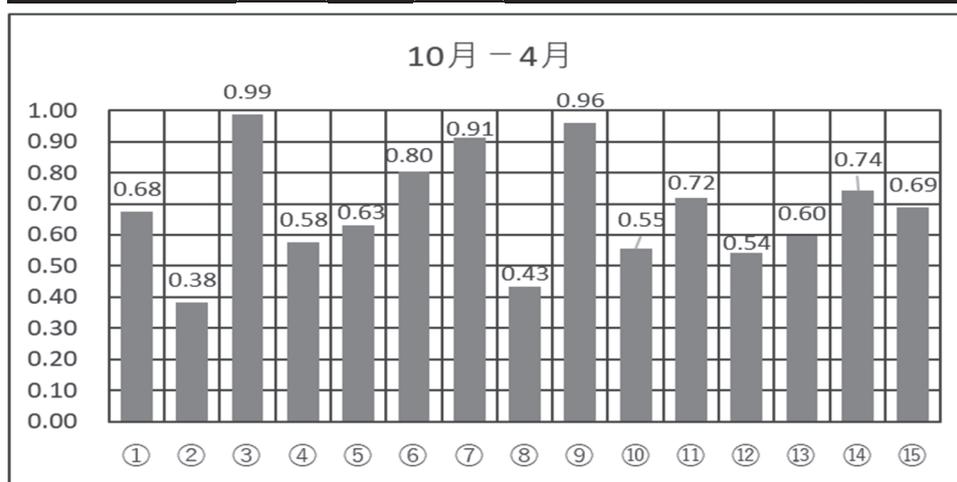
か延ばすことが難しい「3. 行動に移す力」、「5. 総合的な力」が大きく伸びているのは、「地域インターンシップ」の特色と考えていいでしょう。「地域インターンシップ」の狙い通りの成果が出たという点で、非常に嬉しく思います。

さて、15の能力要素の結果は次の通りです。

能力	1. 基礎的な力			2. 考える力		
能力要素	①	②	③	④	⑤	⑥
開始時 (A)	2.86	2.76	2.77	3.31	2.75	2.66
終了時 (B)	3.34	3.03	3.48	3.72	3.20	3.23
B-A	0.48	0.27	0.71	0.41	0.45	0.57
B-A (7点換算)	0.68	0.38	0.99	0.58	0.63	0.80

- ①言語処理力、②非言語処理力、
③情報収集力
④論理的・多面的思考力、
⑤情報処理力、⑥ 構想力
⑦主体的行動力、⑧自己統制力、
⑨自信育成力
⑩コミュニケーション力、
⑪統率力、⑫ チームワーク力
⑬課題発見力、⑭計画力、
⑮問題解決力

能力	3. 行動に移す力			4. 協働する力			5. 総合的な力		
能力要素	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
開始時 (A)	3.68	3.98	3.06	3.84	3.30	3.62	3.40	3.47	3.57
終了時 (B)	4.59	4.41	4.02	4.39	4.02	4.16	4.00	4.21	4.26
B-A	0.91	0.43	0.96	0.55	0.72	0.54	0.60	0.74	0.69

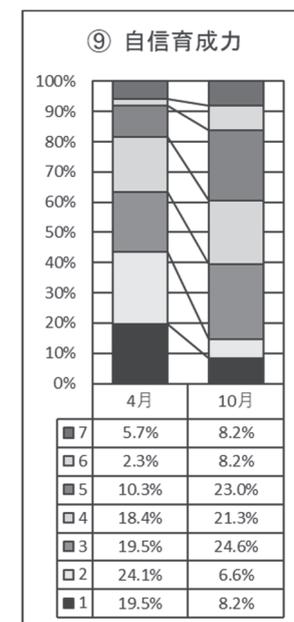
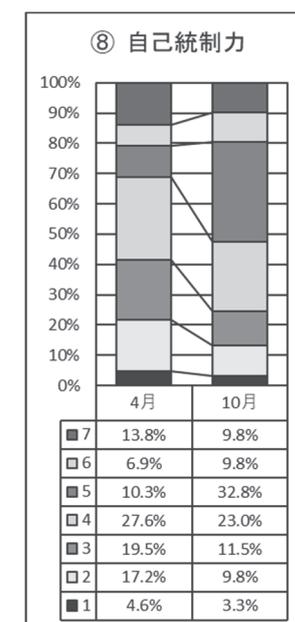
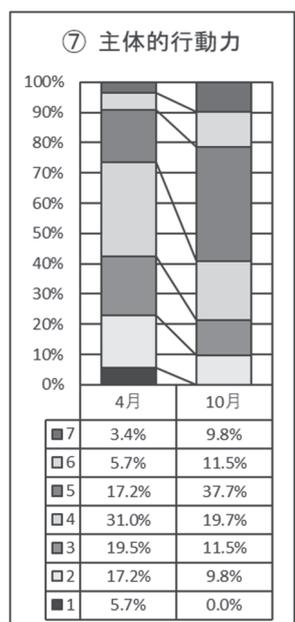
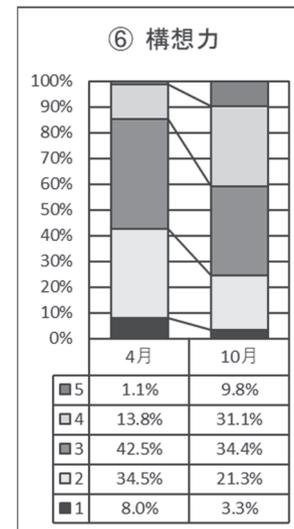
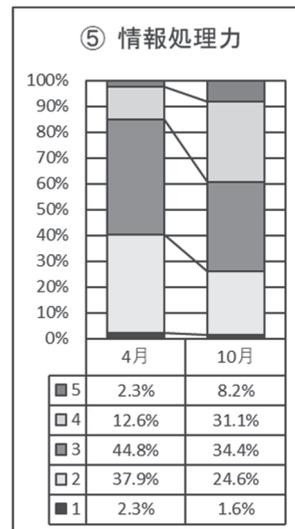
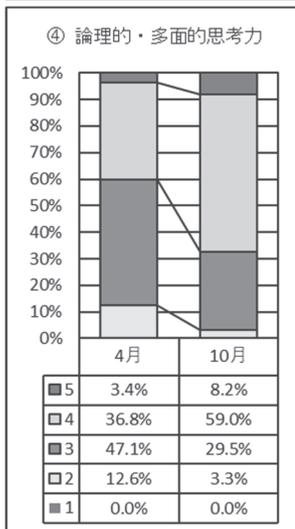
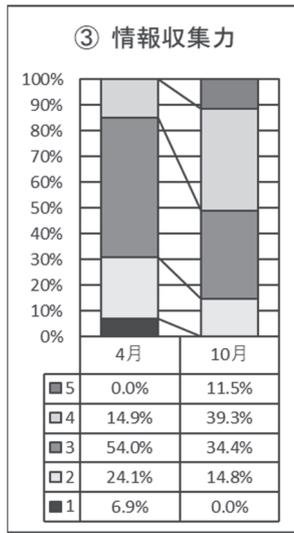
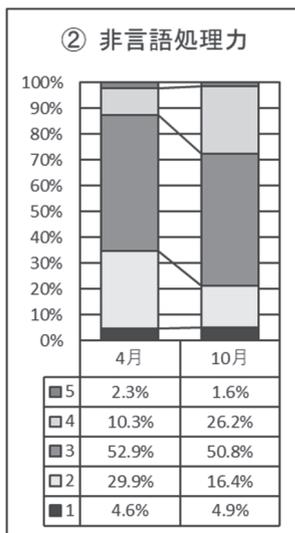
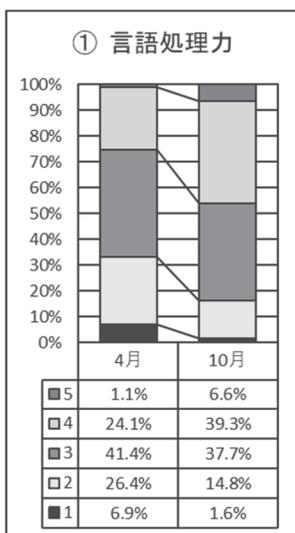


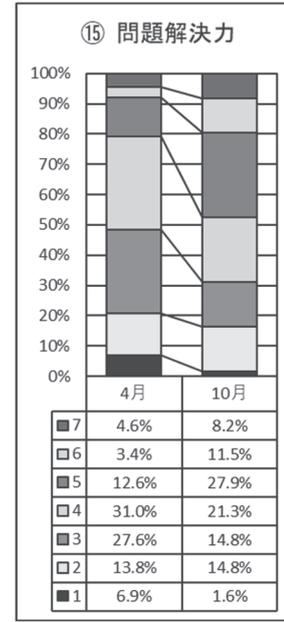
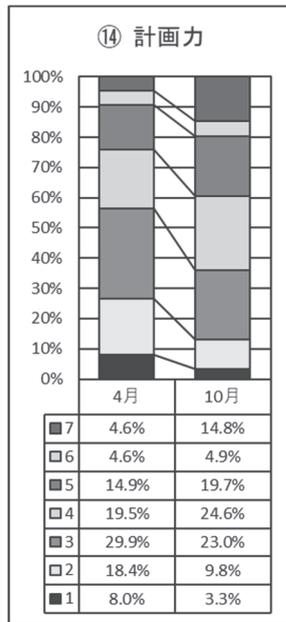
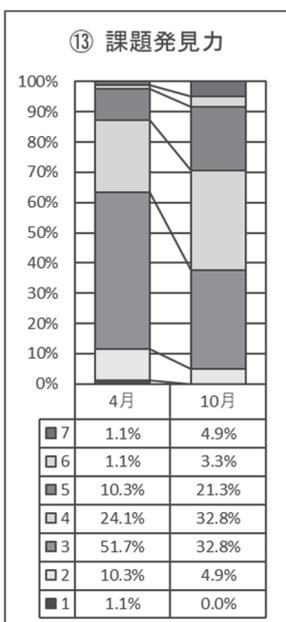
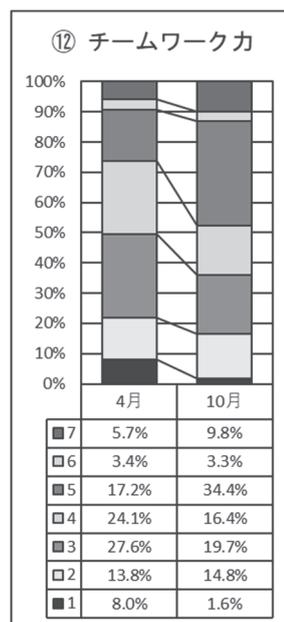
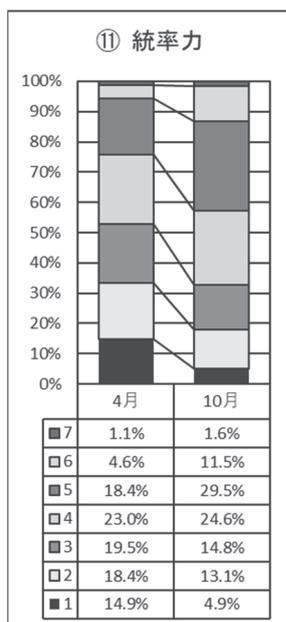
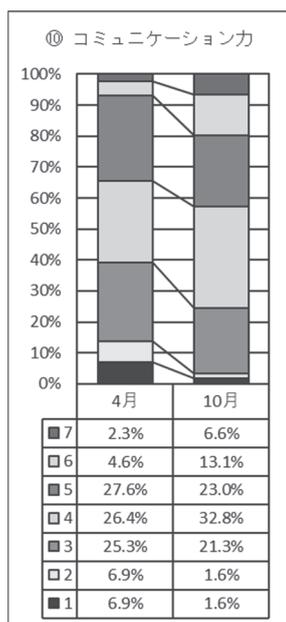
2022年度4月末の段階で中央値を上回ったのは、「④論理的・多面的思考力」のみです。また、「⑨ 自信育成力」が最も低くなっているのは、例年通りであり、本学が抱える大きな問題です。また、「⑪統率力」と「5. 総合的な力」の能力要素がすべて4を大きく下回っているのも、同様です。

しかし、その中、「③情報収集力」、「⑦主体的行動力」、「⑨ 自信育成力」が0.9ポイントを超える伸びを見せたこと、「⑥ 構想力」がそれに次ぐ伸びを見せていることは、「地域インターンシップ」の面目躍如と言えるのではないのでしょうか。また、「5. 総合的な力」の3能力要素も、「⑪統率力」とともに、0.6ポイント以上の伸びを見せています。弱点の克服が見られるという点で、「地域インターンシップ」の狙っている効果が表れたものとして、嬉しい結果です。

しかし、「②非言語処理力」と「⑧自己統制力」の伸びが低いのはやむなしとしても、「⑩コミュニケーション力」と「⑫ チームワーク力」の伸びが最低レベルであったことは、残念です。ちょっと検討する必要があるでしょう。

各能力要素の自己評価の分布は次のようになります。上の方が高いポイントとなります。





ここからも、「② 非言語処理力」や「⑧自己統制力」ではあまり伸びが示されなかったことが見てとれます。特に「⑧自己統制力」は、高いポイントで評価した割合が減っている点で、やや不可解です。しかし、これらに関しては、必ずしも「地域インターンシップ」がその伸長を目指している能力要素というわけではないことをご了解ください。

自己評価だという点は考慮に入れなければならないでしょうし、1ポイントを超えるような「顕著」な向上が示されたわけではないことは認めざるをえません。しかし、2021年度に比して、0.9ポイントを超える伸びを示した能力要素があることから、少なくとも、「地域インターンシップ」の狙いはある程度達成されたと考えます。

ただし、これに満足せず、来年度も、より良い成果を得られるよう努めていく所存です。

インターンシップ実習風景



名栗カヌー工房



羽博会



鳥居観光



ヴェルペンファルマ



飯能市立博物館



ウチノ看板



ツインスターテクノロジー



飯能ケーブルテレビ



飯能市立図書館



松下製作所



JGM おごせゴルフクラブ



いわさき

— 駿河台大学憲章 —

ひとりひとりと

ひとりひとりの歩幅はちがう。
ときに並んで歩き、ときに手を引く。
我々は学生に対し愛情をそそぎ、
真の教育を実践する。

駿河台大学は、一世紀近くに亘ってわが国の教育の基礎を支え続けてきた駿河台学園を母体として創設されました。その建学の精神である「愛情教育」は、「学生一人ひとりに対する愛情がなければ、真の教育はできない」という信念を表現したもので、本学の教育にも脈々と継承されています。

我々はこの建学の精神を確認し、教職員一体となって、さらなる大学の発展をめざすことを決意して、駿河台大学憲章を定めます。

私たちのめざす教育

- ひとりひとりの多様な個性と夢を尊重し、真摯に向き合い、ともに学ぶ教育環境を創ります。
- 変化の著しい社会において、自立的かつ主体的に生きることのできるひとを育みます。
- 常にグローバルな視野に立って、地域社会の未来を担えるひとを送り出します。

私たちのめざす研究

- 学問の進歩に貢献する質の高い研究を行い、その成果を教育及び社会に積極的に還元します。
- 文系総合大学として学際的な研究を充実させ、人類の進歩と平和に貢献する研究を行います。
- 地域の課題解決に資する研究を通じて、地域社会の発展に寄与します。

私たちのめざす地域との協働

- 地域に根ざした大学として、豊かな自然・文化に育まれた「地域の教育力」を尊重します。
- 地域社会と協力しながら、まちづくり・ひとづくり・ものづくりに積極的に取り組み、地域社会の活性化に努めます。
- 地域の「知の核」として、社会人の再学習や生涯学習の機会を提供し、地域社会の発展に貢献します。

駿河台大学は、これらの使命を果たすために、恒常的な自己点検評価を行うとともに、第三者からの評価等を真摯に受け止めて不断の改善に努め、健全かつ安定した大学運営をめざします。

[2012年12月制定]

[2017年10月改定]



地域インターンシップ'22

2023年3月 発行

発行：駿河台大学地域連携課

〒357-8555 埼玉県飯能市阿須 698

TEL. : 042-972-1181

FAX. : 042-972-7767